

えっ、自分ステイゴールド産駒なんすか？

えびんす

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ひよんなことから馬に転生した主人公がなんやかんや活躍するn番煎じネタ。息抜きなので続くかは知らない。

日刊ランキングで10位をいただきました
皆さんありがとうございます

目次

キャラクター紹介 e t c .

番外編「アプリのウツドストック」

1

本編

馬になったわね（ガチ）

8

お名前、決まりました。

13

例えるならエロ本見てるのを親に見つ

かった時のような

24

出会いは突然すぎて準備できるもので

はない

32

デビュー戦は鮮烈に

42

つかの間のひととき

51

迷いと、覚悟

58

幕間くるとある掲示板のスレく

72

幕間2 ウツドストックがウマ娘に

なったら

86

弟と

95

初めての重賞レース

105

ウツドストック、やらかす。

122

馬体艶々のやべーやつ

132

厩舎のボスは誰？

149

Side pretty Ep. 00

1 『あたし』はウツドストック

158

幕間3くるとある掲示板のスレその2く

341	G I、波乱、好敵手共々中編	
330	G I、波乱、好敵手共々前編	
278	幕間5々とある掲示板のスレ4	
258	幕間4々とある掲示板のスレ3	
	ウツドの父性?	241
	たら	207
	番外編 ウツドストックがアプリにい	
	G II、再会	189
		170

	G I、波乱、好敵手共々後編	
349	箸休め—ウツドストックと生徒会—	
369	馬主騒動—前編—	
		376

キャラクター紹介 e t c .

番外編【アプリのウツドストツク】

ウマ娘プリティーダービー

キャラクター紹介

「あたしの走り、よく見ときなよ。心が燃え滾るような、熱い夢を魅せてあげる」

【I will ROCK YOU!!!】

ウツドストツク ☆☆☆

キャッチコピー：レースも音楽も全力全開！世界を揺るがす“ロックスター”

自己紹介：あたしはウツドストツク。音楽とレースが大好きなウマ娘さ。あたしとア
ンタの名前、世界に轟かせてやろうぜ！

学年：高等部

所属：栗東寮

音楽とレースをこよなく愛するウマ娘。休日は駅前でストリートミュージシャンをしている姿を目撃される。

男勝りな口調とパンクな姿から誤解されがちだが、本人は温厚で世話焼き、成績も優秀。ギャップにやられた後輩ウマ娘たちに慕われている。

ゴールドシツプやトーセンジョーダンと仲がよく、そのためかよく二人の喧嘩に巻き込まれている。

誕生日：4月15日

身長：167cm

体重：増減なし

スリーサイズ：B86 W60 H84

毛色：鹿毛、右目よりの流星あり

耳飾り：右側、黄色い羽根飾り

髪型：セミロングのウルフカット。流星に沿うように黄色のメッシュを入れている
容姿：切れ長つり目、美人系の顔立ち。リョテツとしている

勝負服：ゴスペンク系、シヨートデニム、ニーハイブーツ

私服：シンプルな白シャツとグレーのジャケット、デニムパンツ

得意なこと：ギター、料理

苦手なこと：道を覚えること

耳のこと：毛が柔らかいのが自慢

尻尾のこと：意外と丁寧にケアしている

足のサイズ：両足とも25.5cm

家族のこと：ガサツなのは母譲りらしい

ウツドストツクのヒミツ その①

・実はものすごい方向音痴。

ウツドストツクのヒミツ その②

・実はオーディオ機器にはかなりこだわりがある。

ウツドストツクの一コマ

・【中庭ライブ！】中庭のベンチで楽しげにアコギを弾き語るウツドストツク。モブウ

マ娘が黄色い悲鳴をあげている。

【ボイス】

ホーム画面

「トレーナー、ネクタイが曲がってるぜ。姿見を見る時間ぐらい作ったほうがいいぞ

……ほら、これでよし。あたしの相棒らしくなった」

「昨日、フラッシュに洋菓子の作り方教わったんだけど、つい作りすぎてさ。苦手じゃなかったら、トレーナーも食べるの手伝ってくれよ」

「今日は駅前でストリートライブやるんだ。暇だったら来てくれ。あたしの演奏、特等席で聴かせてやるよ……演奏者側としてな！ ギター忘れんなよ！」

「フジ寮長が「悪いポニーちゃんだね」って顎クイしながら言ってきたからさ、「なんだ、キスでもしてあたしを良い子してくれるのか？」って抱き寄せたら周りのウマ娘が失神しちゃったよ。寮長も顔真っ赤にしてて面白かったなあ」

親愛度高め

「……そんな呆れた目で見ないでくれよ。遠征先と逆方向の快速列車に乗っちゃったのは本当に悪かったって！ あたしだって好きで方向音痴な訳じゃないんだよ！」

「ピサとダムール、目を離すとすぐ口喧嘩になるんだ。何が大変かって、どっちの言い分が正しいか毎回あたしに聞いてくるんだよ……」

「ルドルフ会長、ちよくちよくダジャレ飛ばしては自分で笑うの微笑ましいよな。まあその隣でエアグルーヴが頭抱えてるのが一番面白いんだけどさ……んくっ！ お、思い出したらまた笑えて……っ！」

「トレーナー、今度あたしの好きなバンドのライブに行きたいんだけどさ、それに付き

合つてくれないか？　なんでつて……一人だと遠征先に行けるか怪しいからだよ！」

「ロック以外のジャンル？　もちろん聴くぞ。ジャズとかクラシックとか、なんなら演歌に歌謡曲も網羅してるな。今度オススメ持つてこようか？」

「生まれ変わるなら何がいいか？　金持ちの家の犬か猫。せめて鳥だな」

春ボイス

「いい天気だなあ、絶好のトレーニング日和だ。それともこれから花見でも行くか？　お酌してやるよ」

「春は出会いと別れの季節。新入生と卒業生の対比が、桜の淡い儂さと合わさってエモいよな……ん、今ならいい曲が出来そうだ。ちよつと書き留めたいからペン貸してくれ」

夏ボイス

「暑つちい……こう暑い日が続くと嫌になつてくるな……トレーナー、部屋の冷房、少し強めにしといてくれないか……？」

「早朝の夏の空気は好きだな。そこまで暑くもなく、爽やかで。まあ朝練から帰つてきたら汗だくでそれどころじゃないが……今透けてるからあんま見るなよ！」

秋ボイス

「食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋……トレーナーにとって秋はどんな季節だ？ あたしはもちろん、芸術の秋さ」

「封筒ぎんなんって知ってるか？ 殻付きのぎんなんを封筒に入れて、レンジで温めるだけ。あたしの秋の風物詩といえこれだな。……おっさんくさい？ ほっとけ」

冬ボイス

「お、雪降ってきたな。明日には積もってるかな？ 積もったらスペ達と雪だるま作ろうぜ！」

「トレーナー、手が真っ赤じゃないか。しょうがねーな、手え貸してみろ。あたしが握って暖めてやるから……うっわ冷てえ！ やっぱやめた！ ストープに当たってこい！」

ハロウィンボイス

「トリック・アンド・トリート……トレーナー、お菓子やるからイタズラさせてくれよ」

クリスマスボイス

「クリスマスは家族と過ごそうかな。そのまま正月三が日まで……なんだよ、寂しそうな顔して。冗談だよ、トレーニングはサボらないさ」

バレンタインボイス

「毎年この季節になると、色んな子からチョコをもらうんだ。嬉しいけど、口の中が甘っ

たるくなつて仕方なくてさ……カフェにコーヒー貰いに行こうかな……」

七夕ボイス

「織姫と彦星が年に一度、天の川を渡つて逢瀬を交わす……あたしが織姫なら、そのまま彦星と一緒に遠くへ逃げるね。トレーナーと年に一度しか会えないなんて耐えられないからな」

支援絵ご紹介

灰夢さん

ありがとうございますイケメンですメスになりますしゆきー（昇天）

本編

馬になったわね（ガチ）

〔THE WINNER〕

2010年、ジャパンカップ。

その馬の逆転劇に、人は夢を見た。

反骨心溢れる豪脚に、誰もが打ち震えた。

大外から全てを抜き去った、伝説の3ハロン。

【かっこいいって言うのは、こういうことだ。】

その馬の名は——

(どうして)

とある牧場で、俺は黄昏れていた。

別に傷心して動物に癒されに来たわけではない。元々特別動物が好きなのわけでもなかったから。

ならなぜ俺が牧場にいるかというと、単純明快。

(どうして)

俺がその牧場で生まれた、馬そのものだからだ。

そもそも俺はほんのちよつと前まで、確かに人間として生きていた。普通の家庭に生まれ、普通の学校に行き、それなりの大学を出て、そこそこの企業に就職したごく一般的なサラリーマン。

当時結婚を考えてた彼女もいたし、会社での仕事ぶりも悪くなかった。平々凡々、ごくごく普通の生活を送っていた青年だった。

それがある日、信号無視してきた車から彼女を庇って、代わりに俺が撥ねられて。十数メートル吹っ飛ばされた挙句、運悪くガードレールに頭を強打して即死。あの勢いだ、多分俺の仏さんは直視できないグロテスクな有り様になっていただろう。

んで、なんでかしばらくして、意識を取り戻したはいいのだが。

（なんで生まれ変わった先が馬畜生なんですか？）

神様、俺何か罰が当たるようなことしましたかね？ まさかの畜生道だ。こういうのって普通アレじゃない？ なんか剣と魔法のファンタジーなどに転生して無双して俺ツエーみたいなことするのがお決まりじゃないの？

いや百歩譲って動物に生まれ変わるとしても、なんでよりによって馬なの？ 出来ることなら犬や猫になりたかった。せめて鳥。

……なつてしまったものは仕方ない。どうしてこんなことになったかはもう考えないようにしよう。今はしっかりと人生……馬生？ を全うして大往生してやる。それが当面の目的。

とはいうものの、果たして俺はどういう馬として生まれてきたのだろうか。馬だけに。寒いなこれ。

「おー、しつかり立ててるなあ」

と、現れたのは壮年の白髪が目立ち始めているおつちゃん。ツナギと長靴という出で立ちから見るに、多分俺……というか俺の隣にいる、今世での俺の母親である馬の世話係だろう。

確か、えーつと……厩務員って言うんだったか。前世で上司や先輩の影響で競馬を嗜んでいたから、それに合わせてそんな知識は中途半端にあった。

「ん、母子ともに健康そうだな。お前はあのステイゴールドが父親だ、もしかしたらすぐえ競走馬になるかもなあ」

……なんて言った？ ステイゴールド？

えつ、自分ステイゴールド産駒なんすか？

お名前、決まりました。

自分が馬になって衝撃を受けたのも、すでに一年前。今は親離れもして、自分の部屋……馬房というんだったか、を用意してもらい、そこで念願の一人暮らしだ。まあメシとかに人間さんのお世話がいるんで、一人暮らしっていうのはまた違うけど。

今日も今日とて藁を食る。もっしやもっしやと口の中で藁の擦れる音と触感が心地よい。

いやまあ今はこんななりですけど、元々は人間で、その記憶がバツチリあるものですから、最初は藁食うのものつすごい抵抗あったんですけどね。

覚悟決めて食ってみるとこれがなんともない。何というか、この馬の身体が求めているというか、食べてみると自然と、（ああ、これがメシなんだな）と、妙に心が納得したので不思議なものだ。

あとはまあ人参とかの野菜。出されたもんは残さず食べる。

厩務員のおっちゃんも好き嫌いなくて手がかからないよ、って鼻先を撫でてくれた。まあ中身はいい年した大人だし、前世でも特に食べ物の好き嫌いはいなかったしな。

ただそれはあくまで人間の時の話。今現在は馬、馬というのは草食動物であるので……当然肉や魚などは出てこない。

あと確か、野菜でも馬が食べちゃダメなやつがあつたな。プロッコリーとかキャベツとか。キャベツ好きだったからちよつとシヨックだ。

さて、現在一歳馬となった俺であるが、実は名前がまだない。

というのも、俺はあの競走馬で、大種牡馬としても大成した「ステイゴールド」を父として生まれてきたので、おそらく俺も競走馬として走る運命にあるのだと思う。

その競走馬としての名前がまだないのである。どうやら名付け親が相当悩んでいるようで、未だに幼いころからのあだ名……幼名で呼ばれているのだ。

聞いて驚け見て笑え、我が幼名は「ポケ」とにかく大人しくて、いつもポケーつと何を考えているのか分からないからという、なんともあんまりな名前だ。

厩務員のおっちゃん「ポケットに入りそうな小さい馬、みたいな付けられ方じゃなくてよかつたじゃないか」と慰めにもならないことを言っていたが、そっちの方が可愛らしさがあつて俺的にはマシである。

そんな俺ことポケであるが、あまりにも大人しすぎて「コイツ本当にステゴの子供か？」と関係者各位にしきりに首を捻られる。あの暴れん坊で俺様気質なステイゴールドの子供とはとても思えないとかなんとか、時折厩舎の中でも話していた。

そりゃあ、ねえ。中身元人間だもん。人間さんの言葉バツチリ理解できるもん。何だったら芸でも仕込むかい？ その場で三回回つてヒヒンと嘶いてみようか？

引綱なしでも厩務員のおっちゃんの後ついていくし、放牧でも運動不足にならない程度に走つて、あとは見学に来た一般の人たちに愛想振りまいてるし。特に子供には人気だね、鼻先叩かれようが痛くないので気にしない。何よりかわいい。

あ、写真撮影もちろんオツケーよ。あ、懐かし、ガラケーじゃん。そつかステゴが

種牡馬してたのって、ガラケー全盛期の時からか。ならステゴが種牡馬になって割とすぐの時なのかな。

真正面だとアレだからちよつと斜めに立とう。んで気持ち首を上げて、キリつと真面に。せつかくだからカツコよく撮ってもらいたいしね。

あー待つて待つて、フラッシュはやめて、眩しいから。顔背けてアピールしたら分かるかな。あ、分かってくれたわ。そうそう、俺だからまだいいけど馬ビツクリするからね、やめたげてね。

ん？ なんだいおチビちゃん。おつ、人参くれるの？ あらーありがとねーおんまさん嬉しいわ。ありがたく頂戴するね。お礼にお顔舐めたる。あらあらキヤツキヤしてお可愛いこと。

とその時、突然俺の耳に爆音が聞こえてきた。

「うわっ、やっぱマナーモードしてなかった」

「バツカ、お馬さんビツクリするじゃん！」

「ごめんって……あれ、全然動じないな」

こ、この曲は……。

あの、往年のロックスターの……。

超伝説的シングル……。

ふ、ふふ、ふお、

ふおおおおわああああ!! テンション上がってきたぜええええええええええ!!!

「うわあつ!? なんだ、どうした急に!?!」

「すっごい勢いで首振ってる……な、なんかやっちゃった!?!」

「と、とにかく止めないと……!?!」

ふおおおおおおお……。

あ、切っちゃったの? もう終わりか……。

まあ、いきなりあんなことしたらそりゃあビックリするよな……でも、もうちよい聴いていたかった。

俺、元々人間だったときはとにかく音楽が好きだったんだよ。特にロックとかメタルとか、そういう激しい感じの。

新旧問わず、ロックだのメタルだの付く音楽は手あたり次第に聴いてきた。なんなら一時期はバンドに憧れてギターやベースを齧ったこともある。

でもこの体になって、音楽なんてものには一切触れてこなかった。当たり前だ、馬なんてちよつとした物音でもビビるような超臆病動物なのに、音楽なんてもつてのほかだ。

ああ、だけど、もうちよつと、あとほんのちよつとだけ、聴かせてくれないかなあ……。

「……な、なんかすごいこつち見てくるな」

「……もしかして、聴きたいんじゃない？ さっきの」

「ええ？ ……いや流石にそれは」

「……も、もう一回だけやってみる？」

「……………」

お、なんか近づいてきた。なんか画面操作してる……えっ、もしかしてもつかい再生してくれるのか？

マジで？ いいの？ というか俺が人間だったら兄ちゃんと酒飲みたいんだけど。いい音楽の趣味してんね？

「……………い、いくよ？」

おお！ いいよ！ やって！ もう待ちきれねえ！

お、おお！ きた！ きた！ きたあ！

この重厚なサウンド！ 腹に響くような重低音！ 痺れるようなリードギター！
稲妻のごときシャウトと中高音の歌声！！

ああ！ いい！ いいぞ！！ やはり音楽は良い！！

俺の身体が！ 足が！ 耳が！！ 脳が！！ 魂が！！

打ち震える！！ 揺さぶられる！！ 心が！！

ロックに！！ すべてはロック！！ 俺こそがロック！！！！

ああ、ああ、身体が、勝手に、リズムを刻んで、ふ、ふひ、ふひひや、

ヒイイイヤツハアアアアアアアアアア！！！！

ルオツクンロオオオオオオオオオオオオオオオオウウ！！！！

「うわあ……」

「馬が……ヘドバンしてる……」

「馬つて音楽聴いたらヘドバンするのか……？」

「知らないよそんなの……」

後日、この騒動を聞いた厩務員が馬主に報告したところ、馬主は俺に競走馬としての名前を付けてくれた。

「お前の名前は、『ウッドストック』だ。昔アメリカで行われたロックフェスの名前から取ったんだと」

厩務員のおっちゃんは、俺にそう説明してくれた。「お前が理解してるかは分からない」と鼻を撫でて、笑いながら。

ウッドストック。あの伝説的祭典、『ウッドストック・ロックフェス』。それが俺の名

前。

うん、十中八九あのヘドバン騒動が原因だろう。あの後兄ちゃんたち厩務員のおつちゃんに怒られてたし。ごめんな兄ちゃん。

だけど、うん。

ウツドストックか。馬主もいい名前を付けてくれたな。ちよつと馬主んどこ行つてきていい？ 絶対あのバンドとかこのバンドとかの名盤持つてるでしょ。

ウツドストック、か。

俺は、ウツドストック。

おつちゃん。俺、絶対いい競走馬になるよ。世界に名を轟かせるような、伝説的な馬に。

そんでおっちゃんここに、優勝レイを一杯送ってやるからな。

それが俺の、今の目標だ。

「……で、だ。ウツドストック。今ここにウオークマンがあるんだが……ちよつとだけ聴くか？」

マジかよ。おっちゃんすき。抱いて。

その日、厩舎の片隅で往年のフォークソングが流れ、俺は名曲の数々に思わず涙を流した。

あとでおっちゃんは怒られた。ごめんなおっちゃん。

例えるならエロ本見てるのを親に見つけた時のような

春が過ぎて、夏を過ぎ、そろそろ秋が来るかという頃。俺ことウツドストックさんは、いよいよレースに向けての調教が始まった。

が、初めて見るはずの鞍やらなんやら、人間さんが乗るのに必要な馬具一式を初日の一発で付けられたことで、やはり首を捻られる。

通常の馬ならばもっと嫌がったり怖がったりするらしいが、ハミも普通に受け入れる、鞍を乗せても動じず、なんなら蹄鉄付けるときは職人さんに負担が掛からないよう、なるべく体重を乗せないようにしてたぐらいた。

あんまりにもされるがままにされていたもんだから、厩務員のおっちゃんですら「こいつ本当に競走馬になれるのか？」と不安な様子。すまん、中身人間なせいで。馬として常軌を逸しているのは自覚してるよ。

で、一通り付け終わって、今は鞍上に乗る騎手の人を待つてるんだが。

果たして俺に乗ってくれるような物好きは居るのだろうか。腐ってもあの暴れん坊「ステイゴールド」の子供である。

どんな気性難に乗せられるのか、向こうからすれば戦々恐々だろう。俺が騎手だったら絶対嫌だもん。

なんてことを考えていると、こちらに歩いてくる騎手らしき人間さん。はてなんか見たことのある顔のような。

「おはようございます。こいつがそうですか？」

「ええ。まあ今のところは親に似ず大人しいし賢い奴なんで、あまり気負わずに」

「任せてください！ よーし、よろしくなウッドストック」

と、俺の首筋を叩きながら笑いかける騎手の人。やっぱり見たことあるぞこの人。

「まああのデュランダルもドリームジャーニーも乗りこなしたんですし、あんまり心配

はしてませんがね」

「あはは、勘弁してくださいよー!」

デュランダル? ドリームジャーニー?

………あっ!?! もしや池谷殿か!?

やっぱりそうだ、気性難の駆け込み寺とか言われてた池谷騎手じゃないか。なるほど、俺がステゴ産駒だからまあもれなく気性難だろうからという判断なんだろうな。

ま、時には気性難じゃない馬に乗るのもいいんじゃないですかね。自分で言うのもなんだけど、俺めっちゃいい子よ?

というわけではない、どうぞ乗ってくださいいな。大丈夫だって暴れないって。

「……………えっ、ぜんぜん暴れない」

「でしょう? えらく大人しいんですよコイツ」

「ジャーニーと全然違うなあ…………お前本当にステイゴールドの子?」

「そうですけど、という意を込めてヒヒツと鳴いてみる。」

「今返事した？」

「多分人間の言葉はある程度分かるんだと思います。ここら辺は親父譲りっぽいですね」

「ほー……とりあえず軽く走ろうか」

「あいよ。細かい指示は任せるわ。」

それから半日ほど、馬なりに走って調教を終える。ふいー、やっぱ人背負つてると走りにも影響してくるな。

ちなみにだが最初から最後まで池谷殿は不思議そうな顔をしていた。まあ初めての調教でここまで素直にいうこと聞く馬も珍しいのだろう。アイツの子なら尚更といっ

た感じか。

終わり際には「何から何までステゴ産駒っぽくない」と厩務員のおっちゃんに話していた。「でも、コイツも走りますよ」とまで。誉めるなよ照れるぜ。

で、馬房に戻っては来たんだが、何故かおっちゃんに加えて、池谷殿も一緒。なに？ スキンシップでもするのけ？

と、厩務員のおっちゃんが取り出したのは、以前俺にフオークソングを聴かせてくれたときのウオークマン。え、もしかしてやるんすか？ この人の前で？

「本当に音楽好きなんですか？ 普通ビビりますよ」

「それがコイツ本当に動じないんですよ。ちよつと見てて下さい」

ええー？ 本当にやるんでござるかあー？ あれちよつと初めての人に見られるの恥ずかしいんですけど。

お？ 次は何を取り出して……あ、イヤホン？ 耳に引つ掛けて挟んで固定するタイプのやつ？ あ、他の馬に迷惑だから？

あ、はい、じゃあ付けてください。馬の耳だとイヤホンめちやくちやちつちやいけど、馬用イヤホンなんてあるわけもないから我慢我慢。

「いきますよー」

おつ、流れてきた……あ、これヤバイ奴だ、超テンション上がるハードロックだ。

あ、あ、待って、そんな、

よりにもよってこんな激しいの、この人の前でそんな、

初めてなのに、せめてもつと優しいのっ、あつ、

待っ、

だっ、

だめええええ身体が勝手に動いちやうのおほおおおおお
!!!!!!

「うわあ……マジでヘッドバンしてる……」

「ビックリでしょ？　しかもちゃんとリズムとって首振ってるんですよ」

「あらら、拗ねちまった」

「流石に恥ずかしかったんスカね？」

「まあ変に人間くさいやつですからね。もしかしたらそうかもしれませんが」
「ハハハ……変なところで親父に似てるな」

本人の前でそんな話やめて頂戴ッ！
アタイもうお嫁に行けないわッ！

出会は突然すぎて準備できるものではない

「いいぞウツドストック！ もつとだ！ もつと鋭く！」

「ヒヒッ！（おうよ！）」

池谷殿とともにレース調教をこなすようになって、早くも半年が過ぎ、季節は冬から春となっていた。この厩舎の周りでも桜の木が鮮やかに色づき、見る目に楽しい。

ここ最近のトレーニングで分かったことだが、どうやら俺は走れる距離が幅広いらしい。マイルから長距離までは難なくこなせるようだ。

今の方針としては、長距離を走るステイヤー向けの持久トレーニングを中心に、単純な走力と馬群を抜け出す力強さ、つまるところスピードとパワーを鍛えている。

特に持久力、スタミナを鍛えるのにはプールと坂路が効果靨面。泳げば全身運動になるし、心肺機能が向上する。坂道を走ればパワーもつくし、根性も鍛えられて一石二鳥だ。

走力に関しては、他の馬と併走あるのみだ。馬によってどういふ走り方をするのかはまるで違う。

とにかく相手の前に出たがる馬もいれば、後ろに張り付いてプレッシャーをかけてくる馬もいるし、最後の直線での競り合いに強い馬もいる。

それぞれにどう対処すべきか、どう走りを合わせ、どんな駆け引きをして、どこで抜け出すか。そういったことを走りながら考えなければ、強い競走馬にはなれない。

そうでなきや、ジャーニーやフェスタといった俺の兄貴たちに申し訳が立たない。

ジャーニーはステゴ産駒の強さを証明した孝行息子、フェスタはのちに凱旋門で戦う真正銘の猛者。それに続かなければ嘘というものだ。

といつてもまあ、駆け引きに関しては素人考えだ。その道のプロである池谷殿に大部分お任せするつもりで、俺は自分の身体をいじめ抜くのみである。

「よーしよし、休憩しようかウッドストック」

「ブルルツ（分かった）」

「ハハハッ、お前は本当に賢いな。本当に俺の言うことが分かってるみたいだ」

「ヒヒンツ（分かるさ）」

俺がいちいち返事をするように鳴いたり鼻息を荒くすると、池谷殿は嬉しそうに笑う。笑って鞍上から俺の鼻先を撫で、首を軽く叩き、そして撫でる。

俺はこのスキンシップが嫌いじゃなかった。単純に誉めてくれてるのが明確に分かるからね。

人間だった頃は、子供の時誉められていたことが大人だと出来て当たり前になって、そのうち誰も誉めてくれなくなる。大人なら出来て当たり前なことばかりになるから。

でも馬になって、人と容易に意志疎通が取れなくなつてからは、毎日が誉められることばかり。そりやそうだ、馬にしては賢すぎるもん。

それでもいいさ。毎日たくさん誉めてくれる生活というのは存外嬉しいもんだ。大人だつていっぱい誉めてほしいんだ、それに甘んじて何が悪い。

さて、背中の池谷殿に従つて一度馬房へ戻ることにしよう。水を飲んでたまに岩塩舐めて、そんでちよつと昼寝するといふ最近の日課をこなすため、かつぽかつぽと歩いているとだ。

ふと視界の端で、なにやら一悶着起こっているのを見てしまった。

「ありや、追いかけてんなああの馬……」

池谷殿が呟く。よく見ると、どうも幼駒の放牧地で、他と比べても体躯の小さい栗毛の馬が、他の馬に追い回されているようだった。ありやあいじめだな、可哀想に……。

そう思ったと同時に、俺はそちらへ向かって歩いていった。

「おっ？　おい、ウツドストック？」

背中で池谷殿が慌てているが、ちよつとだけ堪忍やで。

（ひいいい！　たすけて！）

追い回されている栗毛の馬が必死に嘶いている。追い回しているのは……なるほど、

如何にもな悪ガキだ。

俺は放牧地の柵の側まで近付くと、悪ガキ馬が近くに来るのを見計らい、大きく息を吸って、

「ブウルルヒヒヒイイインツ!!! (やめろクソガキ共オツ!!!)」

と思いつきり嘶く、というか吼える。

当然いじめられっ子共々悪ガキ共が慌てて俺の前で足を止めた。間髪いれずさらに吼える。

(みつともねえ真似してんじゃねえツ！ 同じ馬だろうがツ！ 仲間は守れ莫迦野郎ツ !!)

いじめっ子達は暫く呆然としていたが、俺が（返事イツ!!）ともう一度短く吼えたことで再起動。

（ごめんなさいいいいい！）

（もうしないですううう！）

と蜘蛛の子を散らすように逃げて行ってしまった。

うーん、良心が咎めたとはいえ、子供にあんな剣幕で怒鳴ったのは我ながら大人げなかったな。反省。

「お前、いじめを止めてやったのか……すげえな」

と鞍上の池谷殿。よせやい、誉めてもへドバンしか出ねえぜ。

おや。いじめられたっ子がまだ目の前で硬直してる。ほれ、もう行きな。おせっかいのおっちゃんはまだもう帰るから。

(あ、ありがとう！)

おっと、ちゃんとお礼を言えたのはえらいねえ。まっすぐいい子に育つんだよ。

(お兄ちゃん、名前は?)

(俺かい? ウッドストックだ)

(ぼくオルフェーヴル!)

なんだって?

お前さん、あのオルフェーヴルなのか!?

「アイツ多分ボス馬になりますよ。幼駒たちのいじめ止めましたもん」

「へえ……責任感が強いのかもかもしれませんね。つくづく頭のいい奴だ」

「ええ。それに、偶然かもしれないませんが……アイツが助けた子馬、オルフェーヴルなんですよ」

「へえ？　じゃあアイツ、自分の弟を助けたって訳か。なるほど、偶然か否か、いい兄弟愛じゃないですか」

「まったくです。その証拠にウッドストックのやつ、ちよくちよくオルフェーヴルの様子を見に行ってるんですよ。心配性みたいで」

「ハツハツハツハツ!!　本当にアイツは人間くさいなあ!」

あの、毎回言うようですが、それ本人がいる前で話すようなことですかね、おつちやん。あんまりひどいとまた拗ねちやうぞ。

「ああそうだ、池谷さん。ウッドストックのデビュー戦、決まりましたよ」

「ついにですか」

「ええ、今年の6月。いよいよ新馬戦ですね」

………そうか。

ついに、俺が走るのか。

俺は、ウツドストック。

親父の、兄貴たちの名を背負ったサラブレッド。

やってやるさ。ああ、やってやるとも。

競馬狂い共の、度肝を抜いてやる。

お前たちの脳を焼ききってやる。

嵐のように、蹂躪してやる。

ここから俺の、ウツドストックの伝説が始まるんだ。

デビュー戦は鮮烈に

桜が散り、梅雨も半ば、もうすぐ本格的な夏が来ようとしていた。厩舎にも連日雨が降り続き、訓練用のコースもぬかるみ、調教に影響が出ている。

まったく梅雨ってのはどうにも気が滅入っていかん。夏みたいにならぬと日が照りつけて暑いのは一番嫌だが、雨が好きな訳でもない。傘も差せないこの身ではただ耐えることしか出来ぬのだ。

現に今も厩務員のおつちゃんに、馬房で世話をしてもらいながら、窓の外で降りしきる雨を眺めているわけで。

「今日もよく降るなあポケ」

「ブルルツ（そうだねえ）」

ウッドストックという名を貰った俺だが、おつちゃんと二人の時は未だに幼名で呼ば

れる。まあ今となつちやすつかり呼び慣れた名前だし、俺自身嫌なわけではないから好きに呼んでくれていいんだけども。

「はあ……さむ」

それよか今大変なのはおつちゃんだ。今日は雨合羽を柵の釘にひっかけたらしく、右肩から背中にかけて大きく合羽が裂け、びしょ濡れになったまま作業をしている。定期的に特別寒い訳ではないが、そのままでは風邪をひきかねん。

なのおつちゃんは、「まあこんな日もあるさ」と俺の世話を優先するんだよな。そりゃあおつちゃんだけじゃなく厩舎にいる全員が馬第一の人達だし、合羽破けたのはおつちゃんの不注意だから仕方ないけど、体調管理も大事やで？

ほらおつちゃん、身体貸してやるよ。ちよつとくつついて暖まろうぜ。

「どうした、暖めてくれるのか？ はははっ、優しいなあポケ」

うっわおつちゃんの手え冷てえなあ。

「ありがとうな。あつたけえなお前……ほれ、顔の横搔かれるの好きだろ」

ああ〜そこ気持ちいいわあ、自分で搔けないから至福。

「調子はどうだ、ウッドストック」

「ブルルツ（最高）」

「ははっ、そうか！」

時間は進んで、6月。二歳馬になった俺は、いよいよ今日、競走馬としてデビューする。

コースとしては芝1600mの右回り。途中で坂を上るマイルコースだな。俺は走る幅が広いから中距離とマイルでかなり迷ったらしいが、どちらにせよ全力を尽くすだけだ。

まあ競走馬とは言うが、相手は皆当然俺と同じ新米ばかり。レース前にしてはいまいち落ち着きがないというか、どこことなく浮き足立っている。

(今日はここにいるやつと走るのか?)

(人間いっぱいいる……こわ)

(うるっせえなあ)

そんな感じの馬たち。これは……貰ったな、このレース。

『さあ最終コーナー回って各馬鞭が入る！ 先頭は依然変わらず4番ウツドストック！
これを3番チリペツパーと5番プラトニツクラブが追いかける展開！』

(くそっ、速い！)

(追い付けないよー！)

後ろから聞こえる悔しそうな声。悪いがこのデビュー戦、この俺が貰うぜ。

おつ、坂があるな。だが坂路で鍛え上げた我が筋肉はものともしないぞや。

さらに言えばこちとら中身は人間。どう脚を使えば登りやすいか、普段の坂路で散々模索してきた。この程度、普段のトレーニングに比べれば大したことはない。

さて、仕掛けるならここか？

スタミナはまだ十分残っている。

手綱を噛んで、池谷殿に合図する。行くか？ と。

「よし！ 行け！」

池谷殿から鞭が入る。

いいんだな？ もういいんだな？

よっしゃ。ぶつちぎってやる。

『ウッドストックすごい勢いで坂を駆け上がる！ 脚色は衰えない！ 後ろの馬はもう追いつけないか?! 二馬身三馬身と後続を突き放していきますウッドストック強い！』

これはセーフティリード！』

なんて清々しいんだ。

耳を切る風の音。横を見れば後ろに飛んでいくラチ。踏みしめる度に俺の脚を跳ね返す芝。

全身で受ける風が、心地いい。

そうか、これが。これが馬としての、走る喜び。

そうさ。俺はサラブレッド。俺はウツドストック！

俺はステイゴールドの息子！ 偉大なる親父の血を受け継ぐ者！

さあ人間共よ、俺を見ろ！ 先頭に立ってやったんだ、よく見えるだろう!?

刮目しろ！ その目に焼き付けろ！

俺の名を！ 姿を！！ 勝利を！！

俺の名は！！ 芝を駆けるロックスター！！

キング・オブ・ロック！！

ウツドストックだ！！！！

『ウツドストック強い！ ウツドストック強い！ 二位以下を大きく突き放して今ゴールイン！！ 影をも踏ませぬ力強い走り！！ これは将来が楽しみな馬が出てきました！！』

あー走った走った。本気で走るとすっごい疲れるけど、それ以上に気持ちがいい。ついテンション上がっちゃって、頭のなかで恥ずかしいこと叫んでしまった。これは黒歴史確定。夜な夜な思い出して悶絶しそう。

ま、今回ののはあくまでデビュー戦。ゆくゆくはクラシックも古馬路線も走りたいところだが、そこらへんはオーナー馬主ら上の人間が判断するところ。俺は全力でレースを勝ちにいくだけだ。

お、池谷殿が鞍上でガッツポーズしてる。いいけど落ちないでね。まああんた後々オルフエに振り落とされること知らないでしょうけど。

「お疲れ様、池谷さん。まずは勝ちましたね」

「ええ、なんとか。いやあすごい馬だアイツは」

「ほう、そんなにですか？」

「調教の時から思ってたけど、アイツ競馬を理解してますよ。こっちの指示もしっかり伝わりますし、自分でコースをある程度選ぶ頭もある」

「ほうほう」

「それにアイツ、自分のペースを一定に保ちますけど、最後の辺り。仕掛けようとしたときに、アイツ手綱を噛んだんですよ。『ここか？』って。まるで仕掛けどころが分かった

かのようで」

「……………俺達が思っているより、すごい馬になるかもな」

「なりますよ。させてみせます」

「こりやあ頼もしい。これからもよろしくお願いしますよ」

「ええ、任せてください」

つかの間のひととき

デビュー戦から数日。俺は馬房でのんびりと寛いでいた。窓から燦々と射し込む日の光がなんとも心地よく、ついうたた寝してしまう。

レースから少しの間は調教も馬なりというか、軽めのもので済ませてくれるようで、脚が鈍らない程度に身体を動かす、ぐらいの気持ちで行えた。脚の調子を見ながら、どう走れば負担が少なくなるか考えて。

そうしている間に気づいたことだが、どうやら俺はとにかく脚の回転を上げて、スピードを出すやりかたが走りやすいっぽい。ピッチ走法だかなんだか言ったつけ？

確かステイゴールドもそんな感じだったような。この得意不得意はやはり遺伝なのかもしれない。

まあ走りやすさってのは足元が芝かダートか、その日の天気によっても変わってくる。地面の状態によって、走りやすいフォームを模索して身体に覚えさせる日々だ。

調教が済めば、あとはのんびりと過ごす。メシ食ったり、昼寝したり、たまに放牧に出たら見学の一般人に愛想振る舞ってみたり。最近俺のことが噂になってるようで、地元以外にも遠くから遠征してきたらしい人間さんを時々見かける。

おっちゃんに見せて貰ったが、「音楽が大好きな馬」としてそれなりの知名度らしい競馬誌に載ってたんだよね。そういやなんでか放牧中におっちゃんにウオークマンでメタル聴かせてもらって、ノリノリだったところをでつかい一眼レフで写真撮られてた時があつたなあ。

少し前から見学客が増え始めたなー、なんてのんきに思ってたけど、アレが原因なのだとしたら納得いく。俺は変わらずお出迎えして愛想振る舞うだけだが。

あ、時々オルフェーヴルの様子も見てるな。なんというかこう、アイツみてるとうげえ心配なんだよ。

ちよつと前に俺の馬房の近くに移ってきたんだが、アイツはどうも人一倍……馬一倍？ 臆病なようで。

俺を世話してくれる厩務員のおっちゃんが、オルフェの坊主も担当しているんだが

……心を開く様子がまるでないらしい。俺にブラッシングしてた時にぼろっとこぼしてたから気になってしょうがない。

(世話してくれてるんだから慣れな?)

(無理、人間怖い……顔ゴシゴシされるの怖い)

(綺麗に拭いてくれてるだけだよ)

(あと他の馬もいじめるから怖い)

(俺も馬だけ?)

(助けてくれたから好き)

(さいで)

こんな調子で、懐いているといえは俺ぐらいのもの。本当に競走馬になれるんだろうかコイツ。俺が言えた口じゃないけど。

将来的には三冠獲る奴だったからそこまで心配はしていないが……いややつぱり不安だ。

(オルフェお前、人が乗っても振り落としたりするなよ?)

(……………がんばる)

(長い沈黙だったな…………)

今からでもこの坊主の鞍上になるであろう池谷殿の無事を祈っておいたほうが良いだろうか？ 人参でなんとか聞き届けてくれたりしないかしら。

雨足が遠退き、太陽がギラギラと照りつけ、夏真っ盛りという頃。俺は最近、プール調教がメインになっていた。

プールって言っても、脚が全く付かないぐらい深さはある。溺れたらひとたまりもないだろう。そんなだからプール調教を嫌がる馬は多いと聞く。

まあ俺は平気で楽しんで泳ぐし、途中で素潜りとかするけど。だって気持ちいいんだもん。これからの季節ちょうど良いし。

ただ最初のころは、潜ったら人間さんが慌てて引き揚げようとしてこっちも驚いた。後から人間さん話してたけど、馬って普通潜ったりしないのね。溺れたと思って引き

揚げようとしてくれたんね。知らなかったとはいえ悪いことした。

ただやっぱり潜るの気持ちいいから潜らして。思いっきり頭を水に浸して泳いだら、これがまた気持ちいいのなんの。潜りつつ泳ぎつつ規定の数を周回して、プールから上がった直後にブルブルと全身の水気を飛ばす！これがまた気持ちがいい！

「うわっ、こら！ やめろウツドストック！」

「ヒヒンツ（へへっ）」

「今笑ったな？ このやんちゃ坊主め！」

「ブルルツ（ごめんって）」

こんな感じでプール担当の調教師の兄ちゃんともふざけあう。まあ俺が一方的にイタズラしてるだけだが。

調教師の兄ちゃんもまあ、口では怒るが満更でもないっぽい。「アイツ俺相手だめめつちや生意気なんすよー」と半笑いで厩務員のおつちやんに愚痴つてた。誉めてもヘドバンしか出ねーぜ。

「ただ、やっぱり自分の意思で潜ってますね。長いと一分は潜ってるんで、自主トレのつ

もりなんでしょか」

「まあ肺を鍛えるに越したことはねえが……お前つくづく変なやつぢやなあ」

なんだよ、誉めるか貶すかどっちかにしてくれよ。貶したら首筋に唇で甘噛みするけど。

「よかつたなウッドストック、お前唯一無二だよ……あつ!? ちよ、なんだよ!」

「ハハハハッ! お前の皮肉なんざお見通しだよ!」

「笑つてないで助けてくださいよ! おいやめろつて! 悪かつたつてば!」

うるせえ、一言多いんだよお前。そんなんだから彼女出来ないんだぞ。

「そいつが無闇に嘸む馬じゃなくて良かったな。まあ馬にも誉められてるようじゃ彼女なんて出来やしねえわな!」

「あつ! 言つちやダメなこと言つたつすね!」

「そーいやこないだのコンパどうだったんだ」

「聞かないでください!!」

なんだ不発だったのか。お気の毒様。

「……………今鼻で笑ったかお前？」

おっと失敬。

迷いと、覚悟

『さあこの辺りで中団からじわりじわりと伸びてきます2番ウツドストック！ 先頭から最後方までおよそ八馬身と言ったところ、隊列ややぎゅつと詰まってコーナーを回ります！』

冬の足音が着々と近づいてくるのを感じる11月のとある日。俺は何度目かのレースに出ていた。

今回は芝2000m、「京都2歳ステークス」。後に「ラジオNIKKKEI杯京都2歳ステークス」とかいいう長つたらしい名前に変更され、さらにGⅢの重賞レースに格上げされるこのレースは、GⅢの「ラジオNIKKKEI杯2歳ステークス」、後のGI「ホープフルステークス」のステップレースとして指定されている。

ラジオNIKKKEI杯とかいう言葉がやたらと出てくるので混乱してしまうが、俺が今走っているのは京都2歳ステークス、恐らくこのレースを勝って次に走るのがラジオNIKKKEI杯2歳ステークスだ。つまりこの特別競走を勝てば、次の重賞レースに優先出場権が得られる。

このレースで中距離を走れるかどうか、そして重賞を勝てるのか。ゆくゆくは長距離も視野に入れるかをこのレースから見極めるつもりなのだろう。

上等だ。ここからが本番といったところ。

こう言つては傲慢となじられるかも知れないが、むしろ今までのレースは正直つまらなかつたんだ。

骨のある奴がいなかった。食らいつく奴がいなかった。俺に追い付く奴が、競つてくる奴が、競り勝つ奴が、差し抜く奴が、ぶちぎる奴がいなかった。

だけど。今度なら、きつと。グレードレースに出場できたなら、きつといるんだ。

俺が本気を出しても敵わないだろう奴が。強い奴が。化け物のような奴が。

そこでなら、俺はもつともつと輝けるんだ。全力を出せるんだ。

だつて俺は、ステイゴールドの息子。ドリームジャーニー、ナカヤマフェスタの弟。オルフェーヴル、ゴールドシップの兄貴。

競馬史をいろんな意味で引つ掻き回した、あの暴れん坊の血を確かに受け継いでいる馬。

俺は、ウツドストツクなのだから。

まあレース中の細かい指示は相変わらず鞍上の池谷殿にお任せである。気性難に振り回されっぱなしのイメージだけど、彼だつてプロのジョッキーだ。当たり前だが俺のような素人よりレース運びは断然上手い。

俺は彼の指示に合わせて脚を抑えたり馬群をすり抜けたりするぐらいだ。おつ、ちようどねじ込めそんな隙間あるじゃーん、ちよつと後ろから失礼するゾ。

(うおっ!?)

(マジかよ!)

(お先)

そのまますすると馬群を抜け出しまして。おやおや、丁度先頭と2番手が見える位置まで来たか、いつの間に。やっぱ池谷殿コース取りが上手いわ。

『スルリスルリと馬群を抜けてウッドストック3番手に躍り出る！ 現在も先頭は変わらず7番クロイツティーゲル！ その後ろ一馬身離れて二位に6番ツブラナヒトミですがそれに並びかけるように外からウッドストック上がつてくる！』

さてそろそろコーナーの出口だけど、そろそろ仕掛けるのかい池谷殿？

「行けっ！」

任せろ。おーおー、鞭まで入って気合い乗ってんねえ！

『さあウツドストック上がってツブラナヒトミを躲す！ ヒトミ上がらないか!? 上がらないか!? 上がらない！ ここで二番手に躍り出たウツドストック！ 前のティールを差せるか!?』

(アタシの前に出るなあ！)

俺が追い抜いた馬が後ろから嘶くが、出るなど言われて出ない競走馬がいるか。悔しかったら差し返してみろ。

(よう)

(……………！)

そして外から先頭の馬の斜め後ろに付く。こつちをチラツと伺つて僅かに焦りが顔に浮かんだのが分かった。

コイツは見たところまだ脚を残してるっぽいが、さほど余裕があるわけでもなさそうだ。少しでも油断すれば差される、そんな顔だな。

だが向こうの鞍上もみすみ勝ちを譲つてはくれない。こちらの動きにフェイントで牽制を入れてくる。こりやあ相当の手練れだ、よほど馬と息があつてなけりや出来ん芸当だな。

(行かせない！)

(出来るかな？)

だが俺と池谷殿だつて負けてないぜ。なんてつたつてこつちは人間の頭脳二人分だからな。

一人が指示を出す！ 一人がその通りに走る！ そこの馬に負けるわけがなかる

うて。

そうだろ池谷殿！ ……………池谷殿？

「……………っ！」

あ、ヤバい。池谷殿大分苦戦してる顔してるぞ。ここからの差し筋が見えてないっぽい。

マジか。池谷殿が手も足も出ないか。参ったなこりや。気性難乗りこなしてきた君がそれということは、相手は一枚も二枚も上手だということか。

いや、逆に俺だからか？ キミもしかして気性難の馬じやないとあんまりパフォーマンスにバフかからないタイプ？ いやそんなバカな。気性難じやなくても実績残してたでしょキミ。……いや、あながち否定できないかもしれん。

ちよ、え？ マジ？ これワンチャン勝てるでしょ。行こうよ池谷殿。あ、行かない？ ていうか行けない？ 行けないのね？

分かった。勝手に差すわ。

『さあびつたりクロイツティーゲルに付くウツドストック！　しかし抜けないか!?　伸びないか!?　残りは300m!』

「ウツドストック!?!」

「ヒヒッ！（落とされるなよ!）」

突然俺が暴走を始めたと思ったのか、必死に手綱を絞る池谷殿。大丈夫、俺は冷静だから心配するな。

ただちよつと、アンタに俺の使い方だけを教えるだけだからさ。何度でもやるから、しっかり身体で覚えてくれよ。

『逃げきるか!?!　クロイツティーゲル逃げきるか!?!』

……いや！ 来た！ 来た！ 伸びてきた伸びてきたウッドストック伸びてきた！
先程よりさらに大外に回ってなお伸びる！ これは驚異的な末脚だ!!』

(バカな……!?)

(悪いな)

お前さんが目の前で愉快にケツ振って邪魔するんなら、『邪魔できないところから抜く』。単純明快にして最適解よ。

普通なら出来たもんじゃない。前の馬より外に回る分、十数mは余分に走ることになってしまう。大したことないように聞こえるが、レースの世界では致命的に長いコース取り。

だが、嘗めるなよ。俺は人間の記憶と頭脳を持つ馬。自分のスタミナの限界は自分が一番よく分かっている。だからこそ今回のレースに向けて、綿密にペース配分を計算してきた。

それに、最初のレースよりも心肺機能が格段に鍛えられているのが分かる。あの遊び

でやっていた素潜りが功を奏したのかもしれないな。

デビュー戦より長いのに、あの頃よりも息が続いている。このスタミナを全力で短距離に使ったらどうなるかなー、などと考える余裕すらあった。

翻ってお前はどうかだ、クロイツティーゲル。もう足腰も心臓も限界が近いだろう？
汗が滲んでるのが分かるぜ。

(なんだ……なんなんだお前!!)

(お前を負かす馬だよ)

(ふざけやがって!!)

ふざけてなどいないさ。これでも真剣に……。

『ウツドストック追い抜いた！ 追い抜いた！ 懸命に差し返そうとするクロイツティーゲルしかし苦しいか!? それを尻目にウツドストックさらに加速する！ ウツドストック強い強い！ 二馬身！ 三馬身！ まだまだ突き放していく!!』

あと、どれだけお前を突き放せるか、考えてるんだよ。

「やったなウッドストック!! お前すげえなあ!!」

ゴール板を通りすぎた直後、鞍上から池谷殿が首を叩いてくる。おだてても勝利しか出ねえぜ。ヘドバンも出るか。

クールダウンを兼ねたウイニングラン。観客席からは歓声、悲鳴、怒号と悲喜交々の熱狂的な叫び声が聞こえてくる。

見たかよお前ら。これで分かったろう、俺は決してフロックではないと。

俺に賭けた奴には脳を焦がすような熱い夢を。賭けなかった奴には身を凍らせるような悪夢を。

俺は、ウツドストック。

ターフで夢を魅せる、ロックスターだ。

「見ました？ コイツ俺に自分の使い方教えてきたんですよ」

「見ましたよ。大外から差すなんて、あなたらしくない競馬だった」

「ええ。ウツドストック、とんでもない馬ですよ。競馬を理解してまずし、自分のスペックが分かっている。自分がどういう馬か、どんな使い方が出来るか、俺にプレゼンしてみせる。これで普段は大人しいつてのがますます信じられない。本当にステイゴールド産駒なのか」

「これで三冠でも獲った日にゃあお祭り騒ぎだろうな」

「獲りません。コイツとなら獲れる、そんな気がするんです」

馬房に戻って水を飲んでると、目の前でおっちゃんと言いつつ池谷殿がそんな話をしていた。

三冠か。皐月賞、東京優駿、菊花賞の三つだよな。

でも俺が知ってる競馬史だと、獲ったのはオルフェの坊主と池谷殿なんだよなあ。俺

というか、ウツドストックなんて馬は見たことがない。少なくとも俺は。

これあれだよな。本当に俺に出来るかどうかはおいとして、もし俺が三冠になったら、歴史が変わるってやつだよな。

いいんだろうか、本当に。

もちろん三冠獲れる、なんて絶対的な自信がある訳じゃない。そもそも三冠全部に出るかも分からない。

だけど。人間だった俺が馬になったのも、わざわざ二十年も前の過去に逆行したのも、このためだとしたら？

『ウツドストックという馬が、三冠を獲る』。そのことに、何らかの意味があるのだとしたら？

そのために、『俺がウツドストックという馬になる必要があつた』のだとしたら？

……神様が居るかどうかも知らないが、居るのだとしたらきつと一生、いや何度生まれ変わっても奴と話が合うことはないだろうな。まさに神の悪戯だ。

俺は、どうしたいんだ？ 俺は……………。

「……………どうしたポケ？　また考え事か？」

いつの間にか、ブーツとしていたらしい。おっちゃんが俺の鼻先を撫でた。

ふと見れば、池谷殿はいつの間にか居なくなっていた。だから幼名で呼ばれたのか。

「……………まあ、お前がどんなレースに出るのかなんて、頭悩ませるのは俺達人間の仕事だ。お前はただ、無事に、怪我なく走ってくれりゃあいい」

おっちゃんのその言葉。

なんてことのない、純粹に馬を氣遣うその言葉には。

なんだか、言霊というか。見えない力があるような、そんな気がした。

「おっ？　ハハハッ！　こら、舐めるなって」

おっちゃん。俺、走るよ。

三冠だろうが、古馬だろうが。海外だつて。

出るレース、全部勝つてやる。

おっちゃんが後々、「あんなすごい馬を世話したんだな」つて、一生自慢できるような馬になるよ。

俺にも走る理由はあるよ。俺、おっちゃんのしわくちやな笑顔が好きなんだよな。

その笑顔が見れるなら、歴史なんて知ったことか。何の因果か知らないが、競走馬になつたのなら全力で馬生を駆け抜けてやるさ。

だつて俺は、ウツドストックだ。

「……さて、ポケ。今日はポップスなんてどうだ？」

「ヒヒッ！ ブルルルッ！（おっちゃん好き！ 抱いて！）」

音楽大好きな、競走馬なんだ。

幕間〜とある掲示板のスレ〜

【競走馬】ウッドストックとかいう馬について語ろうぜ（ステゴ産駒）

1： ID：r h H n r / O l u

競馬詳しくないワイでも名前は知ってる馬やけどどんなやつなん？

2： ID：T x I F f B C P F

性格やベーやつから産まれた戦績やベーやつ

3： ID：8 s k k h r J z W

ステイゴールド産駒で文句無しの孝行息子やぞ

4： ID：d h o o x I s w O

親父に似てるけど親父に似てない

5： ID：I o j K l e h t F

哲学かな？

6 : I D : w Q G t K G / F Q

親父のステイゴールドはクツソ気性☒、超俺様気質の暴れん坊

ステゴの親も気性☒と気性☒のやべー配合で子供達ももれなく気性☒揃いなのに
ウツドストックだけやたら大人しいから「本当にアイツの子供か？」って関係者が皆首
を傾げたそう

7 : I D : 6 u z d 3 R Y x G

オルフェーヴルも大人しいんだっけ？

8 : I D : s H S L q 7 J h v

オルフェは大人しいは大人しいけど臆病などがあるし、調教もそんなに好きじゃない
い

ウツドストックはビビらないし調教も普通にこなすし見学客にめっちゃ愛想振る舞
う

そんでレースはクツソ強い

9 : ID : edXpmdbSq

厩務員曰くめちやくちや賢いらしい

シンボリルドルフみたいなタイプの賢さだったとか

10 : ID : wezlpSUQq

なんかテレビのインタビュウでやってたな

人の言葉をちゃんと理解してるし、返事もするとか

11 : ID : TmCJGdDNR

人間の言葉に相槌打ってた

調教師がウツドストツクの皮肉を言ったら服を引っ張って抗議した

人間の挨拶を見てお辞儀を覚えた

文字も理解してる節があった

鏡に映った自分を理解してた

カメラも理解してた、なんなら決めポーズもしてた

これでも一部やで、アイツガチで賢い

12 : ID : p g + 7 0 w / V j
 マ? 中に人間入つとんのか

13 : ID : e 2 b u J z l I z
 実際そう言われるぐらい賢かったみたい
 前世は人間かもしれない

14 : ID : n Z 7 B x q A 8 7
 そりゃ人間並みの知能持つててレース嫌がらず勝ちにいく馬とか強いに決まってる
 わ

15 : ID : C z L f X f s I b
 池谷「あいつの乗り方をあいつに教えてもらった」

16 : ID : / s b v P D L A e
 どういうことや?

17: ID: c u g 9 t 5 y H l

あるレースでウツドストックに乗った池谷は、池谷らしくない大外からの差しで勝利
インタビューでそれを聞かれると、「最後の直線で攻めあぐねた時、あいつが突然大外
に出て、そのまま差しきった。自分の乗り方を僕に教えてきた」って答えたんや

18: ID: I b 6 b H d G u V

屋根に競馬教えるとかほんまに皇帝みたいやな

19: ID: 0 I m l D m v T

ルドルフは気性☒やけどウツドストックは大人しいから似てるようで違うぞ

20: ID: J L l s U m A h F

皇帝は外面きつちりしてて厩舎だとライオン呼ばわりされる暴君
ウツドはイタズラ好きなぐらいで大人しいし人間にも愛想いい

21: ID: i 8 Y s f u w i E

皇帝は威圧感で周りが萎縮するタイプのボス

ウツドは周りの面倒見てたから慕われてたタイプのボス

22 : I D : D Q t u j n 9 v u

ウツドストックボス馬なんか

23 : I D : d Z z G M b t + G

ウツドは名君って言われてた

喧嘩仲裁して悩み相談していじめも止めてってしてた

それが積み重なって自然と慕われてボスになった

ちないじめを止めたときにいじめられてたのがオルフェな

24 : I D : V P W N H O E s M

マ?弟助けたんか

25 : I D : V b C I q l A 3 v

せや、だから馬にも人間にもビビるオルフェもウツドには懐いてた

もしウツドがいなかったらオルフェの性格も今より酷かったかもしれん
池谷振り落としとったかも

26 : ID : +x8NKv0ye

はえーウツドくんフラインプレーだったんすね

27 : ID : PDie71syo

あと栗東のボスだったトーセンジョーダンとも仲良し

最初ジョーダンがウツドに威嚇したけどウツドも怯まず応戦

そんでしばらく睨みあったあとジョーダンがウツドを気に入った

ウツドに懐いてたオルフェも可愛がってた

28 : ID : 7Ca f K / c k 8

ゴルシとも仲良いぞ

同じ厩舎で馬房も近かった二頭

ゴルシが喧嘩売るけどウツドも応戦

最終的に仲良くなった

ついでにジャスタウェイとも仲良くなった

29 : ID : g s y D C r 3 N T

なおオルフェとジャスタウェイは仲悪い

ジョーダンとゴルシも仲悪い

ウツドは板挟みで振り回されてた

30 : ID : x d b 5 o e Q r z

かわいい

31 : ID : y Y d N f P + s J

かわいそうだけどかわいい

32 : ID : F N F 9 j n 5 D z

まるで中間管理職みたいだあ……

33 : ID : m A H h I E Q M A

でもやっぱウッドストックといえれば音楽大好きなところだよな

34: ID:wIIgnrvMA
どういうことや？

35: ID:FqejpzqhB
文字通り音楽大好きなんやで
ロック聞かせたらヘドバンするんや

36: ID:l b 3 p M y k e T
マ？

37: ID:cKkDsekpr
いくらなんでも嘘やろ

38: ID:sSStdlmX
今すぐウッドストック ヘドバンで調べろ

39 : ID : M B W C 8 R C 3 n

マジヤんけ草

40 : ID : i l i a S n + P 3

キ〇クリでヘドバンしてて草なんだ

41 : ID : l I W v T 4 V w +

ウツソだろお前

42 : ID : o p T j 0 L 9 3 8

フア—w w w w w w w

43 : ID : Q U G z N 3 9 i l

よくよくみたらちゃんとリズムに合わせて振ってて大草原

44 : ID : f t 0 u f i q 5 L

馬ってこんな大音量で音楽聴かせたら普通ビビるやろ
ファンファーレとかは抜きにしても

45 : ID : / E I I N e 9 B q

だから珍しいんやで

46 : ID : f e g r b i B s Y

しかもただ音楽が鳴るとヘッドバンする訳じゃなくてジャンルや曲調の違いを理解して
てる

ロックでもBPM低い曲とかポップス、ソウルだとヘッドバンじゃなくて単にリズム
取ってるだけの振り方だし

47 : ID : y J 5 G Q K w N s

エモい曲とか往年の名曲だと涙流すぞ

48 : ID : T e 6 j W P P l f

感性がガチの人間で草

49 : ID : U h a Y b r a h r

なんなら最近ステップ踏むのも覚えてぞ

新〇島のMV見せたらボックスステップ習得した

50 : ID : K z A 9 B 2 Y S K

俺より賢くて草

やっぱ中身人間やろコイツ

51 : ID : 0 l v x b s B P l

全く別方向でステイゴールドの子供ですね……

52 : ID : D m l h h T E Q +

ステゴ産駒にあるまじき突然変異かと思ったけどやっぱアイツの子供だったわ

53 : ID : a b 3 h 4 r t O 6

お気に入りはり〇キン、レッ〇リ、ポ〇スらしい

あと○飢魔 I I

5 4 : I D : B T e F M q q A A

俺と好み丸被りで草

一緒にヘッドバンかましたい

5 5 : I D : E W m n l i I / r

牧場に許可取ったらええで

ウツドの世話してる厩務員が音楽流してヘッドバンしてるとこ見せてくれるぞ

5 6 : I D : + W 9 0 w Q D m u

マ?ちよつと有給とつて動画撮ってくるわ

ここにうpするやで

5 7 : I D : / 2 2 w Q k M u p

待つとるで

一緒にヘッドバンしてきてくれ

58 : I D : A P r e X A 6 A g

バズ動画間違いなしやん

59 : I D : r r r s 7 D p n W e

馬とヘッドバンかますとかいうパワーワード

60 : I D : m H p 8 U m n M 0

コイツおもしろー馬やな

ファンになつたわ

幕間2 ウッドストックがウマ娘になったら

『ウマ娘』

人とは異なる耳と尻尾を持ち、人間を軽く凌駕する身体能力を持った、謎の多い種族。この世界とは異なる、別世界のウマの魂を持つて生まれてくると言われている彼女たちは、太古の遙か昔から、途方もない時間を人間と共に過ごし、交わってきた。

彼女たちは、走るために生まれてくるという。いつの頃からか、人々はウマ娘が競い、走る姿に熱狂するようになっていた。それは現代においても変わることなく、むしろより熱い娯楽として洗練されていった。

トレセン学園。正式名称「日本ウマ娘トレーニングセンター学園」。

全寮制中高一貫、URA主催『トウインクル・シリーズ』と呼ばれるウマ娘レースで活躍することを夢見る、2000人以上のウマ娘が在籍するマンモス校である。

「はあ……………はあ……………」

校内では静かに走ることに。そんなトレセン学園独特の校則も、中庭を律儀に校則に則って静かに走るこのウマ娘には、今だけはもどかしく思うのだ。

「はあ……はあ……もおー、どこにいるんだろう……教室に忘れ物って言っても、20分もかからないはずなのに……」

人探し、もといウマ娘探しをしているらしい彼女は、トレーニング直前で「忘れ物」を取りに教室へ戻っていったきり、いつまでも帰ってこないチームメイトを連れ戻すようにトレーナーから言われており、トレーニング時間のロスを少しでも短くするために奔走していたのだ。

外にはいない。もしかしたら、まだ教室で探し物をしているのだろうか。件の尋ね人は高等部なので、中等部である彼女はあまり立ち入らない。少々緊張するが、人探しのため、ひいては自分の為だ。

ウマ探し中のウマ娘は、丁寧に靴の泥を落としてから高等部の校舎へ入っていった。

階段を二段飛ばしで軽快に駆け上がる。ウマ娘である彼女の脚力をもつてすれば、平地を駆けるのときほど変わりない。

「そんなに見付けにくいものなのかなあ……………んっ?」

不意に、彼女のウマ耳がピクリと動く。人間よりも優秀なウマ娘の聴力が、遠くで微かに聞こえる何かを拾った。

「これは……………人の声? それも沢山……………もしかして」

彼女はその複数の声が聞こえる方へ向かって、先程よりも速度を上げて走り出す。三段、いや四段飛ばしで階段を駆け上がるパワーとスピードは、筆舌に尽くしがたい。

声のする方向は四階。探しているウマ娘の教室がある階だ。やはり間違いない、あの人はまた人だかりに囲まれているのだ。

「もーっ、昨日も気を付けてくださいねって言ったのに……………まああの人だから仕方ない

のかな……」

その面倒見のよさから後輩たちに慕われているあの人のことだ。きっとプレゼントだのサインだのせがまれて断りきれずにいるのだろう。

彼女が曲がり角を曲がってすぐに視界に飛び込んできた光景は、果たして彼女の予想通りの結果だった。教室の廊下、その一角にウマ娘の人だかりができている。

「やっぱりー！」

半分呆れ顔になった彼女は、小さくため息をついた後、大きく息を吸い、人混みに向かって大声を出した。

「ウッドストックさーん!!」

突然の大声に人混みから声が消え、代わりに彼女へ一斉に視線を向ける。彼女は気に

せず、もう一度大声で探し人——ウッドストックというらしい——に呼び掛けた。

「トレーニングの開始時間、とつくに過ぎちゃいましたよー!? 早く行きましようよー!!」

「おおー! ごめんなスペー!! すぐに行くよー!!」

その声に間を置かず、ウッドストックらしき中性的な返事が返ってきた。ややあつて、人混みの隙間を縫うように一人のウマ娘が出てくる。

端正な顔立ちに、鹿毛と流星、さらには黄色いメッシュの入ったセミロングの髪。右耳には黄色い羽根飾り。

すらりと長い手足を纏わせながら、スペと呼ばれたウマ娘に駆け寄っていく。

「もー、気を付けてくださいねって言ったじゃないですかー! ウッドさん、押しに弱いんですから!」

「ははは、スペに言われちゃ世話ないな……」

「な、なに言うべ!! 私そこまで押しに弱くないですつ! ウッドさん反省してるんですか!」

「ゴメンって、反省してるって……なあ、機嫌直してくれよ、あたしのかわいいスペシャルウィーク〜」

「かわつ……もう！ 早くトレーニング行きましょう！ トレーナーさんも怒ってますよ！」

「おっと、そりゃあ不味いな。あいつ意外とねちっこいんだよなあ怒り方………つーわけで悪いな皆、また今度な」

えーっ、という取り巻き達のブーイングを背に、ウツドストックとスペシャルウィークというらしい——はトラックへ向けて歩き出す。

「……相変わらずモテモテですね、ウツドさん。クッキーいっぱい」

「有り難いことだよ。ただ、あたし一人じゃ食べきれないから、後でチームのみんなで手伝って欲しいな」

「えっ、いいんですか!?! で、でもくれた人に悪いんじゃない……」

「多分近いうちにまた貰うことになるだろうし、腐らせちゃうのも勿体ないからさ。頼むよ」

ウッドストックの言葉に、そういうことなら、いやでも、としばし唸った後、スペシャルウィークが口を開いた。

「……いい、一応！ 一応チームの皆にも確認しましょう！」

「ふふ、やっぱり食べたいんだ。目が食べたいって言ってたもんな」

「そ、そんなこと……」

「スぺ、よだれ」

「えっうそ」

「うそだよ」

「………つもう!! ウッドさんなんて知りません！」

「あつ、ちよ、スぺー！ ゴメンってば、置いていかないでくれよー!!」

とうとう顔を真っ赤にしてスペシャルウィークが走り出し、ウッドストックが後を追いかける。その顔は二人とも、どこか楽しそうだった。

トレセン学園きつての実力派、かつ癖の強いウマ娘が集まる、チーム『スピカ』のなれというわけではない日常である。

【キャラクター紹介】

ウツドストック

誕生日 4月15日

身長 167cm

体重 増減なし

スリーサイズ B86 W60 H84

鹿毛、右目よりの流星あり

耳飾り 右側、黄色い羽根飾り

髪型 セミロングのウルフカット。流星に沿うように黄色のメッシュを入れている

容姿 切れ長つり目、美人系の顔立ち。リョテツとしている

勝負服 ゴスパンク系、シヨートデニム、ニーハイブーツ

私服 シンプルな白シャツとグレーのジャケット、デニムパンツ

音楽とレースをこよなく愛するウマ娘。休日は駅前でストリートミュージシャンをしている姿を目撃される。

男勝りな口調と。パンクな姿から誤解されがちだが、本人は温厚で世話焼き、成績も優秀。ギャップにやられた後輩ウマ娘たちに慕われている。

ゴールドシップやトーセンジョーダンと仲がよく、そのためかよく二人の喧嘩に巻き込まれている。

「あたしの走り、よく見ときなよ。心が燃え滾るような、熱い夢を魅せてあげる」

弟と

前回のレースから数日。例によつてしばらくの間、俺は馬なりの調教で調整を行つていた。ここの人たちは馬を馬とも思わないような人畜でなくて本当によかつたと思う。

特に脚回りを気にしてくれている。まあかなり脚使つてぶつちぎつたから心配されるのも当然か。

馬つて言うと、一般的に俺のようなサラブレッドをイメージしがちだが、これはレース用により速く改良を施してきた歪な進化だ。馬という種族全体で見れば競走馬は大きさに對して病的なほど痩せているらしい。

特に脚回りはスピード特化しすぎて、時に「ガラスの脚」と揶揄されるほど脆い。なので競走馬にとつて脚の怪我は死活問題だ。

なにせ血液を循環させるためにも、心臓だけでは足りず脚を使うのだ、馬というのは。脚を動かすことでポンプのような役割を果たし、全身に血液が行き届く。

脚が動かないというのは、血液が巡らない、つまりやがて訪れるのは死だ。脚が生命

線である馬にとって、脚を酷使する競走馬は文字通り生きるか死ぬか。

故障や怪我をして引退した馬がどうなるかなど想像もしたくない。乗馬になるならまだいいほう、最悪は馬肉かミンチにされて家畜の飼料だ。

進むも地獄、引くも地獄。脚が壊れるか勇退して種牡馬入りのチキンレースだ。

まあ、未来のことなどどうなるか分からん。俺はただ、レースの一つ一つに真正面から挑んでいくだけ。馬畜生になったことに少しでも意味を持たせたいだけだ。

「おーおー、向こうは大変だな……」

ある日いつものように馬具を付けてもらっていると、近くの馬房が騒がしいことに気付いた。方向からしてオルフェーヴルの坊主の馬房だ。

そういうや今日はオルフェと一緒に走るんだっけ？ 併せ馬というか、アイツに競馬の手本を見せるような感じになりそうだが。

気になって調教師の兄ちゃんに見に行きたいと、兄ちゃんと騒がしい馬房の方を交互に見て伝える。最近は何に聞いてかなり頭がいい馬だという認識が関係者間で浸透しているの、このぐらいのジエスチャーでも伝わることが多い。

「見に行きたいのか？ いいけどお前まで騒ぐなよ」

失敬な。よつぽどのことがない限り騒ぎませんよ。俺をなんだと思ってるんですか。馬ですかそうですか。そうです私が変なお馬さんです。

兄ちゃんの言葉に若干ムツとして鼻先で小突く。「いてて、悪い悪い」とそこまで悪びれていない様子で俺の引き綱を持って歩き出した。俺だからいいけど女性にまでそんなこと言ってるんじゃないでしょうねあーた。

にしてもアイツ、何を暴れてるんだ？

（やだ！ やだー！ 行きたくない！）

予想通り騒いでいたのはオルフェーヴルだった。俺の引き綱を引いてきた兄ちゃんとは別の調教師の人が必死に抑えている。

「どうした？」

「コイツ今日は機嫌が悪いみたいで……頭絡着けようとしたら暴れだしたんスよ」
「なるほどな、こりゃー見事な暴れっぷりだ」

「どうやら調教に嫌気が差したようだ。怪我させないように暴れてる辺り器用なやつ
ちや。」

「しやーない。ここは俺が一肌脱ぎますかね。」

「あつ、おいウツド！ 危ないぞ！」

兄ちゃんの制止を振り切つてオルフェの馬房の前まで近寄る。大丈夫、喧嘩する訳
じゃないから。

（オルフェ！）

（へっ？ あつ、兄貴!?!）

よつほど調教に行きたくないらしい。必死で暴れていたから俺にも気付かなかつた

ようで、俺が声をかけたら驚いてピタリと動きを止めた。

というか最近兄貴って呼ばれるんだけど慣れないから勘弁してくれないかな。以前はお兄ちゃんお兄ちゃんって可愛げがあつたのに。

「おお？ 止まった」

「ウツドが止めたのか？」

（兄貴助けて！ 外行きたくない！）

（そんなこと言ったってしょうがないだろ、お前も俺も走るのが仕事なんだから）

（やだよ！ まだ外暗いよ!? 熊とか出てきたらどうするのさ!!）

（野山じゃねーんだから出てこねえよ……）

コイツのビビリっぷりも筋金入りだな。

（お前そんなわがまま言ってるともう構ってやんねーぞ？）

（うぐ……それも嫌だ……）

（それにいいのか？ あんまり駄々こねてたら）

(こ、こねてたら……?)

(お前最悪ミンチにされて豚の餌だぞ)

(ひいいい!?)

「いやー助かったぞウツド」

「ブルルツ(おう)」

「ヒイン……(兄貴ひどい……)」

俺の脅しがよほど効いたらしく、その後オルフェはビツクリするほど大人しくなって馬具一式を身に付け、俺と一緒にトラックへ歩いていく。

(兄貴の鬼……)

(失礼な)

俺も本当に体調が悪そうだとか、そういうのだったら兄ちゃん達の方を止めてたさ。でも今回はオルフェのワガママだから容赦しません。

「よし、行くか。ウッド、軽く走るぞ」

「ヒヒッ（あいよ）」

まずはウォームアップだ。これは本当に大事。筋肉も準備させないといらん怪我するからね。

（行くぞオルフェ。俺の真似して付いてこい）

（分かった）

いつまでも落ち込む暇なんて与えんぞ。俺と走るからにや馬視点からもビシビシしごいてやる。

「その調子だ」

「ブモツ（おう）」

風が気持ちいい。ウッドチップの感触を確かめながら筋肉を温める。ちら、と後ろを見る。オルフェは………付いてきているな。

（ヨレてるぞ！ まっすぐ走れ！）

（押忍！）

こうしてみると、若駒としてのオルフェーヴルはやはりいい馬だ。粗削りだが、力強い走りをする。

さすが、俺の知っている歴史で三冠を獲った馬だ。ネタ要素も強いけど、それ以上に強い馬だ。俺のような中身人間の馬もどきとは違う。

（鞍上の指示を待つだけじゃ駄目だ！ 自分でも考えて走れ！）

（お、押忍!!）

だから、俺の存在意義を少しでも増やす。今はまだダイヤの原石であるオルフェーヴ

ルを、馬の視点からも鍛え上げる。

そうすれば、万が一俺が怪我で走れなくなつたとしても、俺が教えたことをオルフェが覚えていてくれるはずだ。

未来の三冠馬に、俺と言う存在を刻み付けたい。

俺が、ウツドストックという馬として生きた意味を、少しでも多く、この世界に。

……ちよつと独り善がりが過ぎるか。反省。

「よし、一杯だ！　いくぞー！」

「ヒヒッ！　ブルルルッ！（おう！　オルフェ、全力だ！）」

「ブモッ！（押忍ッ!!）」

今はまあ、この弟との時間を大事にすごそう。

将来、ライバルになるだろう、この強い弟と共に。勝負もなにも関係なく走つた時間を心に刻み付けよう。

(ハハハッ！ 楽しいなオルフェ！)

(余裕かよ！ 僕もういっぱいいっぱいだよ！)

「今日のオルフェーヴル、すごく大人しかったツスね」

「やっぱウッドストックと居ると素直だよな……」

「……これからも、優先的に併せてくれませんか？ 多分あの二頭なら相性もいいし、仮

にオルフェが暴れてもウッドが抑えてくれるでしょうし……」

「あー………まあ、上に掛け合ってみるよ。許可が出るかは分からないが」

初めての重賞レース

『抜けるような青空に恵まれました中山競馬場、ターフも絶好の良馬場。GⅢ「ラジオリッケイ杯2歳ステークス」、間もなくスタートいたします』

「頑張ろうな」

「ブルルルツ（おうとも）」

冷たい風が吹き荒ぶ競馬場。俺ことウッドストックさんは、いよいよ2歳馬として最後のレースに挑む。

初めての重賞レース、GⅢだよ。これ走れるだけでも相当の上澄みですよ。そんなレースをまさか当事者、しかも馬として走ることになるとは果たして誰が予想しただろうか。前世の俺に言っても鼻で笑われるな。

いやー何度か走ってきて慣れてきたかと思ってたけど、流石にグレードレースってなると緊張してしまう。今まで無敗で走ってきたけど、ここからは多分そう簡単にはいか

ないだろう。

なにせ、今日の一番人気は……。

『さあ本日が一番人気です、大武騎乗、ヴィクトワールピサ。馬体も艶がよく、しっかりと仕上がっているのが実況席からでも分かります』

『単勝1.6倍ですからね、皆彼らがどのように勝ち上がるか楽しみにしていると思いますよ』

前世でも名馬として有名だったヴィクトワールピサと、それを駆るレジエンド、大武。このペアを差せるかどうか……池谷殿と俺の息がぴったり合わないと感じた。

あの二人にどうやって対抗するか……なんてことを考えていると、ふと目に留まる一頭の馬。

あれに見えるのは件のヴィクトワールピサじゃあないか。挨拶しとこうかな。

(どうも、よろしく)

(……ああ、よろしく)

お、ちよつと無愛想だけど返事してくれた。

(……今日は俺が勝つ)

おおう、ちよつと威圧されちやつたぞ。随分とストイックな御方のようぞ。

だけど同時に、この自信のありようも納得だ。見てくださいよこのつやつつやの身体。堂々とした眼。強者のオーラが滲み出てますよ。
なるほどなるほど、こりや参ったな。

俄然疼いてくる。

(負けるつもりはない)

(……そうでなくては困る)

(ハハッ……じゃあレースで)

(……ああ)

お互いに決して長くない会話を交わし別れる。

なるほど、これが。これが強者か。
ああ、疼く。楽しみで仕方がない。

「……………やるぞ、ウッド」

「……………ヒヒッ！（ああ！）」

池谷殿も火が着いたようだ。それでこそだ、相棒。

見せつけようぜ。

強いのはお前だけじゃないと。

『さあ第三コーナーに入って先頭からしんがりまでおおよそ十二馬身といったところか、先頭はダノンシャンティまだ変わりません、続いてアドマイヤテンクウ、コスモファ

ントム、サクラエルドールと続いて一番人気ヴィクトワールピサはその内、一馬身後ろからヒルノダムール、半馬身離れてタニノエポレット、アドマイヤプリンスと続く。そしてここまで無敗の注目馬ウツドストック、最後方で不気味に脚を溜めています』
『今まで差しの競馬をしましたでしたが今回は追い込みなのででしょうか、はたまたこのレースは流すつもりか、気になりますね』

うーむ、今回の池谷殿は俺に追い込みをさせるつもりらしい。

いつものように差しの位置取りでスタートしたはいいが、池谷殿が突然手綱を絞ったので困惑してしまった。

「まだだ……まだ抑えろ」

俺に言い聞かせるように、はたまた自分に言い聞かせるように呟く池谷殿。ピサとはまともにやりあわず最後方から捲る作戦かね？ 追い込みなんてぶつつけ本番だけど上手いこといくかなあ？ やれと言われりやまあやっではみまずけど。

仕掛けどころは恐らくこの第三コーナーの出口あたり。ピサは中団やや後ろといったところか。じわじわ脚を使って上がっていつてるの見える。

……さて、池谷殿。そろそろかい？

「……………行け！」

おつ、手綱を弛めたな。んじやあ上がつていくとしますかね。

えーつと、内ラチで順位争いが苛烈してるな。この場合は外から行くのが正解かね。それじゃ、ちよいと失礼しまして。

『さあ第四コーナーに入ったところでヴィクトワールピサ上がつていく！ 内からねじ込むようにぐんぐんと順位を上げてきた！ それに続きますコスモファントム！ 未だにハナを進みますダノンシャンティ逃げ切るスタミナは残っているでしょうか!?!』

ピサが上がつていくか。その後ろには……コスモファントムがつけてる。おーおー二頭揃つて力付くで馬群を抜けるか。

俺もそろそろ脚使つていくか。幸い外はしつかり空いてる、邪魔するやつは居ない。

「行け！」

池谷殿から鞭も入ったことだし、気合い入れて飛ばしますか。

『さあ最後の直線だヴィクトワールピサがダノンシヤンティを躲して先頭に立った！
その後ろをコスモフアントムが追いかける！ 二頭の叩き合いになるか!? ダノンは
伸びない！ その後ろからヒルノダムールも来た！』

（俺が勝つ！）

（いいや俺だ！）

（待ちやがれ！）

うは、すげえな前の方。ガチンコ勝負じゃん。あんなとこに突っ込みたくねえなあ。

「ウッド、外だ！」

「ブモツ（了解）」

池谷殿も同じ考えなのか、手綱を外ラチ方向に引つ張る。このまま大外からちぎれてか。

いいぜ、やってやろうじゃん。ぶつちぎってやる。

『残り2ハロンで熾烈な戦いだ！ ピサか!? コスモか!? それともダムールか!?』

……………いや!? 外から!! さらに大外からもう一頭突っ込んできた!! ウツドストックだ!! ウツドストック猛烈な勢いで突っ込んでくる!! 最後方からすさまじい剛脚!! あつという間にダムールを躲して先頭の二頭に迫る!! 残りは200m!!』

(嘘だろ!?)

躲したダムールが驚愕したように嘶くが俺は意に介さない。目標は目の前のピサだ。内にピサ、外にファントム。そしてその大外から俺、さてさて向こうはどう出るか。

(……お前！)

(よう)

(なっ、誰だ!?)

あんたとはお初だなファントムさんよ。だが挨拶もそこそこにちぎらせてもらうぜ。
俺はピサに用があるんでな。

(クソツ、冗談だろ!?)

必死で首を下げて前へ前へ走っているが、ファントムはもう保たない。最後の最後で
ペースを乱されりや余計な体力も使うだろう。ズルズルと後ろに下がっていくのが見
えた。

さあピサ、決闘と洒落込もうぜ。俺とあんた、どっちが勝つか根性比べだ。

(……やるな！)

(あんたこそ！)

(だが負けない……!)

(差す!!)

このまま差せるかと思つたがピサめ、ここに来てさらに伸びるかよ。ファントムはもう下がったのにすげえ根性だ。

だけど……。

『ファントムは伸びない!! ウッドストックかヴィクトワールピサか!? 大武か!? 池谷か!? どちらも譲らない!! 大接戦だ!! 両者鞭が飛ぶ!! ウッドか!? ピサか!? どっちだ!』

舐めて貰っちゃ困るんだよ!! こちとら元人間、ここでバテるような莫迦な走り方はしてねえ!! 脚は十分に残ってる!!

さあ人間共俺を見ろ!! その目に焼き付けろ!!

そして刻み付けろ!! 俺の名を!!

(くっ………!!?)

俺の名は!!

ウツドストック!!

芝を駆けるロックスター!!!

ウツドストックだ!!!!

『ウツドだ!! ウツドストック躲した!! ウツドストック躲して前に出た!! そのまま
ゴールイン!!』

凄まじいまでの剛脚!! 最後方から全て撫で斬ったあ!! これはとんでもない馬が
出てきた! GⅢラジオN I K K E I 杯2歳ステークス! 制したのはウツドスト
ック!! 二着クビ差でヴィクトワールピサ、三着コスモファントムです!』

『これはクラシックレースが楽しみですね! 私も興奮してしまいました!』

「やったなウツド！」

「ヒヒンツ！（おう！）」

いやー今回ばかりは疲れたぜ。全力も全力で長いこと走ったからもー疲労困憊。しばらくは走りたくねえなあ。

ウイニングランもそこそこに息を整えよう。なんだい池谷殿、もうちよい走れって？無理無理、もう全力だったから脚ガツクガクだもん。

（……………ウツドストック）

（んお？ ピサ）

池谷殿とわちやわちやしていると、後ろから走ってきたピサが俺と歩幅を併せて声にかけてきた。正直あの無愛想ぶりからして向こうから話し掛けてくるとは思ってなかったよ。

(……お前、強いな)

(そつちこそ。一瞬負けも覚悟した)

特にあの最後の伸びはビビった。お前まだそこから伸びる脚があるのかと。負けん気は相当らしい。

しかも俺が全力疾走して今にも脚がくずおれそうなのに対して、向こうはまだ余力がありそうな感じ。これが本物の化け物馬か。こりやうかうかしてたらあつという間に埋もれるぞ俺。

(……次は負けない)

(……また勝負しようぜ)

(ああ……)

そう言ってピサは離れていった。なんだろう、えらい馬に目をつけられた気がするぞ？

(やい！ やいテメエ！)

(うおつ、なんじゃ!?)

後ろからいきなり嘶かれてビックリした。振り返るとヒルノダムールがぷりぷりした様子で近付いてきて、その後ろからはコスモファントムが付いてきている。え、なにこれ。俺カツアゲでもされちゃうの？

(この俺を簡単に追い抜きやがって！ 次はこうはいかねえからなチキショーめ！)

(お、おう……………)

(なんだその目エ！ 莫迦にしてんのかテメーこの野郎ストコドツコイ！)

(なんだお前面白えな)

ダムールお前そんなキャラだったのか。

(お前さんやるな。後ろからこられてビビった)

(ファントム。あんたもいい走りだった)

(そう言ってくれて嬉しい。ウッド、次は負けないぜ)

(ああ、またやろう)

フアントムはなんだか爽やかなやつだな。ああいう手合いは話していて気持ちがいから好きだ。

(オイ聞いてんのかテメーウッドストックこんにやろーめ！　これで勝ったと思うなよ
テメーバーローチキショーめ！)

(落ち着けて)

(コイツこれでも褒めてるんだよ。分かりにくいけど)

(うるせー余計なこと言うんじゃないやねえフアントムてやんでえこの野郎！)

(これは照れてる)

(難儀なやつちやなあ……)

こつちはなんかめんどくさいやつだ。端から見てる分にはいいが相手するとなると疲れるんだな。俺馬になってから学ぶことが増えた気がする。

「ウツド、お前モテモテだな」

「ヒイン……（皮肉かそれ）」

絶対面白がってるでしょ池谷殿。証拠に顔がニヤニヤしてるもん。

それに牡馬ばかりにモテても嬉しくねーし。どっちかといやライバルだし。せめて牝馬にモテてーよ池谷殿。

「……ま、これからもよろしくな。相棒」

「…………ブルルツ（おう）」

来年からは3歳馬………いよいよクラシックレースが始まる。

俺の人生、もとい馬生は多分このクラシックのためなのだろう。きつと。

三冠獲ったら燃え尽きるかもしれんな。

「……あ、帰ったらはちみつあるってさ」

「ヒヒッ！ ブモツブモツ!!（マジか！ おい早く帰ろうぜ池谷殿!!）」

「あつ、こらウツド！
落ち着けて！！」

ウッドストック、やらかす。

「ほーれいくぞウッド、ほい再生」

Y E E E E A A A A H H H H H !!

音楽最高おおおおお!!

……はい、のっけからすみませんウッドストックです。

最後のレースからまた数日経ちまして、年が明けました。とうとう2010年代ですよ。今年もよろしくお願いします。

で、なんでいきなりテンション爆アゲでヘッドバンかましてるかといいますとですね。

「うわ、本当にノリノリですね!」

「すごいでしょう？　コイツ本当に音楽好きなんですよ」

はい、ただいまテレビの取材を受けてるんですよ。どうも俺の「音楽聴かせたらヘドバンする」っていう奇行がメディアにも伝わったらしく、ローカルの放送局の取材のオフアアが来たんですよ。

いま俺の放牧エリアの外、柵の向こう側にテレビクルーと女性アナウンサーがいらっしやる訳なんですけども。俺の行動に素で驚いたらしく、スタツフからも笑い声が聞こえてくる。

なんだいなんだい、こっちは三度の飯より音楽が好きで好きでたまらないだけのただのお馬さんですよってに。

あんたたち人間さんだって十人十色の個性があるわけなんだから、馬にだって色んな奴がいますよ？　音楽好きながらも珍しくもなからう。人語を喋るわけでもなし。

まあ別に撮りたいんだったら撮ればいいんですけど。ええんか？　こんなもん地上波に流して視聴率とれるんか？　まあとれるでしょうね。前世の俺ならテレビの前で大爆笑してる自信あるわ。

「折角ですしおやつあげてみます?」

「え、いいんですか?」

「賢い子ですから。噛んだりはしませんよ」

「そうやね、指食つても美味しくないもの。」

「冗談はさておいて、だ。おやつくれるのかい?」

「じ、じゃあせつかくなので……」

「ハイこれ、人参スティックね。慣れてないのも分かりますから、いきなり動いたりはないですよ」

「は、はい!」

「明るく返事を返して、慣れない手付きで人参を差し出すアナウンサーのお姉さん。やつぱり怖いのかちよつと手が震えている。」

「いやこれアレかな? さっきのヘッドバンで怖がらせた可能性が無きにしもあらずでは? でもこれ取材したいって言ったのそっちだから俺は悪くないぞよ。」

まあどうでもいいや、気持ちゆっくり首を動かして人参ステイックに近付けて、唇で人参くわえて持っていくと。

「おお～………人参あげましたね」

「お客さんは不慣れなのが分かってるので、ゆっくり動いてたんですよ。僕があげるとこんな感じ」

はい今度はいつもの早さで人参をパクツと。

「えっ、早い!？」

「これがいつものペースですねえ」

テンポよく差し出される人参をひよいパクひよいパクと。

「本当に賢いんですね！」

「人懐っこいし優しい子ですよ。見学に来てくれる人にも愛想がいいですね」

「これでレースではすごく強いんですよ」

「いやー手前味噌になりますけど、コイツなら三冠も夢じゃないなって思ってますね」

お、なんだいおっちゃん俺に三冠獲って欲しいのか？ G Iレース三冠欲しいのか！

三冠！ いやしんぼめ！ ってか。

おっちゃんが喜ぶなら、俺頑張ってもぎ取ってくるぞ？

「三冠、獲ってきてくれるか？」

「ヒヒッ！（おう！）」

「おおく、お返事するんですねえ」

「コイツ多分人間の言葉分かってるっぽいですよ。例えば……ウッド」

おん？ なんぞや？

「3 + 4 は？。」

……えっ、答えろと？

え、えーと、まあ7ですよね？　じゃあえーつと、どう伝えるかな……あ、脚で壁を軽く叩くか？　コンコンコンつと。

「……………おお〜!？」

「頭いいでしょ？　もう一個いくぞウッド、 $8 \div 2$ は？」

今度は割り算かよ。えー、4だから4回叩けばいいな。

「またまた正解ですね！　普段からやられてるんですか？」

「いや、いま初めてやりました」

「ええっ!？」

「まあコイツなら出来てもおかしくないって思っていましたからね。あまりにも賢いので」

いや、咄嗟に計算して答えちゃったけど、これ今、とんでもないことやっちゃったんじゃないのか俺……………？

やったことない四則計算が出来る馬って、それだけで神馬かすわ妖怪かってなりませんかこれ。

「まあこんだけ頭がよけりやあ、そりやあレースでも強いってなもんですよ。僕にも分けて貰いたいねえこの賢さ、ハツハツハ!!」

「あ、あははは……………」

いやおっちゃん楽天的すぎるでしょ、お姉さんも取材陣も引いちゃってるよ。これ、世に知れたらえらいことになるんじゃない……………。

「迂闊すぎますよ!!」これで研究所に入れられて一生研究漬け、みたいなことになったらどうするんですか!!」

「いや、申し訳ない……………」

あの後、おっちゃん（と俺）がやらかしたことに關して、オーナーの人から物凄い叱られた。

当たり前だよな、繰り返し教え込んだならまだしも、やったこともない四則計算をやって答えられる馬なんて前代未聞だ。

「あのシーンはカットして貰うよう頭下げて頼み込みましたけど、多分資料としてずつと残りますよ!？」 出回ったら大変なことになりますよ!？」

「弁解のしようもございません……」

「ああ、せめて引退まで世に出ないでくれ……」

うーん、確におっちゃんの樂觀さが原因とはいえ、咄嗟に答えてしまった俺も悪いよな。分かんないふりして無視すればよかつたんだし。

オーナーさん、本当にすまん。俺からも頭下げるから、おっちゃんばかり責めないでやってくれ。

「お、おいウツドどうした?！」

「急に座り込みましたね……頭下げて……土下座、のつもりですかね？」
「……俺を庇ってくれるのかい？」

庇うというか、やらかした責任は俺にもあるし。連帯責任ってことでここは一つ。

「……………コイツも、事の大変さが分かるのでしょうか」

「……………今までの事を考えると、それもおかしくありませんな」

「……………今回は彼に免じて、これ以上は言いません。ですが、今後はくれぐれも気をつけてくださいね」

「はい、大変ご迷惑をおかけして……………」

どうにかオーナーさんが矛を納めてくれて助かった。

……………マジで流出させないでくれよテレビの人。ああ、本当の意味で黒歴史じゃねえか。

「ブモツ、ブモツ（へへッ、兄貴でもやらかすことあるんだな）」

「ブウウルルルヒヒインツ!! (なに笑ってんだオルフェてめえ蹴り飛ばすぞ!)」
「ヒイン! (八つ当たり反対!)」

後日放送されたVTRでは、問題のシーンはきちんとカットされていた。

馬体艶々のやべーやつ

『晴天に恵まれました中山競馬場。真冬の冷たい風に晒され、よく乾いた固い芝は果たして馬にとって吉と出るか、凶と出るか。中山競馬場、芝2000m。GⅢ〔京成杯〕が始まろうとしています』

うん、今日もいい天気だ。絶好のレース日和じゃないかね。

どうもウッドストックさんです。今日はGⅢの京成杯に出場するよ。前回のNIKKEI杯からまだそんなに経ってないけど、競走馬のローテーションってこんなものなのかね？

まあ相変わらず俺としては一戦一戦を大事に、真剣に、全力で走るだけさ。壊れたらその時よ。

「どうだウッド？」

「ブルルツ（平気だよ）」

鞍上の池谷殿には強気に返したけど、どうなるかは俺にも分からん。脚に痛みとかもないけど。むしろ絶好調だけど。

さて、今回はどの馬がライバルになり得そうかなつと………んお、すげえピツカピカの馬がいらっしゃる。調子が良さそうだなあ。

『本日の一番人気、横田騎乗エイシンフラッシュ。実況席からでも分かる馬体の艶、かなり仕上がっていますね』

『これは走りにも期待できますよ。一番人気に推されるのも納得です』

『二番人気をご紹介しましょう、池谷騎乗ウツドストック。こちらも落ち着いていますね。返し馬でも軽やかな走りを見せてくれました』

『ここまで無敗ですのでこちらも期待が高まります。横田操るエイシンフラッシュに池谷はどう仕掛けるでしょうか』

へえ、俺二番人気か。随分と期待されてるんですね。

ま、何番人気でも俺がやることは変わらん。ただゴール目指して走り抜くのみ。

(よーう、そのあんちゃん
ん?)

レースに向けて集中力高めところかな、などと思っていると、例のピツカピカなお馬さんに話しかけられてしまった。

改めてみると本当に毛艶がいいな。並のお馬さんならたじろぎそうなぐらいキラキラしてる。

(今日はよろしくな。自分エイシンフラッシュユッての)

(ウツドストツクだ。よろしく)

(あんちゃん最近イケイケらしいじゃん? 自分の厩舎でもあんたの噂で持ちきりなんだぜ)

(マジで? 最近くしゃみよく出ると思ったわ)

(風邪じゃなくて良かったな)

(まったくだ。こんなくしゃみなら大歓迎だよ)

最初に見た印象とは随分と違って、なんだか調子の軽い奴のようだ。こちらも軽く冗

談を返しておこう。

(まあお互い頑張ろうぜ)

(ああ、それじゃあレースで)

(おう。ただまあ……)

だが、こういう奴ほど油断ならないんだよな。

(……………勝つのは俺だぜ?)

ほらな。

最後の最後で俺を射抜くように睨み付けるエイシンフラッシュ。なるほど、そつちが本性か。

おちやらけた雰囲気か鳴りを潜め、その目の奥に燃える闘志が俺にプレッシャーをかける。こりゃあ、確かに強者だ。

だからこそ、滾る。

(俺が勝つさ)

ああ、楽しみだ。血が熱く煮えているかと錯覚するほどに、興奮している。

(……………)

(……………)

最後はお互い無言で睨みあったまま、どちらからともなく離れた。

おお、こわいこわい。血走った目で物凄く睨まれちった。お前は俺に親でも殺されたんかと。

『……………いまようやく離れました。エイシンフラッシュとウッドストック、レース前の返

し馬で勃発しました激しい睨み合い。勝負に勝つのは自分だと、互いに主張して譲らないかのようでした』

『お互いを強烈にライバル視しているかのようでしたね。喧嘩になつてしまふかと思いましたが、大事にならず済んでホツとしています』

『観客スタンドからはこの二頭に対して割れんばかりの歓声と野次が飛んでおります。一番人気と二番人気の睨み合いから始まりました京成杯、波乱の予感をひしひしと感じます』

「……………大丈夫かウツド」

「ヒヒツ（大丈夫）」

池谷殿が心配そうに俺の首を撫でてきた。どうやら相当な時間睨みあつていたらしい。いやー最近の若いもんは血の気が多くていかんね。俺もか。

……………さて、あの漆黒の牙城、どう崩していこうかね。

『第三コーナー回った、ここで順位をもう一度。先頭はアドマイヤテックウ、その後ろに

ログ。一番人気エイシンフラッシュは三番手、続いてフラガラツハ、タイムチェイサー、アースステップ三頭並び立てる。半馬身離れてブルーソックス、外からローグランド、トーセンマリーンもここ。この辺りからウッドストックじわりじわりと上がってきているか？ 最後方はブルーグラス、フーガフューグとなっています』

『注目のウッドストックですが差し、追い込みが得意とのことで、勝負を仕掛けるならコーナー回ってすぐでしょうか』

さてさて、どうするつもりですかね池谷殿は。そろそろ上がっていかないと追い付けないぜ？

「……………いぐざ」

あいよ。前は三頭で争ってるがどう行こうかしら……………おつ、今回は内から？ ちよつと膨らんでるから内を突けど。了解。

(げっ!?)

(じゃあの)

追い抜こうとしてるのは、タイムチェイサーか。後ろから追い抜かれる気分はどうだ、追跡者さんよ。

その次は、おっ？ フラッシュくんじゃないか。折角だ、挨拶がてら後ろから圧掛けてやる。

(はろー)

(……………！)

ビックリした？ ねえねえビックリした？ あらやだそんな怖い目で睨まないでよーフラッシュくんこわーい。

(行かさねえ…………)

(ほう？)

鞍上の横田氏もこちらを牽制しているのか、少し内ラチに寄せてくる。内からは抜か

せないと。

そりゃあ内一杯なら走る距離が結果的に少なくって済むからな。誰だってそうする。俺だってそうする。

でもな。

『さあ最終コーナーを回る馬群、先頭は変わらずアドマイヤテンクウ、後ろにログと付けてエイシンフラッシュとウッドストックが三位争い！ ウッドストック抜け出すかエイシンフラッシュ抑え込むか!?!』

多分池谷殿は最終コーナー出口で仕掛けるつもりだろう。以前にもやったからな。

「……………いいか？ ウッド」

返事代わりにハミを噛んで伝える。嘶いて返事する余裕は流石にねえ。競いあつてる相手は化け物揃いだから、気を抜いたらあつという間に後ろに沈む。

さあ、もうすぐだ……おつ、横田氏が鞭を入れた。フラッシュが一気に加速して先頭に突っ込んでいく。

「今だ！」

こつちも鞭が入ったな！ よっしややつてやるぜ！

『さあ最後の直線だ！ 中山の直線は短いぞ！ 先頭はアドマイヤテンクウ、後ろからログを躲してエイシンフラッシュ！ さらに出口から大外回ってウツドストック飛び出した！ ログは4位に後退、後ろからタイムチェイサーとフラガラツハも上がってくるが!? 決着は先頭の三頭になるか!?』

（来たか！）

大外から思いっきりブン回して、誰にも邪魔できないコースで一気に加速する。池谷

殿と調教で何度も何度も練習したこの位置取り。

斜め前でフラツシユがまた睨み付けてくる。テックウとよろしくやっててくれ、俺はこのまま抜け出すから。

(させねえ!!)

(邪魔するな!!)

おっと、流石に許しちやくれねえか。テックウもフラツシユもさらに伸びていく。特にテックウは掛かってんじやないかと思うほどの脚の回転。フラツシユも負けぢやない。

流石だ。どいつもこいつも化け物ばかりだ。GⅢでこれなら、GⅠはどうなっちゃうんだ？ 今から武者震いしちまいそうだ。

『伸びる伸びるまだ伸びる！ アドマイヤテックウ必死に逃げるがエイシンフラツシユ躲して先頭！ しかしウツドストックが!?! ウツドストックが大外からかつ飛んでき

た！ N I K K E I 杯で魅せた剛脚が炸裂する！！』

(ウツドオオオオ!!)

(フラツシユウウウ!!)

互いに限界まで脚を回す。根元がちぎれそうだし、肺が酸素を求めて痛いし心臓が破裂しそうだ。

だけど、だけどよ。それがどうした。

こういうのを求めてたんだよ俺は!! 強者と鎬を削るデッドヒートをよ!!
お前も、お前もそうだろフラツシユ!! キツイよなあ!? 死にそうだよなあ!?
だけどそれ以上に!!

(勝つのは俺だツ!!!)

愉・し・く・て・愉・し・く・て、仕方がねえんだよなあ!!?

『壮絶なデッドヒート!! エイシンフラッシュか!? ウッドストックか!? 鞭が飛ぶ!! 後ろからテックウもう一度迫るが!? 前は既に三馬身以上!! 芝を抉って駆け抜けるツ!! ウッドか!? フラッシュか!? どっちだ!? どっちだ!? 互いに譲らず二頭並んでゴールインツ!!!』

これがGⅢのレースで良いのでしょうか! 白熱の死闘を繰り広げました二頭に、
声 が 卷 き 起 こ っ て い ま す !!』

『これは写真判定ですね……どっちが勝ってもおかしくありませんよ』

(ゼエツ……ゼエツ……!!)

くつそ……しんどツ……フラッシュめ、なんて奴だ。全力で走ってたのに引き離せなかった。

ああくそ、肺が熱い……酸素が、酸素が足りねえ……!

(ハアツ……ハアツ……)

横を見ると、俺と同じく疲労困憊といった様子のフラツシユ。目の焦点も合ってるんだかいなんだか分からん。

(や、やるじゃねえかウツド……)

(あんたもな……)

(あーもうダメだ、しばらく走りたくねえ)

(同じく)

この時ばかりは意見が一致する俺たち。あー池谷殿、そこ、そう首の後ろあたり擦つてて。なんとなく回復しそう。

……で、これ多分写真判定だよな？俺から見てもフラツシユと同時にゴールしてたように見えたし。

(あー、これは俺の負けかなあ)

横でフラッシュがそんなことを呟く。

(なんだ、弱気だな?)

(いや、なんとなく、勘だけどき。俺、最後の最後で競り負けた気がするんだよな)

(ほう)

『……………確定ランプが灯りました! 一着はウツドストック!! ウツドストックです!! 二着はエイシンフラッシュ、その差は…………2cm!! ハナ差2cmの決着!! 大接戦です!!』

(ほらな)

(ホントだ)

いい勘してるなフラッシュ。しかし2cmって、本当にギリッギリじゃねえか。こ

りや皐月賞までにもつと鍛え直す必要があるな。

(いやー負けた負けた！ お前本当に強いなあ)

(あんたもめちやくちや強かつたよ。正直次は当たりたくないね)

(つれないこと言うなよーまた走ろうぜー)

(冗談だつて、あーもう鼻を擦り付けなさんな)

『ウツドストックにエイシンフラツシユが鼻を擦り付けていますね』

『健闘を称え合っているんでしょうか、馬も競った後に友情が芽生えるのかもしれないね』

『往年の少年漫画のような、思わず胸が熱くなる光景ですね。観客席からは惜しみ無い拍手が送られています』

「やっぱりモテるなウツド」

「ブルルツ（うるせーやい）」

名馬に癖ありとは言うが、馬になってからこつちその言葉が身に染みるよ。どいつもこいつもホントキャラが濃いわ。俺？ 今更つまんねーこと聞くなよ、元人間だぞ濃いに決まってるだろ。

「お前とならどこまでも走れる気がするよ」

「ヒヒッ（おう）」

心配しなくても、どこまでも乗せて行ってやんよ。俺の鞍上はあんただけだ。

そうだろ、相棒。

「今日のご褒美はリンゴだってさ」

「ヒヒッ！ ブモツブモツ（やったぜ！ さっさと帰るぞ相棒！）」

「あつこら慌てるなって！ 前にもやったぞこれ！」

厩舎のボスは誰？

「そうだ、もっと踏み込め！」

「ブルルツ！（おう！）」

1月ももうすぐ終わり。寒さは未だ厳しく、吐く息は真っ白。雪もはらはらと舞うそんな中、俺はひたすら坂路を駆け上がっていた。

京成杯を走った後判明した俺の弱点。それはラストスパートで底をついた持久力。ゲーム風に言えば「スタミナが足りない」状態だ。

俺の持ち味は調教師の兄ちゃん曰く、「自分である程度考えて走れる賢さと、最後の直線で活きる圧倒的な剛脚」だという。

その脚を活かすために必要なのは、純粋なスピードと、最後の直線まで維持できるスタミナ。俺に足りないのは持久力だ。

実際、京成杯は走り慣れた距離のレースであるにも関わらず、終わってみれば俺はへ

トヘト、汗だらだらの脚ガツクガクというなんとも情けない姿を晒した。

考えられる原因としては、最後にエイシンフラッシュと競り合ったこと。それ以前までは競り合いにならずすぐに抜き去ってしまっていたので、競り合った経験がない。

そこに根性とスタミナで勝負を仕掛けてきたフラッシュと叩き合いになったことで無意識に掛かってしまい、ペースが乱れ、スタミナを削られてしまった………というのが兄ちゃんの見解だった。

実際当たっていた。フラッシュと競り合いになったとき、俺は「俺についてくるやつがいる！ 勝負できる奴がいる！」と嬉しくなっていた。

あの、命までも削り取るような熾烈なデッドヒート。俺が望んでいた、強力なライバルとの根性比べ。とうとうそれを叶えてくれる馬と出会って、俺は嬉しさのあまり全力的どころか力みすぎた走りをしてしまった。

余計な力が入った走りは体力をより消耗させる。理性を飛ばした走りは端から見れば強いが、それはただの「暴走」であって、俺の純粋な実力ではない。

兄ちゃんは言及しなかったが、俺に求められるのはスタミナだけではない。

どんな状況でも自分のペースを崩さず走る『冷静さ』、そして兄ちゃんの言う剛脚を最

大限活かせる『スピード』。馬である俺が馬なりに考えて出した結論。俺が俺自身に課した課題。

例え上り坂だろうが重馬場だろうが変わらない脚を。どんな場面でも俯瞰して分析できる冷静さを。それを支える、強靱な心肺を。

その一心で、坂路を駆け上がる。ただひたすら強く、速く。もつともつと、どこまでも走りたい。まだ見ぬライバルたちと鎬を削るレースをするために、自分の身体を徹底的にいじめ抜くんだ。

「あ、ウッド！ 待て、ストップだ！」

「ブモツ？（へっ？）」

「もう坂路のノルマは終わったぞ！ 休憩だ！」

「……………ヒヒツ（ウツス）」

まあこうして気持ちちが空回りしてるうちはまだまだですがね。集中しすぎて気づかなかったわ。

(……………)

(……………)

で、厩舎に戻る途中で見慣れないお馬さんにもものつすごく睨まれているわけなんですけども。なに？ 俺自分でも気づかん間に恨み買ってるの？

多分違う厩舎の馬なんだろう。今まで会わなかったのは単純に時間が被らなかったからかな。

それにしたってすごい形相ですよあなた、視線でダメージ入るならすでに致死量じゃありませんかね。

(……………オイ)

(あ、はいなんでしよう)

(初対面の相手にはまず挨拶だろうが……)

どう接したものが悩んでるうちに向こうから話しかけられたと思ったら、ものすごいドスの効いた声で正論言われてしまった。それはまあそうなんですけどそんな怒ること？

(ウツドストツクだ。あんたは?)

(トーセンジョーダン)

トーセンジョーダン? あ、見たことあるぞ! ゴールドシップとクツソ仲悪くて会うたびに絡まれてたあの馬か!

そういや栗東トレセンのボスマだったってなんかで見たけど、そうかそうか今まさにボスマ全盛期か!

確か自分で喧嘩売ることはない、みたいな話も聞いた気がするんだよな。今回は挨拶がなかったからボスとして怒ってるわけね。

(ジョーダン、まずは挨拶しなかった非礼を謝る。次のレースのことで頭が一杯だったんだ)

(……まあ、俺も似た経験はある。そこまでうるさく言うつもりはねえ)

（あ、嘘でも「あんたからの熱い視線でドキドキして言葉に詰まった」って言えばよかったかな）

（……………謝るのか喧嘩売るのかどっちかにしろ）

（いや悪い、こういうギスギスしたのは苦手なんだ。目を瞑ってくれると助かる）
（……………お前おかしな奴だな）

まあ馬としておかしいのは自覚してるが、性格はそんなに悪くないはずだぞ。これでも同じ厩舎の馬とはそれなりに仲良くやってんだ。

オルフェ？ 愛ゆえの厳しさだよ。

（別に喧嘩売るとかもしないし、ボス云々にも興味はねえんだ。ただ仲良くしてくれると嬉しいなって）

（今までいろんな奴を見てきたが、お前みたいなことを言う馬は居なかったな）
（まあ、アンタを見てビビる奴は多いだろうな）

なにしろオーラというか圧がすごい。ボスとしての風格というか、俺とジョーダンどっちがボスっぽい？ って十人に聞いたら十二人くらいがジョーダンって答えるぐ

らい。

俺は別にボス争いとか興味はないし、やりたい奴は勝手にやってくれ、ぐらいの認識でしかない。せつかく同じ競走馬なんだから、レース以外のときぐらい和気藹々としてても良いじゃない、ぐらいの価値観だから俺は。

(俺にとつちや、あんたは強面なだけで普通の馬だよ、ジョーダン)

(……………なに?)

(好きでボスやってます、って面構えでもないしな。あんたにだってボス云々抜きで仲の良い奴はいるだろ? その仲に俺も入れてくれないかなって)

(……………)

(嫌なら良いんだ、無理にとは言わない)

(……………ハア)

ちよつとちよつと、なにその溜め息は。鋼通り越してヒヒロカネの心を持つウッドさんでもちよつと傷つきますことよ?

(……………ウッドストックだったか)

(ん? ああ)

(……………機会があれば顔を見せに來い。雑談ぐらいならしてやる)

(…………マジで!? 行く行く絶対近いうちに顔見せるわ! 俺の馬的に滑らない話が火を噴くぜ!)

(…………普通は脅しって思われるんだがな。お前本当に変な奴だな)

なんかジョーダンが小声で言ってるけど別にいいや! あの栗東の大物ボスと友達とか孫の代まで自慢できるぜ! いや俺って今はお馬さんだから下手すると玄孫にも自慢してるか?

(よろしくなジョーダン!)

(あつ、おいやめろすり寄るんじゃないやねえ! お前俺がボスって思ってるやないだろ!?)

後でオルフェに自慢してやろつと。

「……………」

「池谷さん、どうしました？ うどん食いながら難しい顔して」

「……………ウツドがトーセンジョーダン号と一瞬で仲良くなりました」

「……………トーセンジョーダン号と？ 舎弟になったということですか？」

「そのわりにはなんだか距離が近くて、どちらかという友達と言った方が近いような

……………」

「……………アイツ本当になんなんだ？ 栗東の大ボスだぞ」

「俺、最近ウツドストックが大物なのか底抜けのバカなのか解らなくなってきました」

「癖馬乗りの池谷さんが言うなら相当ですね……………」

後にオルフェにこの事を自慢したら、「兄貴寝ぼけて夢でも見たの？」とか宣いやがったので顔面に尻尾をぶち当てておいた。

Side pretty Ep. 00 —『あたし』は
ウッドストック—

(どうして)

どうも皆さん、なぜか競走馬になつてしまった元人間のウッドストックです。今日も今日とて大変よいお天気。雲一つない、抜けるような青空に燦然と輝く太陽が眩しいです。

(どうして)

そんな俺が今どうしているかという、現在日の光差し込む実家のベッドの上でごろ寝しております。

え？ 実家のベッドって言うけど厩舎の寝藁のことだろって？ いやいや本来の用途で使われる真正正銘の人間用のベッドでございますよ。

馬なのにベッドで寝れるのかって？ いやいや、実は馬ではないんだな今の俺。人間

だったところと同じように二足歩行で手も使えて、肉も魚も問題なく食せますよ？

(ウマ娘ってなんだよ……………)

純粹な意味での人間ではないんですがね。人間の身体に馬の耳と尻尾が付いたような、いわゆる「擬人化」のような形で馬から生まれ変わってました。それでさつき前世と前前世を思い出しました。

なんなん？ ウマ娘ってなに？

ああいや待て、そういや俺に競馬を教えた先輩と上司がウマ娘だなんて言ってたような覚えがあるぞ？ 競馬談義の合間にチラツと出た程度だから完全に記憶から抜けてたが。

なるほどこれがウマ娘ちゃんですか？ 確かにウマで女の子で、読んで字のごとくウマ娘と。ほほーなるほど、確かにこりやあ分かりやすいなってやかましいわ。なんで普通に人間にしてくれなかったんだよ。もう馬関係のあれやこれやはしばらく腹一杯だよ。

しかも女の子だぞ？ 俺人間時代も馬時代も男だったんですけど？ 牡馬も牝馬も関係なしだよ、生まれ変わったら訳あって女の子ってか、最高に笑えねえ冗談だぜこんちくしょう。

「はあ……………」

声を出して溜め息でも吐きやあ自分の物とは思えん高い声だしよお。いかんちよつと泣けてきた。

なんなの？ 神様が居るかは知らんが、居たとして一人の人間の人生をこんなに弄んで何がしたいの？

何かしら意味があるのか？ それとも暇潰しか？ はたまた愉悦に浸りたいがだけに俺をこんな目に遭わせてるのか？ どういう理由にせよ地獄に堕ちても構わんから一発顔面ぶん殴らせてくれ。

……でも、今のこの姿にほぼ違和感がない自分が居るのも確かなんだよなあ。魂が過去を思い出したとしても、この身体でそれなりの年月を過ごしてきたから馴染んでし

まったのかもしれない。

「よーよー」

ベッドから起き上がり、部屋を見回す。そこまで広くはないが綺麗に整頓されている。自分がキレイ好きなのが半分、今世の母上の腕が半分。手が届かないところは母上の独壇場だ。

勉強机の横には、6歳の誕生日に買って貰ったギター。当時は何故か解らなかったが、漠然とギターを弾いてみたいという欲求が出てきて、父上に無理をお願いして買って貰ったものだ。

今なら解る。人間の男だった時にかじった事と、音楽好きだった事が無意識に影響したんだろう。今でも大事に手入れして、時間を見つけては練習している。

部屋の入り口には、壁に掛けられた大きな姿見。立ち上がって姿見の前に立つと、映るのは小学生ぐらいのかわいらしい女の子。記憶では今は11歳。

どちらかという美人系の顔立ちだろうか。切れ長のつり目と右曲がりの流星が、年齢の割に高めの身長と相まって、どこか大人っぽさを感じさせる。

「……………はあ」

これが今の俺かあ……いや不細工に生まれるよりは全然いいし、事実人間の頃よりも顔立ちは整ってはいるんだが、如何せん女の子なんだよなあ……。

なんだっけ、確かこの世界だとJRAならぬURAっていう組織があつて、そこが俺の記憶にある競馬に相当する「トウインクルシリーズ」っていうウマ娘レースがあるんだよな。

こんな姿に生まれ変わったつっことは、アレか？ 四足歩行の時にも思い浮かんだ、「この姿になった意味」を模索する系のアレなのか？

つまりトレセン学園に行けと？ そこで走れと？ 己が存在する意義を走って走って見つけ出せと？

「……………だるいけどやるかあ」

こうしてウマ娘として生まれ変わっちゃったからには、やっぱり俺の想像の及ばんと

ところで何かしらの意味があるんだろう。

そのためには、とりあえず勉強だな。トレセン学園ってそれなりに偏差値高いらしいし、今の学力だとちよつと心許ないし。

あ、その前に母上に許可を貰うのが先か。こんな大事なことで子供の俺だけで完結して良い問題じゃないしな。

「ポケちゃんのやりたいようにやんなさい」

「はあ」

秒でOKが出た。

いやいや母上、もうちよつときちんと話し合おうよ。トレセンだよ？ レースだよ？ 子供の将来を左右する超重要事項だよ？

一歩間違えたら放任主義通り越して子供に興味ない親みたいな感じになるじゃんもつと一杯お話ししようよ。あといい加減ポケちゃんって呼ぶのやめて。

「子供の行く道は親が決めるものじゃないからね。ポケちゃんやりたい、やってみたいと思った夢が、親である私の夢よ」

「お母さん……」

前世の母上もまあまあ豪快な性格だったけど、今世の母上はなんというかそれに輪を掛けて肝っ玉が据わっている。

母上自身はレースに出てた訳じゃなく、普通に就職して普通に恋愛結婚した普通のウマ娘だ。走るよりもやりたい夢があつたとかなんとか言つてたけど深くは聞かなかつた。

そんな人だけど、競争の世界は甘くないってことは重々承知だろう。それなのに娘をこんな気持ちよく送り出せるのか。

「……………響子」

母上が俺の名前を優しく呼ぶ。競走馬の名前でも、幼名でもない、今世での俺の本名を。

「あなたが何を思つてレースに出たいと思つたのか。何を目標にしているのか。お母さん深くは聞かないわ。その夢を真に理解できるのはきつと、あなた自身しかないでしょうから」

「……………」

「……………今までずっと無気力で、将来の夢もなにもないなんて言つてた子が。初めてやりたいことを言つてくれたんですもの。嬉しくないわけないじゃない」

母上は、ただ優しく、柔和に笑つた。心の底から、本当に嬉しそうに。

ああ、放任主義だなんて、そんなわけがない。この人は、何よりも自分の子供の幸せを一心に願っている。

どこまでも、この人は「母」なんだ。

「……………ウツドストック」

「……………えっ？」

「さつき降りてきたの。あたしの名前」

ウマ娘は、遠いどこかの世界に生きた生物の魂を宿して産まれてくると言われ、その自身の魂に刻まれた名前を、ある日突然雷に打たれたように思い出すのだという。

俺の場合前世と前前世の記憶つきだからちよつと特殊だけど、こうして実際に思い出したんだからまあ正解と言つて差し支えないだろう。

「そう、ウッドストック……………良い名前ね」

「うん」

「…………やるなら悔いは残さないように。大人になって、「もつとああしていれば、こうしていれば」なんて悩まないように、胸張つて全力でやっただつて自慢できるようになんない」

「…………うん」

母上が俺の頭を優しく撫でる。

その顔に浮かんだ笑みは、どこまでも優しく…………少し、寂しそうでもあつて。

そういうえば、最初は厩務員のおつちやんの笑顔が見たくて頑張つたんだよなあ、なんて四足歩行時代の事を思い出したりして。

今世でも、頑張ろうつて。今度は、母上が笑顔で、自慢の娘だつて言つてくれるよう

に頑張ろうって思えた。

「……………とりあえず勉強ね。あそこかなり偏差値高いから死ぬ気で頑張らないと受からないわよ」

「はい……………」

問題は俺自身の学力なんですけどね。まさか精神年齢おっさんになってから勉強に悩むとは思いましなかったよ。

それから数年が経ち、俺……………いや、あたしは、中央トレセン学園の校舎の前に立っていた。

もう、すごい大変だった。勉強は一度通った道だからなんとかなるかと思つたら全つ然覚えてないし、試験当日になつて道に迷うし。受験票忘れなかつただけ偉いと思いたい。

いやーしかしホントでけえなこの学園。JRAは公営、つまり国が資金出してゐるから分かるんだが、URAはどこから資金捻出してゐるんだろうな。

ウマ娘レースは賭博禁止とされてはいるけど、それじゃあチケット代とグッズ代で諸々の運用費賄つてることになる。学費も食堂も無料とか絶対金足りないだろ。ただでさえよく食うウマ娘が2000人は集まつてゐるんだぞ。

……一生徒のあたしが考えても仕方ないか。この事は深く考えないようにしよう。

「……………さて、行くか」

今日からあたしは、トレセン学園の生徒として、トウインクルシリーズを走る。

なんの因果か知らないが、ウマ娘なんでもものになっちまったからには、その意味を模索してみるのも一興だ。なあに、四足歩行の時に一回通った道だ、探すことには慣れるさ。

「……………なあ、君！」

「ん？」

「突然すまない、少しトモを触らせてくれないか!？」

「ナンパならもつと発言考えた方がいいぞ」

少なくともこの変質者紛いの男に脚を触らせるのが運命、なんてのは御免だが。

これが、あたしと、チーム「スピカ」のトレーナーとの出会い。

この男と共にレースに臨むことになるのは、この時のあたしは思っちゃいなかった。

幕間3～とある掲示板のスレその2～

【競走馬】ウツドストックについて語るスレ〔3スレ目〕

1：芝駆ける名無し ID：rSRUY3wU0

こちらは競走馬ウツドストックについて語るスレです
荒らし行為及びそれに反応する事はご遠慮願います

2：芝駆ける名無し ID：9dYVn0BLi

立て乙やで

3：芝駆ける名無し ID：ayjg+ixAJ

このスレも3スレ目か

早いもんやな

4 : 芝駆ける名無し ID : i f r Y y G T R I

ウツドくんの可愛さに気づき始めた馬ビギナーが集まり出したからな

5 : 芝駆ける名無し ID : C 3 / L c A I 4 h

まあしやーないウツドくんやし

6 : 芝駆ける名無し ID : o M c S Z A v j B

いろんな引退馬動画 W e t u b e とか s n s で漁ってるけど

やっぱ人間に愛想の良い馬つてのはどうしたって人気出るもんや

7 : 芝駆ける名無し ID : m p B A W t O R O

種牡馬つて普通気性荒くなるから一般人近づけんのに

普通にふれあいコーナーやってたウツド色々とおかしいよ

8 : 芝駆ける名無し ID : M k 2 G P 9 R Z u

あいつに馬の常識を求める方が間違つとる

9 : 芝駆ける名無し ID : z X B D O / r a r
音楽聴かせたらへドバンする奴やぞ今更よ

10 : 芝駆ける名無し ID : r H f r b f G y Y
ほんとそこが一番の謎
なんでアイツへドバンするんだ

11 : 芝駆ける名無し ID : u C K L q 9 n 9 s
ロツクを愛してるからや

12 : 芝駆ける名無し ID : C f i + r w A T X
答えになってないけど納得感あつて草

13 : 芝駆ける名無し ID : / g w z E l e 3 M
そもそもなんでへドバンし始めたんだ
きっかけがなきや馬にロツク聴かせるなんて思い付かんぞ

14 : 芝駆ける名無し ID : P C r 4 V 6 8 P 1

← デビュー前の放牧で見学客がケータイをマナーモードにしてなかった

← 鳴り出した着メロが偶然ハードロックだった

← ウツド、覚醒してヘッドバン開始

← 厩務員が面白がって色々聴かせた

← 音楽大好きになった。あとオーナーに怒られた

← 一連の事件を聞いた馬主が「ウツドストック」と名付けた

15 : 芝駆ける名無し ID : K A B k B 5 n Z U
草

16 : 芝駆ける名無し ID : J t g w e l h 3 F

厩務員なにしてんだよww

17：芝駆ける名無し ID：xGbh yh Psg

見学客もマナー違反なんだけどそれがなかったら今こうして俺らが話の種にしてない可能性もあるからなあ

18：芝駆ける名無し ID：aA5s6QORN

実際ウツドにとってはアレが運命を決めた瞬間やろなあ

19：芝駆ける名無し ID：H+08VNVpO

結果論だが本人が楽しいならヨシ！

20：芝駆ける名無し ID：TNjy3l ymm

実際めちやくちや楽しんでるよな音楽

21：芝駆ける名無し ID：s/HzFnY42

多分下手に知識付けた人間より純粹に楽しんでる

22 : 芝駆ける名無し ID : 8W + ZPN60c

疑問なんだがあれ厩舎で聴かせようってなった時どうしてんだ？

他の馬がビビるのでは？

23 : 芝駆ける名無し ID : ZxyI4Xx0f

ヘッドホン付けて聴いてるぞ

ロツク聴かせてもヘッドバンせず大人しくしてる

24 : 芝駆ける名無し ID : ZPMDeXKc /

時と場合を弁えてるのか……

25 : 芝駆ける名無し ID : DLpCSBI t

ウツドくんは本当に頭が良いなあ

26 : 芝駆ける名無し ID : kozjMbakl

ちよつと待った、馬の耳でヘッドホンって付けられるのか？

骨伝導にしたって使いにくくね？

27：芝駆ける名無し ID：PZs+gz5eh

馬の頭と耳に合わせたウツド専用のヘッドホンがオーディオメーカーからプレゼン
トされたんやで

特注一点モノや

28：芝駆ける名無し ID：lLpw t797n

マジかすげえなウツド

29：芝駆ける名無し ID：7SYECJsr2

それ実質ウツドストックしか使わないからプレミア付くの確実じゃん
他の馬は音楽なんて聴かねえしな

30：芝駆ける名無し ID：4ChduUCV

せやで

だからウツドが使い終わったらJRAで展示されることがもう決まっとるんや

31：芝駆ける名無し ID：gI81+LubO

馬用ヘッドホンとか世界で一つだけの珍品やな

そらコレクターには喉から手が出るほど欲しいし寄贈された方がよっぽどええわ

32：芝駆ける名無し ID：gYG2tGofR

ゴタゴタで壊れましたーってなるより全然良いわ

JRAも大事に扱うやろ

33：芝駆ける名無し ID：uGejpLUGT

ちなみに昔はウオークマンとiPod使ってたけど

今は馬房の壁にiPad掛けられててウツドがタッチペン使って自分で曲選んでるやで

ヘッドホンだけは厩務員に付けてもらわんとあかんけど

34：芝駆ける名無し ID：5BNr1IbJL

いやいやいくらなんでも頭良すぎちゃうか？

曲選ぶってつまりお気に入りの曲とか曲名覚えとるってことやろ？

つまり文字理解しとるってことやんけ

35：芝駆ける名無し ID：xCmJbyUxe

ジャケットも見れるやろしそつちで覚えとる可能性もあるぞ、シングルで購入しとる場合やけど

アルバムでまとめて購入してるとかだったらマジで文字理解してるかもしれん

36：芝駆ける名無し ID：RU8oKBMy

ウツドくんは多分マジで文字も読めるぞ

37：芝駆ける名無し ID：oxhWY7Y2

算数も出来るから文字理解しててもおかしくない

38：芝駆ける名無し ID：MIGrNE5VJ

ちよつと待った算数出来るってなに？

39 : 芝駆ける名無し ID : EGP2phnwj

W e t u b e にアップされとる動画見てみる

現役時代に地方テレビ局の取材で四則演算してるシーンがあるぞ

厩務員曰く「今初めてやった」らしいけどそれはさすがに眉唾って言われてる

40 : 芝駆ける名無し ID : b5404Wc2M

ええ……………もはや妖怪やんけ

それか中身ガチで人間やん

41 : 芝駆ける名無し ID : P T Z K o x t y T

実際そのシーンは公開されたら色々問題になるからってオーナー馬主がカットする

よう頼み込んだらしい

で厩務員はめっちゃ怒られた

42 : 芝駆ける名無し ID : u h J f 8 m 5 T Q

残当

4 3 : 芝駆ける名無し ID : 9 6 w L P x P E i

見てきたけどいやおっちゃんなにわろてんねん

楽観的っていうか大雑把というか

4 4 : 芝駆ける名無し ID : N 2 P i B l d F O

しかもこれウツドも戸惑ってないか?

なんか問題言われて一瞬固まって、「えっ、答えろと?」って言いたげな顔してるように見える

4 5 : 芝駆ける名無し ID : i D W Z 6 f L a o

反応がマジで人間くさいわ

しかもそのあと「いや分かるけどどう答え伝えんねん」って周りキョロキョロしてる

4 6 : 芝駆ける名無し ID : K 5 7 z I o D b +

おずおずと脚で壁叩いてるの可愛い

4 7 : 芝駆ける名無し ID : J H V p M e k t l

割り算も!?引き算じゃなくて!?

48 : 芝駆ける名無し ID : 9 j L D N f Y N q

これ絶対仕込んだったやろって思ったけど

それならウツドの反応が不自然やな

49 : 芝駆ける名無し ID : 8 8 I N c G O L 8

マジで困惑してるよな

しかもそのあと「これヤバイんじゃないの?」って不安げにおっちゃん見つめてる気がするんだが

50 : 芝駆ける名無し ID : Y A i J C 2 8 t Q

馬ですらやかしたことの重大さが分かるのにおっちゃんときたら……

51 : 芝駆ける名無し ID : 1 L I 8 R 6 x H 2

そら怒られますわ

こんなん当時に放映されとったら事件やで

5 2 : 芝駆ける名無し ID : J K O Q T 3 P j x

今の姿見るにカットしてもらったのは英断やったな

オーナー馬主有能

5 3 : 芝駆ける名無し ID : h y / k G p n k a

でもウッドもそんなおっちゃん大好きやしな

基本人間に愛想いいけどおっちゃんにだけ甘えかたが違う

5 4 : 芝駆ける名無し ID : l 9 e v t c U w U

馬房の掃除してると隅っこで大人しくしてるのに

終わった途端顔なめたり服引っ張って遊びに誘ったりする

5 5 : 芝駆ける名無し ID : s 8 6 W r z S G M

なんだそれかわい

5 6 : 芝駆ける名無し ID : x K w l 6 Z y I 8

想像したらかわいすぎて悶絶した

57 : 芝駆ける名無し ID : a6ytLvD3p
 しかも仕事自体は邪魔してないんだよな……

58 : 芝駆ける名無し ID : 8oriCWfow
 「あつ、部屋きれいにしてくれるんやな、大人しくしとこ」
 ←

「終わった？ 終わったよな？ じゃあ遊ぼうぜ！」
 かわいい

59 : 芝駆ける名無し ID : n+N3k8ACc
 クツソかわいい

60 : 芝駆ける名無し ID : luPSOMYR9
 子供にも優しい

座って目線合わせたりする

61 : 芝駆ける名無し ID : YDQ9YAdUT
友達もライバルも多いしな

62 : 芝駆ける名無し ID : aKsLjCo6i
そんないるの？

63 : 芝駆ける名無し ID : 8LrvOOUPY
オルフェーヴル↓弟、いつも一緒

ジョーダン↓ボス同士だけど仲良し

ヴィクトワールピサ↓超仲良し

エイシンフラッシュ↓めっちゃ仲良し

シロイアレ↓なんだかんだ仲良し

ジャスタウエイ↓芦毛じゃないけど仲良し

これでも一部

64 : 芝駆ける名無し ID : PGHYXHHJ6

少年漫画の主人公みたいなことしてんな

65 : 芝駆ける名無し ID : n s w v O i C l E
 戦った後に芽生えた友情多くて草

66 : 芝駆ける名無し ID : n F L O e m D 8 V
 ガチの陽キャやん
 ドトウさんレベルや

67 : 芝駆ける名無し ID : N I I P b L U l n
 ドトウも穏やかでどこでも友達作れる陽キャやけど
 ウツドはもう友達多いうってレベルじゃない

68 : 芝駆ける名無し ID : l F J 8 P F F o P
 強そうな奴は大体友達な馬

69 : 芝駆ける名無し ID : 7 l 8 S n / C J r

強キャラ過ぎない？

70：芝駆ける名無し ID：1BCO94zTJ

なお子供の頃はいつもボーツと空を見て何を考えてるか分からないので幼名は「ポケちゃん」

71：芝駆ける名無し ID：Cq5A98BZ5

ポケちゃんwwwwww

72：芝駆ける名無し ID：SNAroye5h

ポケちゃんかわいい

73：芝駆ける名無し ID：c8TPWg3jB

なにそれかわいい

74：芝駆ける名無し ID：RWVMxmDlD

厩務員のおっちゃん未だに幼名で呼ぶらしい

75：芝駆ける名無し ID：aAUXIGB2G

馬界のロックスターがポケちゃんとかギャップすげえ

76：芝駆ける名無し ID：xDRqZUZAi

ちなみにヘドバンし過ぎて柵に顎ぶつけて怪我したこともある

ぶつけた後の悶絶っぷりがかわいそうだけどめちやくちや笑える

77：芝駆ける名無し ID：mFJqoSgtf

見てきたけどマヌケすぎて草

78：芝駆ける名無し ID：YXTSDCji5

顎打った後ブモブモ言いながらゴロンゴロンするのが完全にダンスの角に足打った時の俺でメチャクチャ笑う

79：芝駆ける名無し ID：UOnoUgNhU

なおその後しばらくヘドバンしないように音楽聴かせないようにしたら明らかに調

子落ちたので仕方なく聴かせた

流石に禁止が効いたのかへドバンはウッドがしばらく自重したらしい

80:芝駆ける名無し ID:4XjQHkXTs

聞けば聞くほど面白いエピソード出てきてホンマ飽きんわ

やっぱこの馬面白い

G II、再会

雨か。この時期には少し堪えるな。

自分に降り掛かる冷たい雫を浴びながら、これから温まるからちようど良いかと思ひ直す。

京成杯からしばらく経った今日。いよいよG II 『弥生賞』へ挑む。

来る臯月賞に向けて、ひたすらに身体を鍛えた。弱点だったスタミナとパワーを鍛えるため、坂路とプール調教がメインになった。

それをこなしていくたび、より純粋なスピードへと直結していくのが分かって、楽しくなった。楽しいからもつと調教に身が入り、さらに速くなり……。

結果、自分でも満足いく素晴らしい仕上がりになりましたわ。見てこのパツツンパツツンのハムストリング！ ケツから腿にかけてのぶつとさ！ 水も滴る艶々の毛並み！！ あちこちの牝馬から人間の嬢ちゃんまでキヤーキヤー黄色い悲鳴が聞こえてくるようだ！ 幻聴だけど。

だが手に入れたこの強さと代償に、併せ馬ではより馬体がでかくなった俺に相手が萎縮してしまい、まともに付き合える奴がほぼいなくなってしまう。例外はオルフェとジョーダンぐらい。

そのため、競り合いになった際無意識に掛かってしまう癖は対策しきれなかった。オルフェとジョーダン相手だと余計に力入ってしまうから上手く出来なかったし。

どうも見知った相手というか、仲良くなった奴とだと余計に負けたくない気持ちが出て力んでしまうらしい。自分のことなのにコントロールが効かないっていうのは嫌になってしまうな。

その上初めての雨天レース。纏わりつくような芝の感触に辟易してしまう。いやもうホント馬の立場になって分かったわ、わざわざ雨ん中レースとかしたくねえわ人間鬼か？

どうすんのこれ、一步踏み出すたびにぬるぐちよの芝の感触が気色悪いし、しかも意外と脚が沈むから引き抜こうとするのも大変だし。こんなコンディション最悪の場所で走れって？ マジでふざけんじやないわよ馬だからって莫迦にしてんじやないわよ、まあ走れって言われたら走りますけどね仕事ですから。

「寒いなあ」

「ヒイン（せやなあ）」

大変なのは俺ら馬だけじゃないけど。そら騎手だつてこんな雨のなか走りたくねえよなあ。どうしたつて薄着になつちやうから、気温も相まつてクツソ寒いだろうし。

はやく終わらせて帰ろう。池谷殿も寒さでブルブル震えてるのが鞍越しに伝わってくる。俺の相棒が風邪でも引いたらJRAはどう責任とってくれるのかね。

……ともかく初めての重馬場なわけだが、うん、いつもよりぬるぐちよな芝に脚突つ込んでぬるぐちよな芝から脚引っこ抜かなきゃならんのだ。脚をとられないよう注意していこう。しょーもない怪我するよりは流した方がいい。

さーて、返し馬再開………ん？ あそこにいるのは……。

んん？

んんん!?

『前日から降り続きました冷たい雨。太陽を望む声も空しく、灰色の分厚い雲が中山の芝を重く湿らせませます。馬には厳しい重馬場、脚に纏わりつく泥のような芝をどう攻略するか？ クラシックレースの前哨戦、狭き門。ここを勝ち抜く馬は一体どの馬か？ G II芝2000m『報知杯弥生賞』、13頭立てです』

『今回注目なのはやはりヴィクトワールピサとウッドストックの再戦でしょうか。ピサが前回の雪辱を晴らすのか、それともウッドが無敗記録を更新するのか。注目のレース………なんですが』

(ピサ~~~~~!!!!!!)

(おい……)

(久しぶりじゃねーかピサ!! 会いたかったぜピサ!! 元気だったかピサ!! ちよつと痩せたかピサ!?! 飯食ってるかピサ!?!)

(おい、ウッド……)

(んほおお~~~~ピサの鬣モフモフであつたかいナリイ~~~~)

(怒るぞ)

(ごめん)

『え〜………ウツドストックがヴィクトワールピサに……なんでしようね、勢い良く駆けていったと思つたら激しく馬体を擦り付けていますね』

『久し振りに会つて嬉しいんでしょうかね……？ ピサの方は若干引いている、ようにも見えますが……』

『あー騎手もこれには双方苦笑いですね。まあ馬同士仲が良いに越したことはないですけども、今回は競争相手、ライバルですからね。レースに影響しないことを祈ります』

いかんいかん、久々にピサと会つたもんだからテンション上がってしまった。落ち着け俺。

(……お前、そんなキャラだったか?)

(いや嬉しくてつい)

(……牡に求愛されたくない)

(失敬だな親愛だよ)

(礼儀ありきだろ……)

む、ピサの言う通りだ。親しき仲にもって言うもんな、確かにこれは俺が悪い。反省。

(……それはそれとして、ウッド)

(ん？ おう)

(………今日はリベンジさせてもらおう)

嗚呼、このピサの圧を感じる視線、久々だ。

そうだ、お前はそうでなくちやな。

無愛想だけドクールな眼。その眼の奥で「勝利」を渴望する炎が燃えている。それでこそお前だ、ピサ。

(かかってこい)

だがタダで勝ちを譲る俺じゃねえ。人間から馬なんて数奇な生まれ方したなあと自分でも思うが、それでも競走馬として半年以上走ってきた。未だに無敗なのも相まってそれなりに勝利への欲求もプライドもある。

弥生賞。クラシック三冠へ向けて、ここでさらに勝ちを重ねておきたい。

お前には負けないぞピサ。

『ベストブルーム、スマートジェネシス揃ってコーナーを回ります。半馬身離れてコスモヘレノス、内にマコトヴォイジャー、そのすぐ後ろにアドマイヤテンクウ。少し開きまして外にヴィクトワールピサ、内にウツドストック、間に挟まれるアースステップちよつと落ち着かないか？ ダイワバーバリアンその後ろ、殿でダイワフアルコン、ミツシヨンモード、ビッグバンが連なっています』

ううむピサの奴め、外側にピツタリ付いていやがる。俺が大外からぶつちぎるのを牽制して、内に留めとくつもりか？

前は開いていない、というほどでもないが、抜け出すのは容易じゃねえ。

おまけにこの泥もかくやと言った芝が重苦しいこと！ 前を走る馬どもが散々に荒らしてくれたせいで走りにくい。うっかり脚を滑らせでもしたら大惨事だ。俺だけじゃなく背中中の池谷殿も無事では済まない。

こりや厭しいぞ。足元に気を配りつつ抜け出すタイミングを伺わなくてはならん。

池谷殿は……絞っている手綱を弛める様子はない。まだ仕掛けるつもりはないようだ。

にしたってなあ……このままだと本当に抜け出せなくなるぞ。おまけに……。

(ひえええ！ 内も外も怖い！ やべーやついて怖い!!)

俺とピサの間に挟まれてるアースステップくんがどうにも落ち着かない様子。

まあこんなガチムチの牡馬二頭に挟まれちゃ焦るのも仕方ないけど、頼むからビビって斜行してぶつかるとかは勘弁してくれよ。パニックになった奴ほど何するか分からないからな。

特に内ラチにいる俺にぶつかられると、池谷殿が弾かれてラチに激突する可能性もあ

る。そうなったら最悪内臓破裂も有り得るぞ。頼むから落ち着いてくれよ。

『さあヴィクトワールピサ動いた！ 先頭集団に向かって突き進む！ ウッドストック
まだ抑えたままだがどこで仕掛けるのか!? 間もなく最終コーナーに向かいます!』

おいおい悠長にしてたらピサが行っちゃったぞ。こっちはアースステップくんが邪魔で外側に行けねえってのに。

これもピサ、というか鞍上の作戦か？ いや流石にアースくんがこの位置で挟まれていたのは偶然だと思いたいが。

で、どうすんだい池谷殿。このままだと着争いにも入れないぜ？

「……………(´Д`)だ」

池谷殿が手綱を弛めたが、同時に内側へ手綱を引っ張った。おいおいこのまま内側から仕掛けるのか!? そんなことしたって前は馬群が……………。

開・い・て・い・る・？

『さあコーナ―を回る！ 前は変わらずベストブルームとスマートジエネシスが争っている！ 三番手は変わってアドマイヤテンクウ、その後ろでマコトヴォイジャーコスモヘレノスの二頭だが！ ヴィクトワールピサ上がつてくる！ ここからぐんぐんと上がつてくる仕掛けてきた！ 便乗とばかりに後ろへピツタリくつつくアースステツプ！ ウッドストツクは遅れたか!？』

いや！ 来ている！ ウッドストツク来ているぞ！ なんと他が避けた内ラチ一杯から仕掛けてきた!! 大荒れの田んぼを一頭力強く駆け抜ける!! これがウッドストツクの剛脚か!!』

「行け行け行けえ!!」

「ヒヒッ！（っしやあー）」

誰もいない内ラチをひた走る。横で馬も騎手もぎよつとした顔でこつちを見ているのが流れていく。

池谷殿の狙いはこれか。確かにこの雨だ、普段なら必ずと言っていいほど馬が通る最内は、直前までのレースで大荒れ、こんなところに好き好んで突っ込みたがる奴はいないよな。

だがあえて池谷殿はこの道を選んだ。俺だから、このコースを狙ったんだ。

他の馬なら避けるだろうと。俺なら問題なく走り抜けるだろうと。そう確信を持って作戦を立てたんだ。

言うて俺もこんな道得意じゃないけどね!?! 普段より沈むしそのくせ滑るし! 転ばんように落とさんようにつて余計に神経使うわ!!

行くけどね!?! 行きますよそりや池谷殿の指示だし池谷殿が俺なら行けるって信じてくれてんだし! 俺自身勝ちたいから行きますけどね!?! こんなとこ突っ込ませるとか命知らずなの池谷殿は!?!

でも実際問題わりと走れてるんだよなあこれが! コース空けてくれて感謝だよ他のみんな! おかげで俺はみんなが避けていく道を走る羽目になっちゃったぜ笑いた

きや笑えよ!! ああもう芝じやなくてもはやダートだよ感触気持ち悪い!! 馬使いの荒い野郎だぜ恨むぞ池谷殿!!

うわどうしよう段々ムカついてきた! なんでわざわざこんな田んぼ走って泥まみれになってんだ俺! 元はと言えばピサが外塞いだせいだなアイツ絶対え許さねえ!!

あつ、いたいた見付けたぞピサ! この野郎涼しい顔して走りやがって!

(よおピサア!!)

(……………ウツド!?)

(よくも内側に押し込めてくれたなあ!? おかげさまで見ろよこの泥だらけの有り様をよお!!)

(いや、それは…………)

(言い訳無用!! このレース終わったらこの泥だらけの身体擦り付けてやつから覚悟しとけよ!?)

(やめろ!!!)

あつ、ピサが加速した。流石にこの身体で近付かれるのは本気で嫌らしいな。

いいぜえ、それならマジで擦り付けに行つてやらあ！俺つてばこういう嫌がらせつて前世から結構好きなんだよなあ!? 人の嫌がることを進んで実行しますつてなあ!!

『ヴィクトワールピサさらに加速!! ウッドストックも飛び出してさあ最終直線四頭が争う大激戦!! 弥生賞を掴むのはどの馬か!? 残りは400m!!』

(待てやピサアアアア!!)

(やめろおお!!)

(なんじゃアイツら!?)

(ふざけた加速しやがる!!)

ああん?! 誰だ失礼なこという奴は! こちとら真剣なんでい!

いいや今は追い抜かした奴等のことなんざどうでもいい! このままピサを恐怖のズンドコ、じゃなかつたどん底に陥れてやるぜ!! そらそらもつとスピード上げろオ!!

『ヴィクトワールピサ粘る粘る凄まじいスピード!! 重馬場であることを忘れてしまい
 そうな勢いで直線を駆ける!! その後ろからウツドストックも猛追!! ウツドストッ
 ク猛追!! 荒れた芝を更に挟り飛ばしてグングンと加速!! 恐ろしいパワー!! その
 差は二馬身から一馬身へ!! あつという間に並んだ二頭最後の叩き合い!! 容赦ない
 扱きと鞭!! 残り200m!!』

(ピーサーくううん!! 一緒に泥んこ遊びしましよおおお!!!)
 (ふざけんなやめろ莫迦!!!)

『ピサか!! ウツドか!! 大武か池谷か!! 後ろは三頭が迫るがもはや追い付けない!!
 大激戦!! 大激戦だ!! 互いに譲らない!!』

いや!! 抜けた!! 抜けた抜けた抜けたウツドが抜けた!! ピサを躲してウツドが

抜けた!! 池谷が先頭を奪った!! 弥生賞を制したのは!! ウッドストックだあああ
!!』

っしやおらああああ!!?

あー危なかった!! マジで危なかった!! ギリッギリで差し切れたわ!!
途中でピサが失速しなかったらワンチャン負けてたわ! 八つ当たり気味に嫌がら
せしたけど意外と効力あったな!

「っしー!」

おーおー池谷殿もガッツポーズ決めちゃって! 泥まみれなのに笑顔が爽やかです
こと、これがイケメンのみに許された笑顔ですか!

あーしかしなんというか、やっぱりいつい掛かってしまうのはどうにも治らん
な。これ本当にどうにかしたいな。

(ウツド……………)

(あつ)

(お前よくもやつてくれたな……)

やつべ、散々嫌がらせしたせいでピサくんがちよつとお怒りだ。作戦とはいえ八つ当たりしたのが不味かったかな。

(ごめんピサ)

(許さん)

(許してお願い)

(許さん)

『おつと、ウツドストックとヴィクトワールピサが……なんででしょう、なにやら喧嘩でしようか?』

『相当競り合いましたからねえ、お互いに思うところがあるんでしょうか。それにして

は勝ったウッドの方が謝っているようにも見えるのは気のせいでしょうか……?』

(ピサくんホントお願い次は真面目に勝負するから許して)

(許さん)

(お願い人參お裾分けするから)

(許さん)

(お願いだってばよおこの通りだからさあ)

(うわっ、やめろ擦り付けるな泥を!!)

(許してくれるまでベツトリ擦り付けるぞお)

(わ、分かった分かった! 許すから! マジでやめろ!!)

(ホントに!? わーいピサしゆきい〜!!!)

(ぎゃああ!? 余計に擦り付けてるじゃねえかやめろ莫迦野郎!!!)

(ぴしゃ〜〜!!!)

(やめろおおお!!!)

『仲直りしたんですかね、ウツドがまたピサに身体を擦り付けていますね』

『というよりもピサに泥を擦り付けてますね、あの嫌がりっぷりから見てもそうでしょう』

『あー双方騎手も笑っていますね。観客席からも笑いが聞こえてきます』

『いやー面白いですねえ、ウツドストックという馬は。次はどんな姿を見せてくれるのか楽しみです』

(んほおお~~~~ピサの身体ホツカホカであつたかいナリイ~~~~)

(助けてえええ!!)

番外編 ウッドストックがアプリにいたら

【ウマ娘】ウッドストックについて語るスレ【アプリ】

・ ・ ・

36 : 芝駆ける名無し ID : deGvi35gT
無事メスにされました

37 : 芝駆ける名無し ID : 55qdmqTHy
夢女キラーにメスにされるのが性癖のライゲ

38 : 芝駆ける名無し ID : m/IgXNmZd
ヤバい最推しになるかもしれん

39 : 芝駆ける名無し ID : t s L j N Y X u H

イベントでいちいちこつちの心臓を破壊しに来るんですけど

40 : 芝駆ける名無し ID : n h q 4 l 7 x D P

男も女も関係なく脳と心臓を消し飛ばしに来る

41 : 芝駆ける名無し ID : 5 b J w a l V l j

人たらしも大概にしろ

42 : 芝駆ける名無し ID : i 2 P H O P N / k

あまりにも顔がいいしメタル系バンギャとかカツコよすぎる

なのに穏やかで悪戯好きでたまに天然かますとか完全に殺しに来てるわ

43 : 芝駆ける名無し ID : 4 f f A h P T I F

モブ娘にめちやくちやモテてたけどそりゃこんな美人にイケメンムーヴされたら落ちるわ

フジ寮長とは別ベクトルで危ない

44 : 芝駆ける名無し ID : Y y 4 J l U p 7 e

しかもオラオラ系から王子様まで幅広く演じ分けて堕とすからな
選択肢でリアルに30分ぐらい悩んだ

45 : 芝駆ける名無し ID : x x k G M W p + B

望んだシチュで夢魅せてくれるとか最高かよ

ちよつと女になつてくるわ

46 : 芝駆ける名無し ID : K p + u 7 i J c 8

人生を左右する選択をゲームで決めるな

47 : 芝駆ける名無し ID : y w i 4 M T w F 0

アブリトレーナーは性別自在だからヘーキヘーキ

48 : 芝駆ける名無し ID : m 9 T g T M 3 p C

あのトレーナー日毎に性別が変わってるのだ……

49 : 芝駆ける名無し ID : 8 t e U 9 C Z H G

この娘同室判明してないけど誰になるんだろう

50 : 芝駆ける名無し ID : z k 2 U N x o h j

史実から考えると弟のオルフェか親友のピサヤないか？

51 : 芝駆ける名無し ID : e R a s 5 X U y N

分からんぞ、全く関係ないウマ娘かもしれん

52 : 芝駆ける名無し ID : f / f w 8 H R K U

ライゲは嘘つきだからなライゲームスはいろんな意味でユーザーを裏切る事と、l i e ㄥ嘘という英単語を組み合わせた定型文。

53 : 芝駆ける名無し ID : U 4 K i 3 6 q m t

まあウッドが出たってことはピサも近い内来るやろ

アイツ無しじゃ語れんし

54 : 芝駆ける名無し ID : 8 h 2 Q R O F z J

分からんぞジャスタが未だに実装されないしピサも来ない可能性はある

55 : 芝駆ける名無し ID : l Q z 7 c b W P 3

ライゲは嘘つきだからな

56 : 芝駆ける名無し ID : x J g w 4 S Q N q

ピサのピの字も出てないから嘘も本当もないんだよなあ……

57 : 芝駆ける名無し ID : T M P n r G L G N

個別ストーリーで逆スカウトされて堕ちました

58 : 芝駆ける名無し ID : S m 9 U T i m r t

「あんたに夢を魅せたいんだ」ときて

「レースでもライブでも、最前列であたしを見てほしいんだ」からの

「あたしのトレーナーに……なっってください」だからな

59 : 芝駆ける名無し ID : g d D N O z J v 0

途中まで情熱的なイケメンだったのに最後の最後でしおらしいメスを出すなんて

60 : 芝駆ける名無し ID : 0 O W A P R H s P

かーっ卑しか女ばい!!

61 : 芝駆ける名無し ID : 0 L D V j d O l +

デジタル殿が尊みでまた爆発してしまう!

62 : 芝駆ける名無し ID : / 8 4 u q o W O 2

TSのイベントでそのデジたんが悪戯しに行ってるんだよなあ

63 : 芝駆ける名無し ID : Z F r k l s F H F

ウッドが出てくるイベント三つあるけど

デジタルの後ろから近付いて目隠しして「だーれだ?」ってするのが一番笑った

64 : 芝駆ける名無し ID : +QAMUuJvZ

当然デジたん気絶するんだけど慌てるでもなく腹抱えて笑ってるからなあ
「いやー噂には聞いてたけど本当なんだな！」って言う辺り確信犯やで

65 : 芝駆ける名無し ID : 9SR9dMjj /

その後気が付いたデジタルがウツドの膝枕と耳元で「おはよう」のコンボでもう一回
気絶して笑うと同時に羨ましいと思った

66 : 芝駆ける名無し ID : y1EVNUinb

ゴルシがやべーやつ認定したデジタルを振り回すウツドが強すぎる

67 : 芝駆ける名無し ID : KmWBGeW0 /

俺も顔がいい女子に膝枕されて耳元でおはようって囁かれない

68 : 芝駆ける名無し ID : GjIEYiqnv

やることなすことイケメン過ぎてはや男子なんよ

69 : 芝駆ける名無し ID : 4 p A 2 U A 7 w Z

アニメでも面倒見良かったしイケメンだし仲間思いだしすごい人気だったよな
二期でちよつと天然入ったけど

70 : 芝駆ける名無し ID : Q u f n F C l 2 j

スぺちゃん食い気味だったからしやーない

71 : 芝駆ける名無し ID : c Z 7 k U D N X

そのスぺちゃんも二期で賢さナーフされてたんですがそれは

72 : 芝駆ける名無し ID : u t + p 6 o i C 7

二期の主人公じゃないし……

73 : 芝駆ける名無し ID : m m l 4 V r w c I

確かにそうだけど身も蓋もねえな

74 : 芝駆ける名無し ID : ex1SbAaqe
 正直ウツド見ると男としての自信なくすよね

75 : 芝駆ける名無し ID : l3EmEAQjx
 イケメンにししか許されんムーブだから気にするな

76 : 芝駆ける名無し ID : 5 / VcdX9x
 それ暗にお前はブサメンだって言ってますかね……

77 : 芝駆ける名無し ID : 2TRlXP4fR
 ブサメンでも心は女の子になれるからセーフ

78 : 芝駆ける名無し ID : 8PfxXWfDf
 ブサメンでオネエとかエグいわ

79 : 芝駆ける名無し ID : lWgzq6FI T
 お?ケンカか?

80 : 芝駆ける名無し ID : Y P Q G U S J R e
やめろやウッドの話せえ

81 : 芝駆ける名無し ID : i / G O j l 5 7 e
二次元女子と自分比べて傷口に塩塗りあうとか一番みつともないやん

82 : 芝駆ける名無し ID : L h K t e o l V l
ウッドストックを巡ってオネエ同士で争うのか

83 : 芝駆ける名無し ID : p 9 R 2 G C o 4 8
これがキヤットファイトちゃんですか？

84 : 芝駆ける名無し ID : b i n r P p A 9 t
キヤットどころかファットなんだが？

85 : 芝駆ける名無し ID : P R x Z c n Y A 0

デブじゃねーし!!

・ ・ ・

364 : 芝駆ける名無し ID : CoRGuaIec
 ウツド引けたから育ててみたけどすごいわ

365 : 芝駆ける名無し ID : pTcJjQzq+
 スピード10%パワー20%だけど史実補正で賢さが初期130なの助かる

366 : 芝駆ける名無し ID : TDILAHqQR
 まああの剛脚と賢さ考えたらそうなるわな

367 : 芝駆ける名無し
ID : f f P T k W l W U

脚質

芝AダートG↑わかる

短GマC中A長A↑まだわかる

逃B先B差A追A↑は？

368 : 芝駆ける名無し
ID : C H q K d / 5 j n

脚質自在すぎて草

369 : 芝駆ける名無し
ID : w X o E 2 A i F /

どんな脚してんだコイツ……

370 : 芝駆ける名無し
ID : + k t o v Q H R n

史実なのでしゃーない

371 : 芝駆ける名無し
ID : 3 l g D n p J X 3

史実ウツドヤバすぎやろ

逃げから追い込みまでなんでもこなすとか他の馬対策しようがないやん

372 : 芝駆ける名無し ID : nLQzqq7sB

メイクデビューも初手逃げで安定して勝てるからすげー楽

373 : 芝駆ける名無し ID : fjFppW4hP

イベント見ると心臓がおかしくなった

374 : 芝駆ける名無し ID : 6A8VjCcW5

よくよく見たらトレーナーに激重感情抱いてる

375 : 芝駆ける名無し ID : x9Fe6MkPs

言うほど重いか？

全イベントメスにされたけどそこまでちゃうやろ

376 : 芝駆ける名無し ID : nFUB2D8KL

バレンタインにチョコ忘れて逆にトレーナーから貰ったからってホワイトデーでトレーナーにマカロンとキャンディ渡す女が重くないと？

377：芝駆ける名無し ID：dJZaWm7Pa
別に貰ったんだからお返しするのは普通では？

378：芝駆ける名無し ID：21rzRRxDs
マカロンは「あなたは特別な人」
キャンディは「あなたが好きです」って意味があるらしい

379：芝駆ける名無し ID：1+NH3vD6Q
フアーwwwwwwwwwwww

380：芝駆ける名無し ID：WWh5dC2ML
かーっ！卑しか女ばい！

381：芝駆ける名無し ID：bZjpFfaqY

しかもキャンデイの味にも意味があるぞ

ウツドはリングオ味のキャンデイを渡してた

リングオ味の意味は「運命の人」

382 : 芝駆ける名無し ID : B f F x H p t Z a

クツソ重い女で芝3200

383 : 芝駆ける名無し ID : M S P E r 6 + U B

あんなサバサバした性格しといてデレデレじゃねーか

384 : 芝駆ける名無し ID : l F s W q 6 0 z 4

ヤバい急に愛しくなってきた

385 : 芝駆ける名無し ID : x + J 8 W C A 8 3

夢女がぶつ倒れるわけだわ……

386 : 芝駆ける名無し ID : a g v U y B q P c

姉もウマ娘やっててこないだウッド引いて育ててた時常に過呼吸気味だったのはそういうことか

387：芝駆ける名無し ID：N9dreRXqH

温泉でわざわざトレナーの部屋に来てラブソング歌ってくる女

388：芝駆ける名無し ID：3j6UsHNGU

エンディングで海外のアーティストのライブ見にいギリス行くけどもちろんトレナーも行くよな？してくる女

389：芝駆ける名無し ID：Vcim+6xTM

へえ、新婚旅行かよ

390：芝駆ける名無し ID：131ITKWNu

意外とやきもちやきな最高のかわいい

391：芝駆ける名無し ID：QorbS5lgo

ギヤルゲシナリオに現れた新星

392 : 芝駆ける名無し ID : A b C + 7 3 T F K
 交友関係も広いどころじゃないし距離感もちよつとおかしい

393 : 芝駆ける名無し ID : 7 k n a w q Q P O
 基本的に顔近いしタイキのごとくハグしてくるしお前なんなの？ (半ギレ)

394 : 芝駆ける名無し ID : m w K 2 U 7 w t T
 史実で人懐っこかったからつてこんな美人にそんなことされたら心のピルサドス
 キーが五本脚になつちまうよ!!

395 : 芝駆ける名無し ID : H O / M 8 6 l o +
 なのにレースの時はクツソカツコいいんだ……

396 : 芝駆ける名無し ID : Z M w K r E H 6 6
 レース中に突然ギターを掻き鳴らしてどや顔する女

397 : 芝駆ける名無し ID : Qn+YfzgVU

「お前らの視線、あたしに釘付けにしてやるよ!!」

はいなりました

398 : 芝駆ける名無し ID : uGvlyKS0i

紅茶グビグビですわさんと比べても全然カッコいい

399 : 芝駆ける名無し ID : yNHYN7CSA

どうしてですの!!私関係ありませんわ!!

400 : 芝駆ける名無し ID : Bi2OnLdFk

てかウッド追加されてからモーシヨン地味に増えたよな?

401 : 芝駆ける名無し ID : uRjr8FQRz

ギター弾くモーシヨンとかウッド以外に誰が使うの……

402：芝駆ける名無し ID：DBGWR OAMU

GI勝利ポーズでメロイックサイン掲げた瞬間うおおおってなった

403：芝駆ける名無し ID：9rMVl6JzN
心の底からメタラーやな

404：芝駆ける名無し ID：rCfjHM+Th
まあ史実ウツドがメタラーの馬やからな

405：芝駆ける名無し ID：QC30WKP4K
メタラーの馬はパワーワード過ぎる

406：芝駆ける名無し ID：Vi2C0D/Nj
メタラーでレース強くてイケメンなのに子供には母性全開の顔するんだから脳が混
乱する

407：芝駆ける名無し ID：J3BtR23pm

ウッドママー!!

408 : 芝駆ける名無し ID : z m L J l 4 J e O

男勝りでイケメンで乙女で卑しくてママでレースクッツン強くてメタラーとかちよつと属性盛り過ぎでしょ

409 : 芝駆ける名無し ID : F m 5 8 w t v n

いいだろ? ウッドストックだぜ?

410 : 芝駆ける名無し ID : s w n P D t 0 d J

完璧か?

411 : 芝駆ける名無し ID : f f J O 8 X Q v Y

料理も上手いし家事もこなすしこの人逆になにが出来ないの?

412 : 芝駆ける名無し ID : C D A d V y l 0 o

ウッドストックのヒミツ1「実は、とんでもない方向音痴」

ウツドストックのヒミツ2「実は、オーディオ機器にはかなりこだわりがある」

413：芝駆ける名無し ID：4HeiuIGq7

そうだこの人方向音痴だったw

414：芝駆ける名無し ID：mWXdvLJRL

アニメでも毎回スピカメンバーに「そつちじゃない」って引き留められるのがお約束だったよな

415：芝駆ける名無し ID：a1X6FLd6Z

まさか二期でガチの迷子になった挙げ句仕方ないから駅前でストリートライブやって見つけて貰うとかいう破天荒ぶりを見せられるとはこのリハクの目を（ry

416：芝駆ける名無し ID：DNPrCGSkx

やっぱあの辺はステゴの血が影響しとるんやろな……

417：芝駆ける名無し ID：ytYjKXzm2

駅前でガイナ立ちして自信たっぷり「……………迷った!!」は笑った

418：芝駆ける名無し ID：tNjRNinq4

史実も基本大人しいとはいえ結構はっちゃけてるしな

419：芝駆ける名無し ID：k0mXXHlqg

それでも他の産駒に比べたら可愛いもんなんだからステゴ系はどいつもこいつも
キャラが濃い

420：芝駆ける名無し ID：Z4QaE1EFb

ウッド「よし、早速行こうぜ！」

沖T「ウッドそっちじゃない」

スペ「ウッドストックさんそっちじゃないです！」

スズカ「ウッドさん、こっちよ……」

テイオー「ウッドコツチダツテヴァー!!」

マツク「そっちじゃありませんわ！」

ウオダス「先輩こっちです！」

ゴルシ「ウッド、お前もう先頭歩くな」

4 2 1 : 芝駆ける名無し ID : 4 l W j 4 x r U u

ゴルシ一番辛辣だけどど正論で草生える

4 2 2 : 芝駆ける名無し ID : D z Q 7 l C j T U

ゴルシはまあ気の置けない仲っていうのがよく伝わった
ウッドと並んでスピカの屋台骨やし

4 2 3 : 芝駆ける名無し ID : R x f u A m 3 j 7

一期でガチイケメンムーブして夢女を量産し

二期で天然ママみを散見させて夢女にトドメをさす完璧な采配

• • •

633 : 芝駆ける名無し ID : C m i F O s s R F
てかウッドの交友関係広すぎね？

634 : 芝駆ける名無し ID : J 6 G j c K I X 9
アプリでもスピカの面々と関わりあるのは分かる
ギヤル組とも仲いいのもジョーダン繋がりだし分かる
フラツシユとも仲いいのはまあ史実だから分かる
シャカールは音楽つながりやろし分かる
なんで生徒会というか女帝と接点あるの？

635 : 芝駆ける名無し ID : E Y U + S A + p Z
多分直接の接点はバカ息子の方やろ

636 : 芝駆ける名無し ID : j 4 t F s l X p o
ルーラーシッップの方か
そーういや同世代だったな……

637 : 芝駆ける名無し ID : r a x 2 X 2 K N U

そのうちルーラーシップ実装されたらどう絡むのか楽しみ

638 : 芝駆ける名無し ID : n v H r v 5 B S h

その前にピサ実装してくれ

アイツがいないと話が膨らまん

639 : 芝駆ける名無し ID : P 3 U E / p r c G

オルフェはもう仕方ないとしてせめてジャスタ来てくれ

640 : 芝駆ける名無し ID : Y 3 P C z c J S 4

ブエナビスタ!ブエナビスタもお忘れなく!

641 : 芝駆ける名無し ID : s f L M P o Y H Y

カナロア君マダー?

642 : 芝駆ける名無し ID : E I Z a C G y X d

ステゴとは違う意味でいろんな馬と絡みがあるからなあ

643 : 芝駆ける名無し ID : W 3 u j h s + A H

あつちこつちの馬に喧嘩腰で絡んだ親父

あつちこつちの馬に友達面で絡んだ息子

ほんとうとしてアイツからコイツが… : つてなる

644 : 芝駆ける名無し ID : f S 7 T J x 6 3 a

ステゴ家の突然変異すぎる

645 : 芝駆ける名無し ID : n Y c m z T u h W

ジョヨでいうジョセフみてーな奴

646 : 芝駆ける名無し ID : 8 4 o M e G T / b

わりとはつちやけてる辺りアイツの子供なんやなって

647：芝駆ける名無し ID：VcMTvIgw3
 血は争えんな

648：芝駆ける名無し ID：Xw/2hHzSA

でもゴルシのブレーキ役なのは間違いないじゃないですか！ウッドいなかったら今頃スピカえらいことになってますよ！

649：芝駆ける名無し ID：bPAK9u+pv

ゴルシもなんだかんだ大事などころでは真面目になるから……ウッドが適当なところでブレーキ踏むからボケに回るだけで

650：芝駆ける名無し ID：oYjRY3YX6

アイツもまとめ役なのは間違いないんだよな……

651：芝駆ける名無し ID：WlV0QZrYu

なんだかんだウッドだけだとスピカもワンチャン崩壊してた可能性ある

ガチでゴルシがフィンプレーだった

652 : 芝駆ける名無し ID : j5TnsTlVP

あんなんでも精神的支柱なんだよな……

653 : 芝駆ける名無し ID : NTHOZm0bP

でもチームメンバー候補いきなり拉致ってくるのは許されないと思うの

654 : 芝駆ける名無し ID : vGyzt/3ld

あのぐらい適応できなかつたらスピカに馴染めないし……

655 : 芝駆ける名無し ID : pSDB7u8jA

だから問題児ばかり集まるんじゃないか(呆れ)

656 : 芝駆ける名無し ID : P9WT/ypzx

あれウッドも止めなかつたの意外だったんだけどなんで？

657 : 芝駆ける名無し ID : ct/F4aVwI

「あたしはもう慣れた」って言うてるから多分裏を返せば「言っても聞かないから諦めた」ってことじゃね？

658 : 芝駆ける名無し ID : W b A R m p 3 M 8

ゴルシエ……

659 : 芝駆ける名無し ID : k g W n a l h M a

ウッドが匙を投げるレベルはマジもののヤバイやつやん

660 : 芝駆ける名無し ID : s z k F l U D / h

そもそもゴルシのブレイキ役とか言うてるけど間違いやぞ

ゴルシには元々ブレイキなんぞついてないしウッドはいつ暴発するか分からんニトロや

なんやかんやウッドが悪ノリしたときのカオスっぷりは二乗三乗じゃきかん

661 : 芝駆ける名無し ID : O a D 6 6 s v G O

言うてること酷すぎるけど否定も出来ねえ

662 : 芝駆ける名無し ID : Urybw6YVE

ウッドも穏健派なだけでステゴ組の若頭やしなあ……

663 : 芝駆ける名無し ID : H07iBlTGx

罪深きはステゴの血よ

664 : 芝駆ける名無し ID : 2fJ9P6A2F

ステゴ「親父や叔父貴の方がヤバかったぞ」

665 : 芝駆ける名無し ID : V1N5s46qk

SS「なんでこんなに気性難だらけなんや」

デイクタス「なんでやろなあ」

ハイロー「どうしてこうなった」

マックイーン「お前らのせいやろ」

666 : 芝駆ける名無し ID : HIJHzPLnH

お前もやぞマツク

667 : 芝駆ける名無し ID : f8ToaIAQF
 気性難だらけじゃねーか!!

668 : 芝駆ける名無し ID : thmMZlPYl
 サラブレッドやつてるやつにそうそう気性穏やかなやつはおらんぞ

669 : 芝駆ける名無し ID : JUweKD+Tt
 デジタル「せやろか」
 ブルボン「せやろか」
 グラス「せやろか」
 ライス「せやろか」
 ネイチャ「せやろか」

670 : 芝駆ける名無し ID : +39uxAfKq
 にんじんギャング交ざってますよ

671 : 芝駆ける名無し ID : qkEePwP6R

ウッドさんこうしてみるとホント親父に似てないなあ

672 : 芝駆ける名無し ID : UHuRoOTdO

似てないけど似てるぞ

673 : 芝駆ける名無し ID : YwVpfWVI5

似てない（気性の荒さ的な意味で）けど似てる（変なやつ的な意味で）

674 : 芝駆ける名無し ID : kdHOXag3B

こないだ有給使ってウッドに会いに行ったけどファンサ凄かったぞあの馬

普通に撫でさせてくれたしお家芸の二足歩行見せてくれたしヘドバン一緒にやってくれた

推しになるわ

675 : 芝駆ける名無し ID : uH2HeFFf+

マジかうらやま

676 : 芝駆ける名無し ID : U h n h / l J Q b

今ウマ娘ブームで予約全然とれへんのにラッキーやな

677 : 芝駆ける名無し ID : Z m X c X h V / /

前にどつかのズレで一緒にヘッドバンする言つてたニキか？

678 : 芝駆ける名無し ID : k d H O X a g 3 B

せや、覚えてくれとって嬉しいわ

たまたまキャンセル出てそこに振り込ませてもらったんや

近くのホテルも飯旨いし最高やったで

679 : 芝駆ける名無し ID : n z C o A 9 t b K

ええな、ワイも予約とってヘッドバンしに行こう

680 : 芝駆ける名無し ID : R r e Z p B S T s

ヘドバン動画はよ

681 : 芝駆ける名無し ID : kdHXag3B

おうちよつと待つとつてくれやで

682 : 芝駆ける名無し ID : xAiONTuIi

楽しみやな

ウツドの父性？

(くぁ……………ねむ)

激闘(?)の弥生賞から数日。今日は調教師の兄ちゃんとか池谷殿の予定の関係で完全な放牧日、オフだった。厩務員のおっちゃん以外の人には今日はまだ会ってない。寂しいと言う訳ではないが、なんだか落ち着かない。いつもならとくに調教こなしで飯食ってる時間なのに、こうしてつい先程起きてボーツとしているのは違和感がある。

あートレーニングしたい。暇すぎてすんごくトレーニングしたい。プールで泳ぎてえなー、坂路でぶっ飛ばしてえなー。

せめて走りたい。少しでも走ってフォームのセルフチェックがしたい。早く放牧の時間にならないかしら。

「ポケ」

(んお?)

暇を持って余してブーツと窓の外を見ていたら、おっちゃんが俺を呼んだ。どしたー？
飯は食ってるぞー。

「今日は放牧の前にちよつとお仕事だ」

「ブモツ? (仕事?)」

はて、お仕事とな? 馬である俺に仕事を選ぶ権利はないので行きませんがね。

おっちゃんに流れるように頭絡付けられてますけど、仕事とは一体なんでせう。

「まあ、行けば分かるさ」

「……ブルルツ (へえい)」

そう勿体付けなくてもいいじゃあないの。別に嫌がる訳でもなし。

そんなこと思いつつ、おっちゃんに連れられて厩舎を出るのであった。

「おぉー！」

「でっけー!!」

「かわいいー!!」

ストレートに感想を叫びながら、俺の周りではしやぐ子供たち。その目はどれも純粹で、キラキラと輝いている。

仕事とはどうやら小学生の社会科見学だったらしい。馬の生態や写生、そんでふれあい等々の仕事に俺が選ばれたようだ。

そりやまあ子供を相手するなら大人しい馬が選ばれるのは分かりますけども。こういうのって普通乗馬とかが選ばれるもんじやないの？

俺一応競走馬だよ？ 公営とはいえ賭博に用いられる馬ですよ？ これが切っ掛けで子供たちが競馬に目覚めたとかクレーム言われても責任とれませんことよあたしや。

「かわいいですねー。お名前はなんですか？」

「この子の名前はウッドストックといいます。普段は競走馬としてレースで頑張っているんですよ」

「レース……競馬のですか?」

「そうです。本来なら大人しい乗馬用の馬が来るはずだったんですが、体調不良で。他に都合がつくのがコイツしかいなかったんです」

ああ、一応他に本命がいたのか。まあ体調不良なら仕方ないか。

「馬にも大人しい馬から気性の荒い馬まで色々いまして。競走馬はトレーニングしていると性格が荒くなるんですが、こいつは本当に大人しくて人懐っこいんで」

「へえ……」

「触ってみます?」

「えっ、いいんですか?」

いやおつちゃん、そんな気軽に。別に触らせるなどは言わんがもうちよつと俺の気持ちと言うものをだね、せめて一言でもだね。

まあいいや、おつちゃんがこういうとこで大雑把なのは今に始まったことじゃない

し。どっちみち俺に拒否権はないわけでしょ？ なら喜んで、はいどうぞ。

「……お、おおう!? フカフカしてる……!」

「こいつね、顔の横のね……目の下辺り搔かれると気持ちいいんですよ」

「こ、こうですか?」

ああ〜いいすねえ〜、引率のお姉さんなかなかのテクニシャンで。あ、もうちよつと右、あつそこそこ、そうそうそんな感じで、おほおおう〜。

「気持ちいいかウツド」

「ブモツ（最高）」

「ハツハツハ！ 先生上手ですつてよ!」

「そう、ですかね……?」

いやー、おっちゃん荒々しい搔き方もいいけどお姉さんの繊細な指使いもたまらね。善きかな善きかな、善きに計らえ。

「先生ずりー！」

「私も触りたーい！」

「アハハ……この子、子供でも大丈夫ですか？」

「大丈夫ですよ。ただ、基本的に馬の真後ろはうっかり蹴る可能性があるので注意してあげてください」

そういうとおつちゃんは引き綱を引いて子供たちの前に歩き出す。間近で見ると本当に小さいな、低学年ぐらいか？ うっかり踏んだり蹴ったりしないように気を付けな
いと。

「じゃあみんな、順番に並んで！ いきなりみんなでわーつと来たらお馬さんビックリしちゃうから、順番だよ！」

はーい！ と先生の言葉に子供たちが素直に列を作る。最近の子は素直でえらいねえ、俺がガキの頃なんてルールもへったくれもない崩壊学級だったからな。主に俺が崩壊の中心だったけど。

えーつとまずはず？ おー、いかにもガキ大将な勇ましい感じの元気な男子……と、

ちよつと大人しい感じの女子か。二人一組なわけね？ まあ一人ずつだと時間かかるか。

お、意外にも女子の方から触ってきたね。男子はどう触っていいか分からん感じか？

「わあ……！」

おほほ、鼻筋撫でてきてちよつとくすぐつたい。あーいいねいいね、お嬢ちゃん上手ですよ。坊っちゃんに触んないのかい？ おつ、来たね来たねえ顎来たねえ、ぬはははっ、いいよいいよお。

「すっげえ……！」

「本当に大人しいですね」

「怪我させたらダメだって分かっているんですよ。特に子供相手だと何をされても動じませんね」

「そうなんですか……賢いんですね」

「ええもう、今まで見てきた中でも一等賢いですよ」

おつちゃんがなんかいい笑顔で俺のこと自慢してるけど、今はそんなことはどうだつていい。あーそこそこ、いいねえ、こつちの嬢ちゃんもまた素晴らしい手管をお持ちで。あつ、坊つちゃんそんなとこ、そんなとこ撫でられたらお馬さんどうにかなつちやうわ、お鼻がヒクヒクしちやうの、あぁ〜およしになつてえ〜ぬほほほつ。

「……………目がすごいことになってますけど大丈夫なんですか？」

「馬つて大体気持ちいいとあんな顔になりますよ」

「はあ……………」

んほほお〜〜〜〜〜〜〜〜〜つ！

(取り乱した……………)

まさかここまでとは。気持ちよすぎて我を忘れてしまった。子供といえど侮れん

……末恐ろしい。

一通りスキンシップした後は写生の時間。みんな思い思いに俺を画用紙に描いていく。

懐かしいなあ。俺も課外授業で学校近くの山に登って、山頂からの景色を描いたわけ。今はどうなってるかね？

きやつきやおしやべりしながら描く子、真剣に黙々と描く子、テキトーに描いて早く遊びに行きたそうな子。俺が子供だった頃となんにも変わらない。子供っていつだって自分に正直というか純粹なんだよな。

あーあの頃に戻りてえなー、なんで馬なんだろうなーと足元の草を食みながら考えていると、ふと一人の子供が目についた。

「……………」

一人、他の子とは明らかに距離をとって座っている男の子がいた。クラスに馴染めていないとかそんな感じなんだろうか。

なんか、気になるな。

「それでは最後に、お馬さんに乗ってみましょう！」

わー！ と、歓声と拍手が起こる。そうだよな、馬に乗る機会なんてそうそうないもんな。そりゃあ楽しみだよな分かる分かる。

つつてもなあ、俺子供乗せるの初めてなんだが。大丈夫かしら、俺なんかの拍子に振り落としたりしちやないかな。

んー、まあおっちゃんが後ろに乗るだろうしいけるか？ まさか子供だけ乗せるなんて愚行はいくらおっちゃんでもやらないだろ。

「ではおじさんがみんなをお馬さんに乗せますね。乗ったら、落ちないよう足でお馬さんの体をぎゅつと挟んでください。手綱は持つだけでいいですよ。おじさんがお馬さんを引っ張るので、乗っている感覚を楽しんでください」

……ちよつと待て。おっちゃん正気か？

いやいやいや、流石に乗るのが子供だけって無理がないか？ 操作しないつつつても相手素人ですよ？ ましてや子供ですよ？

ええ、いいのか……？ それでいいのか？ 引率のお姉さんもなんにも言わないし……いやそうか、お姉さんも詳しくないから「そういうものなんだ」って納得しちゃってるのか。うっわいいよ俺責任重大になつてきたぞ。

「頼むぞポケ」

頼むぞつて、おっちゃんいくらなんでもそれはないぜ。せめてちゃんとリードしてくれよ？ 子供がビビつて落ちない感じで優しくだぞ？ フリじやないからな!?

「わっ、わっ！ すごい！」

俺の背中で子供がおっかなびつくり、それでも目を輝かせている。

おっちゃんのリードの下、子供たちの乗馬体験は落馬などもなく順調に進んでいる、少なくとも今のところは。

普段楽観的で変なところで大雑把なおっちゃんといえども、やはりそこはプロ。決して無理のないリードでつつがなく子供たちを喜ばせている。

かく言う俺も、出来るだけ揺れが少なくなるよう気を付けていたりするんだが。馬つて意外と揺れるからね。子供にはかなり怖い要素だと思う。

しっかしおっちゃん上手いな。こんな繊細なリードも出来たのか。じゃあ普段が若干雑なのはアレか？俺が大人しいから多少雑でも平気だろの精神か？

いやまあ別にいいんだけどさ。俺は結局のところどこまでいっても馬だし。でもあんまりひどいと人畜無害な俺でももう怒っちゃうぞ？服引つ張っちゃうぞ？いいのか？我ウッドストックぞぞ？

「どうだい？ 楽しいかい？」

「たのしー!!」

「ハツハツハツ！ そうかいそうかい！」

愉快に笑っていらつしやいますけどもね、おつちゃん？ 子供乗せてる身としてはけつこう神経使つてるんですことよこれ。

その辺馬の扱いはプロでいらつしやるあなたならばお分かりただけだと思いますけれどもね？ それ故の余裕と俺への信頼から来る笑いだとは理解してますけれども？

ええ分かってますよ。分かっていますけれどもね、あえて言わせて？

なにわろてんねん。

こちとら落とさんよう播らさんようとめちやくちや氣い遣つとんのになにを呑氣に笑うてけつかんのじやい。人の命背負つてんねんぞ。人様の大事な大事なお子様の命預かつとんねやぞ。マジでおつちゃん能天気も大概にせえよホンマ。

まあ愚痴垂れてもしやーないねんけどな。所詮こちとら馬畜生や、この心中が一言一句伝わるわけもなく。大人しくこつちが精々骨を折りますよつてに、はい。

なんてことを胸中で思いながら長い長い乗馬体験を行っていると、なんとなく雰囲気
が和らぐのを感じた。おつ、これで全員か？

「よし、これでみんな乗ったかな？ まだ乗ってない子はいないかな？」

ふー、どうにか終わったかな？ やれやれと無意識に力んでいた身体を解すために伸
びをする。あー身体がバツキバキだわ、こりやあもう一日オフ貰わんと割に合わな
……………。

……………いや、違うな。まだ一人乗ってない。

確か、そう。写生の時に一人離れて座っていた子がいた。俺の記憶が正しければ、そ
の子だけまだ乗っていない筈だ。

こつそり数えていたが、このクラスは24人。俺が背中に乗せた人数は、引率のお姉
さんを含めて24人。うん、あの子一人だけ乗ってない、間違いない。

辺りを見回すと……いた。あの子がクラスの集団から少し離れたところで、何か言いたげにもじもじしている。

多分、まだ乗っていないと言いたいが、言い出せないのだろう。元々が引つ込み思案な性格なのだろうか。馴染めていなさそうなのも相まって、声を出すのを躊躇っているような、そんな雰囲気を感じる。

………しやーない、一肌脱ぎますかね。

「いないかな？ それじゃあ………おっ？ お、おいウッドどうした!？」

「ブルルツ（悪い、こつちきて）」

「どうしたんだ！ おい、ポケ！」

おっちゃんが必死に引き綱を引いて止めようとするが、俺はむしろおっちゃんを半ば引きずるようにして歩みを進める。子供たちがにわかになぞわめき始めるが、それも気にしない。

俺が歩みを止めるのは、彼の前。恥ずかしそうに、だけど俺に乗りたいたいと言いたげな目をした、彼の前で。

「あ……………」

「ヒヒツ、ブルルルツ（ほら、乗りたいたんだろ）」

彼の目の前に顔を持って行って、そう問いかけるように鼻息を荒くする。

彼はどうしたらいいのか分からない、といった様子で周りをキョロキョロと見回す。そりやそうだ、いきなり目の前に馬が歩いてきたら俺だつて困惑するわ。

ほら、触ってみ？ 馬の鼻先は触り心地がいいぞ？ と男の子に頬擦りしてみせる。優しく、繊細に。

「……………わ」

恐る恐る触りに来た彼。最初はぎこちなく頬を。やがて慣れてきたのか、少しずつ顎、頭、鼻先と。拙いながらも意外に豪快な撫で方で俺とスキンシップを楽しんでいく。

「……………そうか、その子がまだ乗ってないんだな？」

「ブモツ（ああ）」

「お前は相変わらず賢いなあ」

おっちゃんも合点がいったようで、二、三度頷く。そして男の子と目線を合わせ、破顔して尋ねた。

「乗るかい？」

「……………っ、うん!!」

男の子は大きく頷いた。

幕間4～とある掲示板のスレ3～

【競走馬】ウツドストックのおかげで人生が変わった話

1：芝駆ける名無し ID：xEPBOVA5O

聞いてくれる奴いる？

2：芝駆ける名無し ID：aKOhDcCl n

聞こうじゃないか

3：芝駆ける名無し ID：T9jfy cBi N

おるやでイツチ

4：芝駆ける名無し ID：0WcBNdqq8

ここにいますぞ

5 : イツチ ID : x E P B O v A 5 O

おお、ありがとう

ちよつと長話になるけど聞いてくれ

6 : 芝駆ける名無し ID : L s A K e B D I t

ウツドストツクの話なら歓迎やで

7 : 芝駆ける名無し ID : V i b v e F H Q s

競馬界限も盛り上がつとるしな

ウマ娘効果すごいわ

8 : 芝駆ける名無し ID : G 9 Z 1 8 B J s r

ネイチヤのバードネも前年もう越えたんやろ？オタク君らはどこからそんな資金が出てくるんや

9 : 芝駆ける名無し ID : x f J S x N d a T

推しのためなら手段を選ばんからな

10：芝駆ける名無し ID：Wq+IIU6bH

せめて綺麗なお金入れてクレメンス……

11：イツチ ID：xEPBOVA5O

俺、子供の頃から引つ込み思案でな。人に自分の意見を言うとか、自分から発言するっていうのが苦手なんよ

一番酷かったのが小三ぐらいの時かな？その頃親の仕事の都合で東京から地方に移り住んだんだ

12：芝駆ける名無し ID：yJDtVDUa8

あー、仲良かった友達と離れるの辛いよな

13：芝駆ける名無し ID：4qyLgWTkW

俺も一番の友達引つ越した時一日泣いたわ

14：芝駆ける名無し ID：ARZmQKsXB

わりい、やっぱつれえわ

15 : イツチ ID : x E P B O v A 5 0

そう、右も左も分からん土地で一人ぼっちみたいな感覚でさ、元々の性格もあつて新しいクラスに全然馴染めなかつたんよ

休み時間もずっと本読んでたし、給食の時も机くつつけて食べなきゃいけなかつたから一番嫌だった。何話していいかも分かんないレベルだったし、事実俺は居ないもの扱いだった

16 : 芝駆ける名無し ID : j s 4 / Z r U p g

キッツいなーワイだったら耐えられんわ

17 : 芝駆ける名無し ID : N S e B x D E b o

子供って大人以上に残酷なときあるもんな

18 : 芝駆ける名無し ID : S T 3 f x k K K X

やめろ俺のトラウマを掘り起こすな

19 : 芝駆ける名無し ID : YhR x k 4 T z 4

トラウマニキ強く生きて

20 : イツチ ID : x E P B O v A 5 O

トラウマニキすまんやで

で、一ヶ月ぐらい経った辺りで課外授業があつてさ

近くに牧場があつてそこで馬と触れあつたり馬の写生とかする授業があつて、当然俺も参加したんだよ

そしたらそこに当時現役バリバリのウツドストックがいたんよ

21 : 芝駆ける名無し ID : + Y G v F 3 r V b

は？

22 : 芝駆ける名無し ID : P + s K h o t I X

うせやろ？

23 : 芝駆ける名無し ID : xCeZW5Fi7
 イッチ冗談きついで

24 : 芝駆ける名無し ID : zm9ITbxls
 なんで競走馬が課外授業に出てくんだよ

25 : イッチ ID : xEPBOvA5O

いやマジなんだよ

後から聞いた話だと、元々来るはずだった乗馬用の馬が体調不良なんかで来れなくなつて、他に都合がつくのが放牧中のウツドストックだけだったらしい

26 : 芝駆ける名無し ID : SDghF3pdP

現役のサラブレッドと触れ合えるとかクツソ贅沢な体験しとんな

27 : 芝駆ける名無し ID : BW+mnrEHF

馬主もよう許可出したな

28 : イツチ ID : xEPBOvA5O

普通競走馬って調教で性格荒くなるのが普通らしいんだが、その時のウッドは全然そんなことなかった。とにかく大人しいし人懐っこかった

小学生のクソガキだった俺らが乱暴に触っても全然動じないし、なんなら撫でられて気持ちよかったのか白目剥いてアへってた

29 : 芝駆ける名無し ID : 7eQyW/PXl

ええ……(困惑)

30 : 芝駆ける名無し ID : bwosjuy5A

ウッドくんすごいいろいろな意味で

31 : イツチ ID : xEPBOvA5O

で、その後ウッドをモデルにしてお絵かきしてたんよ

当然馴染めてなかった俺は皆より離れた場所で一人黙々と描いてた

で、ふと目をあげたらウッドと目が合ったんだ

何が気になったのか、何故か俺のことをジューーッと見つめてきた

もしかして俺を哀れんでるのか？って子供心に思ったりもした

3 2 : 芝駆ける名無し ID : X k Q k 9 j h v J

ウツド「アイツずっと一人でおんな……ボツチか？」

3 3 : 芝駆ける名無し ID : B r C U + 6 B H J

そうだけど言ってやるな

3 4 : 芝駆ける名無し ID : I Y P U i N U 4 x

馬にすら馬鹿にされるイツチカアイソ

3 5 : 芝駆ける名無し ID : 3 T 8 n D o K f H

分かる自分以外のあらゆるものから見下されてる気がするよな

3 6 : 芝駆ける名無し ID : D + G X w h r C r

万物に見下されニキどんな人生送ってきたの……

37: イッチ ID: xEPBOVA50

で、そのあと厩務員のおじさんの計らいで、一人ずつウッドに乗せて貰えることになったんだ

と言つてもおじさんがウッドを引つ張つて、俺らは落ちないように乗つてるだけだったんだけど、それでもみんな初めての経験でテンション上がつた

しばらくして一通り乗つたかなーつておじさんが言うんだけど

お察しのとおり俺だけまだ乗つてなかつたんだ

38: 芝駆ける名無し ID: 6MepMR0Pm

かわいそう

39: 芝駆ける名無し ID: XsWEBGCxZ

ごめん流石に笑えなくなってきた

40: 芝駆ける名無し ID: dAgG3/qFt

先生も気づいてないとか辛すぎる

4 1 : イツチ ID : x E P B O v A 5 0

当然手を上げて「自分まだ乗ってないです」なんて言えない俺

でも馬には乗りたいし……って口を開きかけては閉じるを何回も繰り返してた

そしたら急にウツドストックが動いたんだ

おじさんが必死に止めても強引に歩き出して、他のみんながなんだなんだって騒ぎだ

したと思ったら

俺の目の前で止まったんだ

4 2 : 芝駆ける名無し ID : i u t D A 8 I A x

急 展 開

4 3 : 芝駆ける名無し ID : l O x Q 9 w W f d

ウツドウソだろお前

4 4 : 芝駆ける名無し ID : j n V C w U K L R

いくらなんでもイケメンムーブすぎる

45：芝駆ける名無し ID：B a k S 2 q q o D

惚れた

46：イツチ ID：x E P B O v A 5 O

いきなりのことでえ？え？って困惑しっぱなしの俺

先生もクラスのみんなも固まってた

そしたらウツドが俺に向かってちっちゃく嘸いて、頬擦りしてきたんだよ

「お前まだ乗ってないだろ？」って言われてるみたいだった

ワケわかんないまま顔撫でたら目閉じて大人しく撫でられてるし

そしたらおじさんが「そうか、この子がまだ乗ってないって言いたいんだな？」ってウツドに話しかけた

そしたら返事でもするみたいにまた小さく嘸いて、俺をじつと見つめてきたんだよ
今だから言えるけど、あの目は普通の馬には出来ないな

あの時馬って生き物を初めて間近でみた俺でさえ、どこまでも優しい目をしてるなって心の奥底で思ってたんだからな

47：芝駆ける名無し ID：G I Y K v 3 a L +

やだ……イケメン……

48：芝駆ける名無し ID：xx+/uHGnP

子供（+担任）の顔を一人一人覚えててそれでいてまだイチチが乗ってないのに気づいて厩務員のおっちゃんに知らせるウッドは神の使いか何か？

49：芝駆ける名無し ID：HVUuae6/w

こんな賢くて優しい馬に乗せて貰えるとか一生ものの自慢話やんけ
しかもあのウッドストックに

50：芝駆ける名無し ID：V2eNMV3VV

俺もウッドに乗りたい

51：イチチ ID：xEPBOVA5O

その後乗せて貰ったんだけど、明らかにこつちを氣遣ってるみたいで何度も背中越しに振り返って俺を見るし、サービスのつもりなのかちよつと早歩きしてくれるし、とにかく人間くさかった

人間で言ったら年の離れた優しい兄貴みたいな性格だったな

降ろして貰った後も、みんなの方に向かって鼻先で俺の背中を押ししたりするんだよ
「ほら、勇気出していってみる」って言われてるみたいで、不思議と本当に勇気が湧いた
な

そのお陰でクラスメイトと友達になれたし、今でも遊びに行ったり連絡取り合ったり
してる

52 : 芝駆ける名無し ID : 0hDxM8DN0

イイハナシダナー

53 : 芝駆ける名無し ID : ZtZr+UVhJ

自分涙いいつすか？

54 : 芝駆ける名無し ID : mwQUhbheA

この歳になると涙腺が緩くて敵わん

55 : 芝駆ける名無し ID : d4IGlRthV

こういう動物系の感動話弱いんや勘弁してくれ

56：芝駆ける名無し ID：jeJvQRi3N

つくづくウッドストックという馬の規格外の賢さに舌を巻くな

57：芝駆ける名無し ID：hn0783C97

アイツは馬じゃなくてUMAだつてこの間結論が出ただろ！

58：芝駆ける名無し ID：wrFGihly4

この間つていつどこでそんな結論出たんだよ！

59：芝駆ける名無し ID：6kCmtjR8E

まあ馬の枠に収まるような生き物じゃないからなあ……

60：芝駆ける名無し ID：JN5RlJcNy

中身人間やって言われても納得するわ

61 : イツチ ID : xEPBOVA50

そんなこんなで、今でもあの時に描いたウッドストックの絵は大事に飾ってあるし、皆で撮った写真も、ウッドストックとツーショットで撮った写真も大切に保管してます
俺ももうすぐ高校卒業するんですが、実は晴れて騎手学校に入校することになりました

夢はウッドストックにもう一度会うこと、そして彼の子供と一緒にG1レースで勝利することです

今の俺があるのもウッドストックのおかげです
長々のご清聴ありがとうございました

62 : 芝駆ける名無し ID : 7I2OeTfzE
すげえ!!

63 : 芝駆ける名無し ID : L11ph7zGb
まさしくウッドが人生を変えたんやな乙

64 : 芝駆ける名無し ID : Fvt1gPt5A

大変やろうけど頑張つてな、応援してるで！

65：芝駆ける名無し ID：4nGzTuDsL

初勝利のときはウッドとの出会いの話してくれよ！見つけたら絶対推すからな！

66：芝駆ける名無し ID：9KyU5pPtg

なんて良い話なんだ

67：芝駆ける名無し ID：WateqAgmk

ドラマチックすぎるやろ

ア○ビリ○ボーで流れてもおおしくないレベル

68：芝駆ける名無し ID：7JaOt2tCP

イツチがGI勝ったらテレビも黙ってないやろ

69：芝駆ける名無し ID：Bsqr7Cie7h

クラスメイトもきつと応援しに行くやろな

70：芝駆ける名無し ID：l+VMdkPbA

そら一緒に乗馬体験して今でも仲が良い同級生が騎手になってレース走るとか応援しに行かん理由ないやろ

71：芝駆ける名無し ID：oMLLXtWG

これは良スレ

72：芝駆ける名無し ID：CsupSBtv9

短いけど良いスレやったわ また機会があつたらスレ立ててクレメンス

73：芝駆ける名無し ID：wtUaTU4cu

騎手になってからの話も一杯聞かせてくれ

74：イツチ ID：xEPBOvA5O

みんなありがとう

もし競馬中継で「あれ、もしかしてコイツ……」って思ったら応援よろしくお願いし

ます

今度こそ本当に落ちます

皆さんの競馬ライフに幸多からんことを

75 : 芝駆ける名無し I D : w e g G 8 N z 7 O

乙!

76 : 芝駆ける名無し I D : j 8 d r I F A h a

乙

77 : 芝駆ける名無し I D : w 5 w a E 2 4 U J

乙やで

78 : 芝駆ける名無し I D : p F Z E / K N h 0

サンキューイッチ

またなイッチ

79 : 芝駆ける名無し ID : QHuhdw+UT
応援してるからな!!

80 : 芝駆ける名無し ID : zGFJSVrZp
頑張れー!

81 : 芝駆ける名無し ID : dcQdONpNi
カラダニキヲツケテネ!!

82 : 芝駆ける名無し ID : F8bSSOI10
イツチのファンになつたわ

83 : 芝駆ける名無し ID : EpRIO3vEL
後方スポンサー面おじさんなつてもええか?

84 : 芝駆ける名無し ID : rnVAjESyM
スポンサー面じゃなくてスポンサーになれ

85 : 芝駆ける名無し ID : a b H j 4 c 0 4 c

応援馬券は欠かさないからな

86 : 芝駆ける名無し ID : z p C l 9 o 0 0 a

競馬ってやっぱりドラマなんやなって

87 : 芝駆ける名無し ID : h U l L Q 7 n o 4

今日はなんか良い夢見れそうや

88 : 芝駆ける名無し ID : J g a B u / M 5 U

イツチ乙!!俺らがついてるやで!頑張つてな!!

89 : 芝駆ける名無し ID : h j A f t u / M k

怪我しないようにな!元気にいつまでも走り続ける!

幕間5～とある掲示板のスレ4～

【競走馬】ウツドストックとかいう芝のロックスターについて語ろうぜ【ウマ娘】

1：芝駆ける名無し ID：U + b P f H O O k

馬もウマも関係なくお前らが好きなどころを存分に語れ俺が許す

2：芝駆ける名無し ID：v h P N 6 r I l 5

イケメン（馬）

3：芝駆ける名無し ID：I z E b G o h I Y

イケメン（ウマ娘）

4：芝駆ける名無し ID：9 k e G O v s 9 l

イケメン（生き様）

5 : 芝駆ける名無し ID : C b J j 6 M i o i
 イケメンしか出てこなくて芝

6 : 芝駆ける名無し ID : q I y M h l t O 0
 実際身も心も実馬もウマ娘もイケメンやししやーない

7 : 芝駆ける名無し ID : P D W F B H 8 b e
 戦績もイケメンやぞ

8 : 芝駆ける名無し ID : + M H A C a i 0 8
 普段の生活もイケメンや

9 : 芝駆ける名無し ID : 6 W S 9 N K c 3 o
 イケメンってことしか分からねーじやねーか

10 : 芝駆ける名無し ID : e w j j 6 U f i f

誇張もなにも無しにイケメンやしなあ……

11: 芝駆ける名無し ID: Hn2Kjif+m

この間会いに行っただけどマジでイケメンやった

飯食ってる最中だったのに俺が来たら「おっ、お客さん？」って感じで飼い葉桶から顔上げて触らせてくれた

その後もにんじんあげたり一緒にヘッドバンしたり写真取らせてもらったりしてた、しかもその間途中だったご飯も食べようとしな

「そろそろ帰るよ」って言ったら首延ばして鼻で頬にキスしてくれて、勘違いかもしれないけどこっちに向けてウインクまでしてくれた

ウツドストック様のファンです(メスの顔)

12: 芝駆ける名無し ID: V7FRd2TNS

堕ちたな(確信)

13: 芝駆ける名無し ID: r8nqUL6Er

人たらしが過ぎる

14 : 芝駆ける名無し ID : h C S 2 z 3 Z B x
 ようこそウッドストック沼へ

15 : 芝駆ける名無し ID : v 9 P l d R Z p +
 頭が良すぎるんよ

16 : 芝駆ける名無し ID : P I l l s 8 k u +
 今までにも頭がいい馬は沢山話題になったけどウッドは馬の範疇に収まらないレベル
 で賢すぎる

17 : 芝駆ける名無し ID : V I g V 7 G P m I
 仕草も何もかもはやジャローズアイドルのそれ

18 : 芝駆ける名無し ID : d 0 6 j O P E U g
 馬系ジ○ニーズか

19 : 芝駆ける名無し ID : KnXwVQWcV

ジャ○ーさんなら馬主やっててもおかしくなかったよな

20 : 芝駆ける名無し ID : I+CieTlBr

購入基準が自分の事務所に入っても違和感ないレベルのイケメンかどうかで決まり
そう

21 : 芝駆ける名無し ID : HKSSLHno

テイオーが基準になりそう

22 : 芝駆ける名無し ID : 2rrNv+yjc

ウマ娘だとテイオーとかゴルシチがボーダーか？

23 : 芝駆ける名無し ID : 6JtJ23w2O

シチーはまたベクトルが違うやろ

24 : 芝駆ける名無し ID : HQ6oLXyWG

ウマ娘でイケメンって考えるなら会長とかシリウスとかゴルシだよな
 シャカールもそうか

25：芝駆ける名無し ID：J i q / Y j r s b

そこにウツドストツクも入れるべきですよ

顔立ちは確かにかわいい寄りですけどイケメンというか顔がいいウマ娘勢上位に間違いなく食い込んでくるでしょ

26：芝駆ける名無し ID：n E R o v o 7 C

まあモチーフというか原案がかなりリョテイに似せてたから顔立ちがかなり整ってるのは理解できる

27：芝駆ける名無し ID：Z 6 Z v S Q 8 C s

美人だけどこことなくかわいい顔なのは本人というか本馬の気性を反映した説

28：芝駆ける名無し ID：p 2 v 7 8 9 8 f K

あの性格でステゴ産駒を名乗るのは無理でしょ

29 : 芝駆ける名無し ID : lAvmmQC89

へドバン要素は明らかにステゴ因子でしょ

30 : 芝駆ける名無し ID : CchXcbzUp

凄しいイケメンだけど変な馬なのも間違つてないぞ

31 : 芝駆ける名無し ID : +uSBGVYbl

気性が荒いわけでもないし

ちよつとイタズラ好きなだけで

32 : 芝駆ける名無し ID : 6ZLttiz30K

あのステゴの子供ってんだからどんな暴れん坊に育つかと思つたら人の言うことよく聞く人懐っこい人たらしになりました

33 : 芝駆ける名無し ID : CgiY5o3TF

どうしてこうなった

いや暴れん坊よりは全然いいんだけど

34 : 芝駆ける名無し ID : 61eJjH2kE
 たらし込むの全部狙ってやってるよな

35 : 芝駆ける名無し ID : /N2xoS W Q v
 同じように大人しいグラスはアブにキレてたけどウッドって怒ることあんのか？

36 : 芝駆ける名無し ID : V N Q n e z A u 0
 現役時の調教助手はウッドに皮肉言ったら「なんだとお」とでも言うみたいに服を
 引っ張られたってのは聞いた

37 : 芝駆ける名無し ID : B 1 0 1 G T C W c
 皮肉も理解するのか……

38 : 芝駆ける名無し ID : 180S5pH8G
 一回池谷が怪我して騎乗が代わった時けっこうゴネたらしい

すぐに折り合いついたけど騎手曰く「なんだかやりにくそうにしていた」らしい
復帰した池谷はウッドに鼻で小突かれたとかなんとか

39 : 芝駆ける名無し ID : b + U n Y J x O P
かわいい

40 : 芝駆ける名無し ID : q + A p z C f Y T
池谷大好きかよ

41 : 芝駆ける名無し ID : m f c W 6 h a g Y
やーなの！いけやじやないとやーやーなの！

42 : 芝駆ける名無し ID : S q v / H G y 6 g
かわいい

43 : 芝駆ける名無し ID : p / I C Z K R 9 3
大人しいけど気が弱いわけでもないよな

44 : 芝駆ける名無し ID : 7 e U j H p E T 7

栗東の大ボスに睨まれてもケロッとしてたらしいしな

45 : 芝駆ける名無し ID : z d Y l C i y q j

どの牧場行ってもいつの間にかボスにされてて

移動になると他の馬皆寂しがる

46 : 芝駆ける名無し ID : S C Q n j 3 6 g N

よつぼどカリスマあるんやろか

47 : 芝駆ける名無し ID : D f z / C F U + X

どちらかというとき世話焼き

48 : 芝駆ける名無し ID : S h f c Q 7 S y P

ゴリゴリのヤンキー馬が絡んできて一喝で黙らせる

そのあとベツタバタに甘やかす

ウツドの舎弟になる

49 : 芝駆ける名無し ID : lXBil2Tb7

馬もたらし込んで……

50 : 芝駆ける名無し ID : mAIIYYUrEt

喧嘩止めていじめ止めて体調悪そうな馬のために人呼んでしてたらそらお前「兄貴……！」ってなるでしょ

51 : 芝駆ける名無し ID : uCN4Cta7U

牝馬にもモテモテだったんだっけ？

52 : 芝駆ける名無し ID : TCt6ftKTj

気性荒い牝馬もウツドの前だと急に大人しくなる

53 : 芝駆ける名無し ID : fPJnIOI+4

夢牝馬量産してたらしいな

54 : 芝駆ける名無し ID : o E w x l z i 4 Q

夢牝馬とかいうパワーワード

55 : 芝駆ける名無し ID : 8 U C P f w W W z
ブエナビスタと何回か繁殖やってるしな

56 : 芝駆ける名無し ID : V F w d u a 4 Q f
種付け後に離そうとすると牝馬の方が嫌がるらしい

57 : 芝駆ける名無し ID : t k T i j P R R m
クツソモテモテやん

58 : 芝駆ける名無し ID : N + B l / 5 c I 5
馬ですらモテているというのにお前らと来たら

59 : 芝駆ける名無し ID : X A C K t 6 t v X

なんでや俺ら関係ないやろ

60 : 芝駆ける名無し ID : 9 + 9 M O e T I a

二次元ならモテモテや

61 : 芝駆ける名無し ID : B J S w z k + H G

三次元に目を向けろ

62 : 芝駆ける名無し ID : V d J z P x 8 Z u

でもウツド様に釘付けにされてるし……

63 : 芝駆ける名無し ID : Y 2 U j N l E M Y

ウツドが悪いな!! (開き直り)

64 : 芝駆ける名無し ID : b I 8 F m E R y i

罪作りな馬だぜ!!

65 : 芝駆ける名無し ID : GuJ + f + 9 H /
 こんなんだからモテないんやろなあ……

66 : 芝駆ける名無し ID : se / 9 + Y D w Y
 だけどもあウツドに釘付けにされるのは同意

67 : 芝駆ける名無し ID : L W 7 i Y l + E y
 顔がいいもんなあ

68 : 芝駆ける名無し ID : G J l 7 / i r q N
 あの紺碧の目に見つめられたらもうダメ、堕ちるだけよ

69 : 芝駆ける名無し ID : j S W c 6 w R b T
 吸い込まれそうな目

70 : 芝駆ける名無し ID : r t y D X R J B l
 壁ドンされて至近距離で見つめられてえ〜

71 : 芝駆ける名無し ID : Vw4IxGLd7
ウツド様の弟になって叱られたい

72 : 芝駆ける名無し ID : prkAQX7la
オルフェ「は？譲らんど」

73 : 芝駆ける名無し ID : em6mz3Y9V
朝寝してウツドに叩き起こされたい人生だった

74 : 芝駆ける名無し ID : eANlOMiAu
いません!!

75 : 芝駆ける名無し ID : 2u4d6vY9Y
今すぐガチャ回してこい
もしくは会いに行つてこい

7 6 : 芝駆ける名無し ID : d q U V 7 6 A B F

さらつと牧場行けとか言つてて芝ハードル高すぎやろ

. . .

2 3 2 : 芝駆ける名無し ID : 5 Y f g l b t + m

ウツドストツクの育成難しくない？

2 3 3 : 芝駆ける名無し ID : b w n H L 8 I + Z

それはそう

2 3 4 : 芝駆ける名無し ID : s E Q P I R A T O

よ
 そら（同期殆どいないからつてレジエンド馬ライバルにしたら）そう（難しくもなる）

235 : 芝駆ける名無し ID : 0 S Z 1 R M W Q F

エイシンフラッシュぐらいだもんな同期

236 : 芝駆ける名無し ID : 8 t C d o k y i 4

ヴィクトワールピサもヒルノダムールもダノンシャンティもないサミシイサミシ

イ

237 : 芝駆ける名無し ID : 3 J w X T h I O b

だからってフラッシュバチクソ強化はやりすぎじゃないですかね!?

238 : 芝駆ける名無し ID : m g O G B m W + V

有馬とか確実にUGクラスは行ってるよな……

239 : 芝駆ける名無し ID : L O J + O D V Z V

スピパワ賢SSスタ根Sとか勝てるわけがない:ツ!!

240 : 芝駆ける名無し ID : B 6 u G 9 I g U 2

絶対これ引退レースのオルフェだよ

241 : 芝駆ける名無し ID : 9gD amWf85

怪物過ぎて上振れ前提じゃないとマジで勝てん

242 : 芝駆ける名無し ID : Tw77X3 IDQ

この怪物フラッシュを作ったのは誰だあっ!!

243 : 芝駆ける名無し ID : 5SFX5oHNK

史実オルフェです

244 : 芝駆ける名無し ID : aWETUf i L m

ならば仕方ない……

245 : 芝駆ける名無し ID : n20RsoyKq

雄山もつと粘って

246：芝駆ける名無し ID：q d j 5 J w u 2 Z
てか固有二つ名なんだよあれ

247：芝駆ける名無し ID：l 7 A M s O h 9 f

【K I N G of R O C K S T A R】獲得条件エグすぎる

248：芝駆ける名無し ID：t l z u d m y 5 8

出るレース全部1着とか鬼畜じゃね？只でさえ育成目標のライバルやペーのに

249：芝駆ける名無し ID：c h C y J e p N G

任意で出るレースも全部1着縛りだもんな

何がヤバいってシニア有馬の怪物フラッシュが鬼門過ぎる

250：芝駆ける名無し ID：/ 2 U J A G M F l

まあ元馬のウツドストックがああ戦績だったし納得しかないんだがそれはそれとしてもう少しこう手心というか……

251 : 芝駆ける名無し ID : T Z m D 6 D B R +

この固有二つ名を作ったのは誰だあっ!!

252 : 芝駆ける名無し ID : v T 8 x v D / e R

運営です

253 : 芝駆ける名無し ID : Q E f B 9 t c a q

貴様はクビだあっ!!

254 : 芝駆ける名無し ID : 2 N u + j Q h E 2

でも元はといえば史実がそんな感じなので……

255 : 芝駆ける名無し ID : z J I W f 5 + j P

ならば仕方ない……

256 : 芝駆ける名無し ID : a L X l O t 4 8 G

雄山の押しが弱すぎる

257：芝駆ける名無し ID：rMffVgv c5

俺は早々に固有二つ名はしばらく諦めることにした
ウツド様に振り回されているだけでいいや

258：芝駆ける名無し ID：FOPZgd dHm

まあ必ずしも狙う必要はないしな

259：芝駆ける名無し ID：xJR4f / zDW

やり込みやしな

無理に行く必要はない

260：芝駆ける名無し ID：7XMB8EM6n

TSで連続出走させるじゃん？

「アンタの考えを否定するつもりはないが……ちゃんとあたしを見てくれるか？」
つ
て言われるじゃん？

「あたしの目を見てくれ……トレーナー」って困り顔されるじゃん？

すごい心が痛むと同時になんか違う背徳感みたいなのが背中からこうゾクゾクと

261 : 芝駆ける名無し ID : +VES+2z+7

やべーぞ変態だ!!

262 : 芝駆ける名無し ID : XC2XoHWU7

ここからいなくなれ!

263 : 芝駆ける名無し ID : i2egiQaUk

そんなトレーナー修正してやる!

264 : 芝駆ける名無し ID : ePtjHetVi

辛辣で芝

265 : 芝駆ける名無し ID : SwdQin84k

でもいつも自信たっぷりなウツドが弱った姿を見せるのは申し訳ないと思うと同時に
にもっと見たい衝動にも駆られるのだ……心が二つあるのだ……

266：芝駆ける名無し ID：XZ I4QB r0b

ヤミオチウインディちゃん来たな

267：芝駆ける名無し ID：FKK n l n H I e

メインシナリオであるウツドストックが人目も憚らず泣き崩れるシーンは心に来た

268：芝駆ける名無し ID：M q u l O l 8 2 p

レジエンド馬を擬人化女体化させた挙げ句泣かせるゲームがあるらしい

269：芝駆ける名無し ID：w M l P u G / C I

アニメでも見たことない貴重なウツドの号泣シーン

270：芝駆ける名無し ID：a f 8 X s h W l 3

確かに何度か見ると心の痛みよりも先に背徳感が来る

271：芝駆ける名無し ID：a f O w o 8 b L d

た 心の底からの慟哭みたいな泣き方が心締め付けると同時に声優ってすげーわと思っ

272 : 芝駆ける名無し ID : N / Y 4 E g 4 e w

常にロツクの精神を持ってたウツドが周りの妬み嫉み程度で動揺するのはアイデン
テイテイが揺らぐのと同義だからな

それをトレーナーに指摘されて凶星だから感情的になって反論したことに自己嫌悪
して調子崩すんだぜ？

そういうところがいいんじゃないか……（ねっとり）

273 : 芝駆ける名無し ID : I l U 3 I o g f T

変態しかいねーぞこのスレ

274 : 芝駆ける名無し ID : D O P 7 w l o C P

どこもかしこもトレーナーは変態の巣窟よ

275 : 芝駆ける名無し ID : x z I v X G N 8 9

ウツドトレはあんなに大人なのにな

276 : 芝駆ける名無し ID : Wqmy7M4W /

あの成熟した精神で新人名乗るのは無理でしょ

277 : 芝駆ける名無し ID : BDons5Oz

でも部屋は散らかつてるぞウツドトレ

278 : 芝駆ける名無し ID : pSb / U5tAC

それは大体池谷のせい

279 : 芝駆ける名無し ID : eQPdHowq2

? 「池谷の部屋汚いッス……」

280 : 芝駆ける名無し ID : ad + ISYquD

池谷そんなに汚部屋なの?

281 : 芝駆ける名無し ID : X o c s 8 J I m d
 宿入つて一日目で一人暮らし三年目の男みたいな部屋になる

282 : 芝駆ける名無し ID : P 7 T 2 2 Y p K x
 ええ…… (ドン引き)

283 : 芝駆ける名無し ID : v j T M T g S M 8
 そのせいでウツドトレが汚部屋ネタを押し付けられるという事態に……

284 : 芝駆ける名無し ID : 5 j r a C u 6 w F
 まあそのぐらいのギャップがないと超人過ぎるしな……

285 : 芝駆ける名無し ID : z B a k z H M m K
 アレに関してだつて仕事が忙しすぎるせいだし普段はちゃんとやつてるっばい

286 : 芝駆ける名無し ID : V c Q z I w x s S
 ウツドもそれで「あんたもちゃんと人間だつたんだな」つて安堵してたから結果オー

ライ

287 : 芝駆ける名無し ID : 3 b o v h j d l j

つまり今まで人間と思われていなかった……？

288 : 芝駆ける名無し ID : o F c j u D R Z Z

そりや仕事ちゃんとかなして唐突に効果あるトレーニング閃いて楽器の練習も付き合ってくれて一緒にストリートライブもしてくれてメンタルケアもバツチりな超人トレーナー見たら人間か疑うのもやむなしやで

あれ？このトレーナーウッドが掛からない要素皆無では？

289 : 芝駆ける名無し ID : 8 z 4 c 6 2 Q 1 Q

そら育成でギャルゲシナリオにもなりますわ

290 : 芝駆ける名無し ID : 6 c a + v k c c h

相棒って言葉がこれ程似合うトレーナーもない

- 291 : 芝駆ける名無し ID : P2p04fp/m
 一心同体というか二人三脚で進んでいくストーリー
- 292 : 芝駆ける名無し ID : D1WYY/VEq
 対等に隣で支え合うシナリオ
- 293 : 芝駆ける名無し ID : tuCebHLFr
 こんな神物件逃がす方がおかしいわな……
- 294 : 芝駆ける名無し ID : Oo6rjm6SE
 お互いにノーガードの殴り合いしてる
- 295 : 芝駆ける名無し ID : tzZwCXxKH
 しかも全部お互いに多段クリティカルヒットよ
- 296 : 芝駆ける名無し ID : B9uLZT7DL

そんなことしてりやギャルゲシナリオ言われてもおかしくないわな

297：芝駆ける名無し ID：xmk5Vgy6b

あの二人四六時中イチャイチャしてるのだ……

298：芝駆ける名無し ID：BWTjnH9kY

どっちが先に完墜ちさせるかのチキンレースだから命懸けやぞ

299：芝駆ける名無し ID：pp+8llgCh

壁ドンして嘔きで誉め合うし互いに弁当交換してるし気が付けばそばにいるしなにお前ら新婚なの？

300：芝駆ける名無し ID：8bbbqSSM0

イチャついてるだけじゃねーか!!

301：芝駆ける名無し ID：9o+0AUKFZ

これで強いってんだから他の娘がかわいそうになつてくる

302 : 芝駆ける名無し ID : k l O K n C + B e
 愛、愛ですよナナチ

303 : 芝駆ける名無し ID : k r R w x l t c L
 なぜそこで愛っ!?

304 : 芝駆ける名無し ID : h V C u Z Q V M f
 ただ自分にとつてのスパダリ見つけて好きなこととしてイチャついてたらなんか強くなつてただけだよ

305 : 芝駆ける名無し ID : 9 m n K w l w l T
 あれどうしよう急にこの二人にムカついてきた

306 : 芝駆ける名無し ID : X / Y m o E n U 5
 好きなこととして強くなれたら苦勞しねーよ!

307：芝駆ける名無し ID：vOeHZOLxv
でも実際史実だとこんなんだったしなあ……

308：芝駆ける名無し ID：i7tSUjbgm
ロック大好きで池谷大好きでレース後にいつつもイチャイチャしてたらなんか世界に挑んだしな……

309：芝駆ける名無し ID：iVAWRVL8E
エピローグで海外に行ったのもつまりそういうことだよな

310：芝駆ける名無し ID：XFr5YZEwr
ライブ鑑賞は建前で海外のレースにカチコミに行っただってこと？

311：芝駆ける名無し ID：lqnVpocRF
推測だけどおそらくはそう

312：芝駆ける名無し ID：x+C/HZIt+

勝手に世界に羽ばたいてろ

313 : 芝駆ける名無し ID : z a W T Y H 4 4 w
 一生一緒にいやがれ

314 : 芝駆ける名無し ID : h F 7 c r t W C y
 孫ひ孫に囲まれて大往生するように毎晩祝つてやる

315 : 芝駆ける名無し ID : T J P I I S H Z K
 ツンデレ沸き出てきて芝4500

. . .

634 : 芝駆ける名無し ID : n R N S I Y Q c 8
 ワイウマ娘から競馬入った民でまだ全然詳しくないから教えてほしいんやが

ウマ娘のウッドストックってなんであんなにトレーナーに執着しとるんや？

635：芝駆ける名無し ID：EiTTf+YQe

恐らくウッドトレは現役当時の主戦騎手と厩務員がモデルと思われる

史実だとウッドストックは主戦騎手の池谷と厩務員のおっちゃんが好きだった

厩務員は普段からお世話してくれるから大好きだし、そもそもが人懐っこくて従順だった

そんでウッドストック自身が「中に人間が入ってる」と言われるほど頭のいい馬で、競馬の仕組みを理解していたと言われている

しかも騎手の指示に素直に従い尚且つ自分から勝ちに行く馬だったので池谷のことは一緒に勝ちに行く相棒と思ってたのかもしれない

これがウマ娘に反映された結果ウッドストック特攻のスパダリが誕生した

636：芝駆ける名無し ID：FNbv8FpQm

はえー

637：芝駆ける名無し ID：LQcb5kNjz

鞍上代わるのクツソ嫌がるぐらいには池谷大好きやしな

638 : 芝駆ける名無し ID : x e j o c p 5 2 0

引退レース後馬運車に乗せようとしたら池谷にすり寄ってポロポロ涙流してしばらく離れなかった話すこすこのすこ

639 : 芝駆ける名無し ID : P O q g g 9 / x 5

あれで池谷も周りのスタツフももらい泣きしたんよな

640 : 芝駆ける名無し ID : I b 3 7 m J e l q

もう池谷と走ることはないのが分かってたんやろなあ

641 : 芝駆ける名無し ID : S 3 4 a + b p 5 I

やっぱ中身人間やってアイツ

642 : 芝駆ける名無し ID : B w p Q 9 1 2 8 w

そのときの動画初めて見た時はマジで挙動が人間みたいやった

もちろんワイも泣いた

643 : 芝駆ける名無し ID : H S P Q d t 9 x 4
目にゴミが入ったとかそんなレベルじゃない泣き方

644 : 芝駆ける名無し ID : P J A O C t h z /
引退式後池谷と和やかに別れます

馬運車に乗せようとなります

ウツド段々歩みが遅くなつてやがて止まります

池谷を振り返つたと思つたら急に引き返して池谷にすり寄り
ます
ウツドが泣きます

池谷がつかれてウツドに抱きついて泣きます

周りも泣きます

俺も泣きます

645 : 芝駆ける名無し ID : e u x 7 u c h O +

これ以上ないほどの青春エンドじゃん

646 : 芝駆ける名無し ID : OPnQSS8MJ

そら一緒に戦った相棒との別れは辛えでしようよ

647 : 芝駆ける名無し ID : FEEq9vx+H

一緒に世界を飛び回って一緒に世界に挑んだからな

648 : 芝駆ける名無し ID : LdMO19+IC

唯一無二の相棒

649 : 芝駆ける名無し ID : H9/Ofn3rm

チーム池谷の屋台骨

650 : 芝駆ける名無し ID : 980d5SKpR

池谷の心に突き刺さって抜けない聖剣

池谷の癒しだった魔性の女

池谷にステゴ産駒の力を分かせた夢路

池谷と一緒に天に勝利を届けた金細工師

池谷を世界に連れていったロックスター

651 : 芝駆ける名無し ID : 4 x x 5 m j 6 X d

池谷が癪馬と素直な馬の間に挟まれてて芝

652 : 芝駆ける名無し ID : Q S L + 1 8 T I N

なんでやメイケイエルも大人しいやろ

653 : 芝駆ける名無し ID : 8 Z a L A X T H j

肝心のレースで暴走するお嬢様はちよつと……

654 : 芝駆ける名無し ID : 9 r e n 5 w Q w H

カレンチャンとウッドストックが池谷の癒しすぎる

655 : 芝駆ける名無し ID : V i p l l X S Z R

池谷の画像色々あるけど笑顔でメロイックサイン掲げてウッドストックと一緒に舌

出して挑発してる写真が一番好き

656 : 芝駆ける名無し ID : 9 / O O P a 4 a

あれホント好きすぎる

何がつて多分ウツドがそういうのを求められてるのを理解してあの舌出しやってるのが伝わるのがすごい好き

657 : 芝駆ける名無し ID : 0 1 f Z w 3 T F v

よりにもよって海外の初戦でもんなあw

658 : 芝駆ける名無し ID : 9 i E d w h p 5 Z

あれで次戦他の騎手に徹底マークされたんやろ？

659 : 芝駆ける名無し ID : K U b w k I d C 4

せやで

それでもつかい叩き潰して鞍上でメロイツクサインまた掲げてた
ウツドも舌出してた

660 : 芝駆ける名無し ID : e d a K W Z o + +

クツソワロタ

661 : 芝駆ける名無し ID : m y o m 7 w E u 5

池谷もウツドも調子に乗りすぎやろ

662 : 芝駆ける名無し ID : M f 7 S H Q E s p

いやでもロツクやメタルとメロイックは切っても切り離せんし……

663 : 芝駆ける名無し ID : / U I h w N 1 8 1

パフォーマンスの一種だから(震え声)

664 : 芝駆ける名無し ID : v e o y U c g J /

でもウツドも海外行っても全然へこたれないのすげえよな

665 : 芝駆ける名無し ID : a p c E A v / g b

普通馬にとって長距離移動とかものすごいストレスかかるはずなのにな

666 : 芝駆ける名無し ID : h o R y U z d A 5

ましてやクツソ五月蠅い飛行機で長時間狭いところに入れられて移動や

人間でもそんなことされたら気が滅入る

667 : 芝駆ける名無し ID : O 3 4 f N 3 8 x Y

ちよつとは疲れてたけど食欲もあるし渡航先の牧場の馬とすぐ仲良くなった挙げ句
ボスになつてるし何なんだあの陽キヤ

668 : 芝駆ける名無し ID : o M Q K 2 N w r z

郷に入つては郷に従えつて感じでその牧場の馬のルールとかにすぐ馴染んだらしい

669 : 芝駆ける名無し ID : V a f 7 U r J X I

ボスなのに人懐っこいのはすごいよなカレンチャンしかり

670 : 芝駆ける名無し ID : O 5 6 9 P a B j Y

ドリジャ「デレデレしやがって嘔むぞ池谷ア！」
オルフェ「なにニヤついてんだ蹴るぞ池谷ア！」

671：芝駆ける名無し ID：pyxoCTQXo
お前らはまず実装される定期

672：芝駆ける名無し ID：evialBSO9
(その二頭は) いやーキツイでしょ

673：芝駆ける名無し ID：w/L61Z094
お前のお手馬やろがい！

674：芝駆ける名無し ID：lAxWyk7TP
池谷も苦労人なんだけどそれ以上にドラマ作りすぎててレジエンド大武の次によく
名前聞くよな

675：芝駆ける名無し ID：DEztQTN5b

、ネタが抜群に多いからな

676：芝駆ける名無し ID：WZZZ8／+PQG
 大体乗ってきた馬のせい

677：芝駆ける名無し ID：7+p4qdRPe

引退後気性荒くなりすぎて会いに行かない方がいいと言われたドリームジャーニー

池谷の言うこと絶対聞かないウーマンスイートウシヨウ

メロメロのデレデレになって俺の女発言かましたカレンチャン

阪神大笑点はじめネタに事欠かないけど何だかんだ絆は強かった相棒その一オ

フェーヴル

制御大変すぎて毎回レース終わると疲労困憊になるメイケイエール

後にも先にもこんな出会いはないだろうと誰もが言う一番の相棒その二ウツド
 トツク

678：芝駆ける名無し ID：J2EkMPwax

ウツドとオルフェの相棒兄弟が強すぎて笑う

679：芝駆ける名無し ID：Hq+Pjqw7E

金細工師とロックスターに脳を焼かれた男

680：芝駆ける名無し ID：y9s9eRnV4

あの兄弟どっちも現役当時に人間の少年とのエピソードあるのが本当に出来すぎてる

681：芝駆ける名無し ID：HnawU+7V0

オルフェは普段クツソ人見知りで触られるの嫌がるのにその子にだけは大人しく撫でられてたのは馬なりになにか感じるころがあつたんかなって思うしその後の有馬の怪物っぷりは泣ける

ウツドに至ってはお前本当に馬かよってエピソードゴロゴロあるのにその中でも頭1つか2つ抜けてその少年との逸話が有り得なさすぎる

682：芝駆ける名無し ID：GQKO13+GQ

しかもウツドと少年の話の発端自体がもうおかしいからな

683 : 芝駆ける名無し ID : u q J a j 6 m x Z

いくら本来の乗用馬が来れなくなつて都合よく予定空いてて大人しかつたからつて
 当時バリバリの現役で無敗で重賞勝つてる競走馬代役にするとか最大限言葉選んで
 も頭おかしいとしか言いようがない

ましてやあの暴れ馬ステイゴールドの子供やぞ
 万が一子供でもウツドでも怪我したら一大事や

684 : 芝駆ける名無し ID : s R S e 4 M t 0 1

しかもあれ厩務員のおっちゃんが話を聞いて「じやあうちのウツドストック号を代わ
 りに行かせますよ」つて言つたから起きたことらしい

馬主オーナーに話が来たのは事が全部終わつてからとかなんとか

685 : 芝駆ける名無し ID : y l j n a + E p k

フアツ!?

686 : 芝駆ける名無し ID : V 9 U f I O x 1 X

おっちゃんなに考えとんねん

687：芝駆ける名無し ID：TJ4w8SlJa

独断？は、うせやろ？

688：芝駆ける名無し ID：N9mtBUDTl

よおクビにならんかったな……

689：芝駆ける名無し ID：vu16ImpPl

まあ馬主オーナーとも旧知の仲で信頼されてたみたいで

ウツドを代役にするって決めたのも「せつかくの子供たちの楽しみをこちらの都合で無かったことにするのは可哀想だし、ウツドストック号は大人しく人懐っこく、子供との接し方も普段の見学客で慣れていたので適任だった」って取材で言ってたから無計画ではないらしい

何だかんだ馬のことはよく見てる人だから嚴重注意で済んだみたい

それでも有り得んことしてるのは変わらんが

690：芝駆ける名無し ID：uSH5pqncl

減俸とかじゃなくお説教で済ませてる辺りオーナー馬主のおっちゃんに対する信頼の厚さが分かるな

でもそれはそれとしておっちゃん破天荒すぎやろ

691：芝駆ける名無し ID：J4Fhf4T4N

ウツドストツクも呆れてたろうな

692：芝駆ける名無し ID：zqxcoJ9/6

当時小学生の癖馬ジョッキー二号くんにも分かるぐらい気を遣って乗せてたみたいやしなウツドくん

693：芝駆ける名無し ID：9C9ZOV0aP

「ウツドストツクのおかげでぼっちから脱出出来たし、今の自分がある。僕にとって最高の兄貴です」って二号くん言ってたしな

694：芝駆ける名無し ID：UestSlybR

騎手になってウツドに会いに行ったら「久しぶりやん、元気か？」って言うかのように短く嘶いて鼻先を擦り寄せたのが当時ぼっちだった自分に気づいて歩み寄ったときの反応と全く同じで声を上げて泣いた二号くんの話大好き

その後「俺も騎手になったよ」って報告したら「マジか!? 頑張ったなく! 凄い! 偉い!」みたいな感じで顔をベロベロ舐められた話クツソ大好き

695：芝駆ける名無し ID：V14yXrlqR

厩務員のおっちゃんも「こういうイタズラはよっぽど親しい人間にしかない。多分彼のことをちゃんと覚えてたんだと思います」って言ってたからウツドストックは本当に規格外に賢い馬

696：芝駆ける名無し ID：CjitoAHY+

二号くん的情绪と涙腺はもうボロボロ

697：芝駆ける名無し ID：VhpuyB4BB

引退後しばらくしてテレビの企画かなんかで池谷が会いに行ったら

「いけや!?! いけや!?!」って叫ぶみたいに嘶きながら駆け寄っていつて勢い余って鼻先

でどついた話もホント好き

698：芝駆ける名無し ID：200TH6U5D

池谷が尻餅ついた瞬間「あつ」みたいな顔で固まるウッドと笑いながら立ち上がる池谷の対比がめっちゃ笑える

その後反省してるのかしてないのか池谷の顔をベロベロ舐め回すウッドと満更でもない池谷の絵面がもつと笑える

699：芝駆ける名無し ID：MjKInPrSz

池谷「あつ、こら、ウッドやめろつて！」ニコニコ

ウッド「ブモツブモツ」ベロベロ

池谷「俺はハチミツじゃないって、おいこら、っハハハハ!!」ニコニコ

700：芝駆ける名無し ID：cdYC5CzBP

和む

701：芝駆ける名無し ID：liVi4HiYd

引退後も仲良しで尊い

702 : 芝駆ける名無し ID : WMKH9D2oZ
イケ×ウツド来たな……

703 : 芝駆ける名無し ID : KEMngHsoo
は?ウツド×イケやぞ

704 : 芝駆ける名無し ID : IvdxTHct
不毛なカプ談義はやめちくりー

705 : 芝駆ける名無し ID : lZma7xW4c
その後二人でヘドバンして池谷とメロイツク舌出しやったのすこすこのすこ

706 : 芝駆ける名無し ID : E7cwnPAfs
最後に二人でビール飲むのもすごい……すごくすきです!

707：芝駆ける名無し ID：BUbsOTL7e
馬にビールっていいんだっけ？

708：芝駆ける名無し ID：UhpVurXEn
ゼニヤッタ「ビールを要求する!!」

709：芝駆ける名無し ID：ZCyTPF/2z
馬は元々アルコールに強いし、ビール酵母が一応整腸剤みたいな効果になるらしい

710：芝駆ける名無し ID：G89dl0rU3
はえく

711：芝駆ける名無し ID：Uhs3eU2bE4
ビール片手に競馬中継見ながら自分の子供たちの活躍を応援するウツドの幻覚が見えた

712：芝駆ける名無し ID：IeW0QGPBY

完全に休日の親父やん

713 : 芝駆ける名無し ID : o x q m 4 3 X b 8

芝

714 : 芝駆ける名無し ID : 4 y 0 L l E c N e

すつげえ似合いそうw

畳の部屋でテレビの前で寝そべってうちわ扇ぎながらみてるやつなww

715 : 芝駆ける名無し ID : D 8 F N 2 n E e c

容易に想像できて芝が生えまくり

716 : 芝駆ける名無し ID : p 2 z d 7 V j l v

ウマ娘のウツドストックもテレビの前でビール片手に娘の応援してるのはなんか想像できる

717 : 芝駆ける名無し ID : W H o a X l c P 6

イケメンやけど肝っ玉母ちゃんやからな

718 : 芝駆ける名無し ID : H x z Q 9 0 c r s

この馬知れば知るほど面白いわ w w w

もつと長生きしてネタ提供してくれ w w w w w w w w

G I、波乱、好敵手共～前編～

「今日もやるぞ、ウツド」

「ヒヒツ（おう）」

背中
の相棒から掛けられた声にチラリと目配せ、嘶きで返す。それに相棒は満足そうに目を細め、俺の鬣を撫でた。

2010年4月18日、中山競馬場。本日は晴天なれども馬場やや重し。

日本競馬クラシック、G Iレースの最初を飾る、桜舞う季節に熱狂の渦を巻き起こす怪物共の狂宴。

『最も速い馬が勝つ』レース。

G I、『皐月賞』。三冠をその頭に頂く資格があるのはどの馬か。今日、それが決まる。

なーんてカッコつけて心の中でナレーションなんか流してみましたけれどもね。レースに出る当事者である俺が他人事のようにモノローグ流してどうすんのよ。集中せえつて話よね。はい返し馬やりまーす。

とはいうものの、いつも通り俺の調子は厩舎のみんなが頑張ってくれたお陰で絶好調よ。見てこの毛艶！パドックでも俺以上に輝いてる奴は一頭除いて居なかったね！

その一頭は誰かって？ あそこで黒光りしてるエイシンフラッシュってお馬さんだよ。よし振りだなアイツ。後でちよっかいかけに行つたろ。

そして見てよこの全身に余すところなく鍛え上げられた俺の筋肉！ムツキムキのカッチカチやぞ！特にこの爆乳と見紛う大胸筋！肩周りも並みの馬なんぞ目でもないわ！ケツにちっちゃい重機載せてんのかい!?!

でもあそこで返し馬してるピサくんも俺とおんなじぐらいムキムキなんだよね。俺の見所さん全部被つてて存在感霞んじやうじやないのよもうちよつと痩せなさいよ。

やっぱGI出るような馬は違うなあ、どいつもこいつも化け物みてーな身体してやが

るよ、仕上げてきてんねえ。俺もか。

ちなみに鍛え上げまくったせいでオルフェから

(うわなにその身体……兄貴本当に馬かよ)

ってドン引きされました。お兄ちゃんシヨックすぎて思わずアイツの顔面に尻尾ビ
ンタ食らわせちゃったよ。

だけど実際同厩の馬にもちよつと引かれてるんだよね。やっぱこの筋肉量は馬的に
普通じゃないみたいで、近づくとも一瞬後退りされてしまう。

すぐに仲良くはなれるんだけど、他と比べてやっぱり半歩……いや一歩半ぐらい距離
は置かれちゃう。そんだけこの身体が怖いらしい。お兄さん傷つくわあ……。

とはいえ課題だったスピードとスタミナも弥生賞の時と比べてかなり改善されてき
たみたいだし、あとはどれだけ掛からず冷静に走れるかってところかな。この辺屋根の
相棒には苦労かけてるっぽいから申し訳ないのよね、早いところ治したい。

さあてもう少し返しをやってウォームアップは終りよ(やいやいやいやいやいやい
ウツドストックテーマーこんにやろう!!)うわあすごく聞き覚えのある声がかつちに向
かってくるなあ。

(よお、ダムール)

(久し振りじゃねーかウツドテメーバーローチキショーめ!! 今日の前みたいにぶつちぎれるとか思ってたら痛え目に遭うぞ覚悟しやがれてやんでえこの野郎スツトコドツコイめ!!!)

俺にエセべらんめえ口調で嘶きながらドツカドツカと近付いてきたのはヒルノダムールだった。相変わらずテンション振りきれてるな、普段からあんな大声で喋ってて頭の血管切れたりしねーのかな?

(なんだ久々に会えて嬉しいのか。俺も嬉しいぞ)

(てやんでえ誰がテメーなんかに会えて嬉しいもんかバーロー!!)

(そのわりには尻尾ブンブンじゃん)

(あ、あ!?! 俺尻尾振ってたか!?)

(気付かんもんかねそういうの)

いやあこの似非べらんめえキャラのダムールとも本当に久々だな。NIKKKEI杯

以来じゃないか？

こんなだけどちゃんと名馬なんだよなあ。本当に信じられねえけど。

(なんだなんだ、騒がしいと思つたらまたご無沙汰な奴が居るじゃねえか)

(ダムールうるさい……静かに)

(よお、ピサ。フラツシユも久し振り)

(おうおう久々じゃねーかテメーら!! 前の借りは返させてもらうぞこんにやろーめ!!)

俺とダムールの騒ぎを聞き付けたのか、エイシンフラツシユとヴィクトワールピサが歩み寄ってくる。いやはや^{そうそう}錘々たる面子じゃないの。この名馬揃いの集まりに俺が交ざってるっていうのが今でも不思議な気分だ。

(ダムールは前のめり過ぎだぜ。そんな調子でいて、スタートでずっこけても知らねーぞ)

(うるせーフラツシユ!! テメーこそ群れに吞まれてその無駄につやつつやの馬体が泥まみれに成つても慰めてやんねーぞバーロー!!)

(だからうるさい……)

(ピサも相変わらずクールだよなあ。そこが好き)

(すり付けるのやめろ!! 弥生賞以来トラウマなんだよ!!)

(い〜いじゃんかよお〜もつと仲良くしようぜ〜)

(やめろお!!)

(俺、ピサがこんなに取り乱すの初めて見た)

(おう俺もだわ!! 珍しいもん見れたな!!)

俺がピサにじゃれついてピサが逃げようとする。それをフラッシュとダムールが面白そうに眺める。ほのぼのしてるだろ? 皐月賞直前なんだぜこれ。

もうウォームアップなんかそつちのけ、騎手も放つたらかして馬同士でわちやわちやタイムよ。緊張感もあつたもんじゃあない、こんなレース前代未聞だろ。

とかなんとか言っていたら。

(いやーでもさあ、お前らちよつと腑抜け過ぎじゃね? 今回は俺が勝つたも同然だな)

フラツシユが爆弾を投げつけた。

(……は？ フラツシユお前何言ってるの？ 今日も俺が勝つに決まってるじゃん)

(……いいや、俺が勝つ。最後に笑うのは俺だ)

すぐに否定して勝利宣言し返すと、意外なことにピサも乗ってきた。いやでもコイツも負けず嫌いだし意外でもないか？

(おうおうおうてやんで俺が勝つと言ってるんだろーがよバーローこんちきしょーめ!!
俺抜きで勝手に盛り上がってるじゃねーぞポケナス共がよこんちくしょーが!!)

ダムールがいつそ清々しいほどの喧しきでさらに勝利宣言を被せてくる。あ、ヤバいこれ止まらん奴だ。

(いやいや俺だつて!)

(俺だよ勝つのはよ!)

(俺だ……!)

(てやんでえ俺に決まっつんだろ!!)

(おいおいお前ら俺の強さを知らんとは言わせねーよ!? そんなに煽つといて負けたら恥ずかしいすぎて馬房から出て来れなくなるかもなあ!?)

(はあー!? 俺に一度でも勝つてから言つてくれませんかねーそういうことー!? お前こそあんま強い言葉使つてたら逆に弱く見えちゃいますことよー!?)

(そうやって罵りあつてろ……俺がぶつちぎる……!)

(俺を本気で怒らせねえ方がいいぞサンピン共!! 後で吠え面かくのはテメーらだからな!!!)

ほほーん!? なるほど!?

お前ら俺が目の前に居るつてーのにそんなこと!?

宣つちやうわけねそうかーなるほどねーへーあつそー!?

(てめえら舐め腐んのも大概にしやがれよ!! まとめて潰してやるよ!! 特にウツド!!

テメエだけはここでぶつ潰す!!)

(上等じゃねえかフラツシユコの野郎!! 今度はハナ差どころで済まねえようにしてやるわツ!! 今日負けても慰めてやんねえからな!?)

(うるせえんだよてめえら……特にダムールうるせえ蹴り飛ばすぞ……!!)
(これが標準の音量だバーロー!! 俺だつてテメエのそのスカした面前々から気に入らねえんだよ前歯ブチ折つてやろうかチキショーめ!!)

((お前らまとめてぶつ倒す!!))

(君たちっ! やめ給たまへっ!!)

((あ、あッ!))

!?
人が啖呵切つてる時に横から水差すような真似しやがってどこのどいつだこの野郎

(レース前に争うなどなんと醜い! 醜悪! 不粹! 君たちも競走馬なら黙ってレースで決着を付けるべきではないのかね!?)

(しかし君たちもつくづく運がない!! 何故ならば今回勝利するのはこの僕っ!)

(熱気冷めやらぬターフに咲く一輪の薔薇っ!!)

(僕の名はローズキングダムツ!! 美しき僕の華麗なる勝利を特等席で見届けさせてあげよう!! 君たちにはその権利があるっ!!)

(うるせえ引つ込んでろエセ劇団野郎)

(横からいきなりなんだテメエぶっ飛ばすぞ)

(仲裁に来たのか挑発に来たのかどっちだクソガキ……)

(そもそも初対面ならキッチンと挨拶しろや常識知らずがこの野郎バカ野郎!!!)

(ヒイン……このひとたちこわい……)

『えー、G I 臯月賞ですが返し馬から大波乱です。ヒルノダムール、ウツドストック、エイシンフラッシュ、そしてヴェイクトワールピサ。名だたる名馬四頭による顔を付き合わせてのにらみ合い嘶き合いが勃発しました』

『各鞍上必死に手綱を操りますが喧嘩が止まりませんね。先程まで仲良く並走していたのですが何があつたのでしょうか』

『ひよつとすると誰が勝つかで揉めているのでしょうかね？ あつ、ローズキングダムが近付いていきます、仲裁に入るのでしょうか』

『……あー、四頭に一喝されて大人しくなっちゃいましたね。さすがに多勢に無勢といったところですか』

『今年のクラシック戦線は大荒れになりそうですね。特に台風の目になるのは中心であらうウツドストックですか』

『彼はレース内外でも話題には事欠きませんからねえ、ここでG I を勝って勢いを増すのか、それともライバルが無敗記録にストップをかけるのか注目です』

G I、波乱、好敵手共々中編

(……………で、何であんなこと言ったわけよ?)

(とうかまらず名前なんだっけ?)

(確か……………ローズ、なんたら?)

(べらぼうめ前口上長ったらしいんだよもつと簡潔に言えバーローこんちきしょーめ
!!!)

(ひい……………このひといちばんこわい……………)

(だってよダムール)

(うっせー元から俺あこんなんだわ!! 悪かったなチキショーめ!!!)

少しして、このローズなんとかのせいで毒気を抜かれた俺たち。改めてこのローズなにがしの話を聞くことにした。

俺たち四頭で横並びに囲んで。ことと次第によつちや徹底的にわからせてやります

いっしょ。

(えっと、僕ローズキングダムって言います……喧嘩を止めようとしたのは本当なんです……)

(いやー俺らも熱くなってたからなあ。俺らしくもなかったねありや)

(元はと言えばフラッシュが悪いだろ。あんな爆弾投げられたら誰でもそうなるわ)

(あ?)

(お?)

(お前らもうやめろ……!)

(流星にしつけーぞ!!)

チツ、一番喧嘩っ早いダムールにまで言われるのは釈然としないが、ピサに言われ
ちやしうがねえな。

(あー………それで……?)

(あ、はい。あの、止めようとしたのはいいんですけど……あの剣幕じゃないですか?)

ちよつとやそつとのことじゃ聞いてくれそうもないし、あのぐらいぶつ飛んだことしな

いと誰も止まらないかなくて……目が血走ってて怖かったし……)

なるほど、一応考えがあつてのことなのね。それで今のこいつが素なのか。それにしたつてオペラ風になったのは何でだとしか言いようがないが。

(まあまあ、そーゆーことなら許したげようよ。そもそも俺らが喧嘩してんのが悪いしな)

(フラツシユが言うのがアレだがそだね)

(悪かったな……)

(俺も詫びる!!)

(あー良かった……他の皆もめちやくちや怖がつてたんですよ。本当になんとかなくて良かったあ……)

あ、マジ？俺らそんな周りに迷惑かけてた？確かにちよつとヒートアップし過ぎた感はあるけどそんなにだったか。すまんかった。

いつの間にかゲート入りの時間も迫ってるしそろそろ本格的に集中せんと。

(それじゃあ僕先に行きますね)

(ああ、重ね重ねすまん)

(いえ………あ、そうだ。皆に言っておかなくちゃ)

(ん？ どうしたローズ)

ふとそう言つて立ち止まったローズが俺たちの方へ振り返る。

(喧嘩を止めに来たのは嘘じゃないですけど……)

先程まで俺たちにビビっていたはずのローズ君は既に居なかった。

(勝ちにいくのも、本当ですよ?)

目に野心と闘争心を宿した競走馬『ローズキングダム』がそこに居た。

(覚悟したまえ！ 君達は目撃者だ!! 僕の華々しい勝利を誰よりも近くで刮目し、やがて頭こぶを垂れてひれ伏すために存在するのだ!!)

ああ、そうだった。コイツも知識の浅い俺ですら知ってる馬だ。このG Iの舞台にのしあがってきた化け物馬だった。

(光栄に思うがいい!!! 貴様ら纏めて、このローズキングダムが表彰台代わりに踏み潰してやる!!!)

ビリビリ、と。奴の低く唸るような、轟くような嘶きに、競馬場は一瞬しんと静まり返り、俺たちも例外なく一瞬押し黙った。

そうか、それがお前の本性か。四頭相手にそれだけ啖呵を切れるのは、尚且つ全員を一瞬たじろがせてしまえるのは並大抵の根性じゃねえ。なるほど、お前はそういう馬なのか。

そうか。

そうかよ。

ならば相手にとって不足なし。我等の獲物に相応しい。

(……上等だ……かかってこい!!)

(受けて立つぜこの宝塚かぶれの洩垂れ小僧が!! お望み通り返り討ちにしてやる!!)

(口だけは達者らしいなべらぼうのクソガキがよ!!! 二度とその舐めた口利けなくしてやろうじゃねえかこのスカタンがてやんでえパーローチキショーめ!!!)

あーあー感化されて三頭ともまた燃え出したよ。ローズ君本当に仲裁したいのか喧嘩売りに来たのかどっちなのよ。どっちもか。

まあ、

俺も例外じゃあないけどな。

(嫌いじゃないぜ、そういう傲慢な態度……だが勝つのは俺だ……!!!)

「ウツド、ダメだろ！」

「ヒイン……(すみません……)」

ちなみにゲート入り直前で池谷殿に怒られました。怒られて当然だが。

『……途中五頭寄り合つて大喧嘩というハプニングはありましたが、各馬ようやく落ち着いたようです。続々とゲートに入っていきます』

『一時はどうなるかと思いましたが、なんとか出走できそうですね。ローズキングダムも最後は四頭に吠えていましたが、宣戦布告でしょうか』

『他四頭も負けじと吠えていましたねえ。これまでのレースを見るにどの馬も負けず嫌

いですから、誰が一番強いかな喧嘩するのも仕方ないかもしれません』
『果たしてこの一幕がどのような影響を及ぼすのでしょうか。実力でいえば誰が勝つてもおかしくないですし、伏兵に差される可能性も十分にあります』
『今年も波乱の幕開けとなる予感がしますクラシック戦線、間もなく戦いの火蓋が切られようとしています。G I 臯月賞、間もなく発走となります』

俺の戦いは。

『さあゲートインから………一斉にスタート!!!』

ここから始まる。

G I、波乱、好敵手共く後編く

ガシヤン、と一斉にゲートが開き、ほぼ横一直線に馬が飛び出す。

俺ことウツドストックは二枠三番、内枠スタートだ。内枠っていうのはそれだけで距離的有利がある。別に大外でも構わんがまあ有利になるのならそれに越したことはない。

とはいうものの、実は俺ってスタートはそこまで得意じゃないのよね。一年近くレースに出ておいてなんだが、未だにタイミングを合わせるのが苦手というか。

ゲート自体は苦手じゃない。狭いところか入っても平気だしむしろ好き。だけど調教師の兄ちゃん曰く、「ゲートが苦手じゃないということは、相対的に早く出たいという気持ちがないんじゃないか」って言ってたから、スタートが下手なのはそのせいなのかもしれない。単に俺に反射神経がないからかもしれないが。

ま、俺の戦術は基本差しか追込だからそこまで困らんがね。のんびりと全体を眺めさせてもらわあ。

『さあ各馬ゲートインから一斉にスタート、ウツドストツクちよつと出遅れましたがほぼ横並び、いや勢いよく飛び出していったヒルノダムールこちらは掛かっているのか？』

(どおけどけどけどけけバーローてやんでえコンチキショーめ!! チンタラ走ってンじゃねーぞ!!)

(うおわっ!?)

(なんだアイツ危ねえな!?)

おいおいおい、ダムールのやつ頭に血が上って掛かりまくってんじやんよ。下手したら斜行で失格だぞ。あーあー鞍上さんめつちや綱絞ってるじゃねーか、なにやってんだよアイツ。

まあこれでスタミナ切れ起こして沈んでくれりゃこつちとしても助かりますけどね。あれはダムールの自業自得だし、ライバルが減るに越したことはないし。

さて他の面々は……んー、ちよつと前にピサがいる……つてことは差しかな。フラツシュとローズなにかし某は前目につけて先行策か？ まあ王道の作戦だな。

さて池谷殿どうする？ このままのんびりお散歩といくかい？

「……………こつちだな」

む、外に行つて少しずつ上がれと。ドンケツはさすがに避けたいのかね、ほいほい。スルスルつと外に出て二、三頭ほど躲す。やけにあつさり譲つてくれたところをみるに、コイツらも多分中盤終わり辺りから勝負に出るつもりだな。ここでブロック策に出て余分な体力を消耗するのは避けたいようだ。

(先に行くぜ)

(どうぞ)

ふむ、意に介さずと。流石にG Iに出てくるような奴には煽つてもさほど意味がなさそうだ。ダムール？ あいつアホだし。

む、相棒が手綱を絞った。ということは今回は後方で様子見か。あいつらは……あ、ピサ俺の前にいるじゃん。

(よっ)

(……おう)

軽く声をかけたら返事はしてくれな。こつちの方はほとんど見てないっぽいけど。やだもー寂しいじゃないの、ねーねーこつち向いてよお。

……チツ、一瞥もしやがらねえ。まあええわ、それならそれで嫌でも意識せざるを得ないようにしてやる。

『さあ順位を見ていきます、先頭は変わらずヒルノダムール。鞍上藤川、必死に手綱を絞りますが掛かりつばなし、これは厳しいか。暴走特急の後ろ続きますはアリゼオ、その更に後ろ、内からガルボ、ダイワフアルコン、ゲシユタルトが三頭横並び。半馬身離れてエイシンフラッシュとローズキングダム、外からはハンソデバンド。リルタヴァアル、レッドスパークル、バーデイバーデイと続いてヴィクトワールピサここにいた。その外

から本日一番人気ウツドストック、ヴィクトワールピサの斜め後方にピツタリと付けている。二馬身離れましてサンデイエゴシチー、シャインが争っている。その後ろレーヴドリアン、トーセンアレス、殿はネオヴァンドームとなっておりませう』

(チツ……………)

ピサの外側斜め後ろにピツタリと張り付き、外からは抜け出せないようブロックする。ピサはその筋肉モリモリマツチヨマンな威圧感のある馬体と、それに違わぬ溢れんばかりのパワーの持ち主。その辺の奴らのブロックなら強引に抜け出して前に出ることも出来るんだろうが、相手が俺なら話は違ってくる。

なぜなら俺はお前と同等の馬体とパワーがある。考えなしに外へ出ようもんなら逆に内側へ押し込めてやれる。

当然そんなことすれば進路妨害となるだろうし、ピサの騎手も落馬しかねない。だから俺から手は出せないが……逆に言えば、ピサも下手な動きはできないと言うことだ。

(ピサくんびびびってる、ハイハイハイ)

(お前後で覚えてろよ……!)

(やだピサくんこわーい、そんな目くじら立てちゃイケメンが台無しよ)

(腹立つ……ッ!)

そうだもつと怒れ、冷静さを欠け。それが隙になり、焦りになり、体力消耗に繋がる。そうなればお前は終わりだ。

とは言うものの、実際この作戦は俺もきつい。こつちも妨害判定されない程度に張り付かなきゃいけないから、実は相手の動きを逐一把握する必要がある。

ましてや相手は俺の知る史実でのG I馬。鞍上も一流とくればその動きは予測が本当に難しい。ブラフやフェイントも織り交せてくるのだから、一瞬でも読み間違えばすぐに脱獄されてしまうだろう。

まだ勝負は中盤。仕掛けどころまで、俺の領域^{ゾーン}までじつと耐えるんだ。

『さあ各馬いよいよ最終コーナーに差し掛かるところで、先頭ヒルノダムールから変わりましたアリゼオ、その後ろピツタリとダイワフアルコンつけている。クビ差でガル

ボ、外にゲシユタルト、ヒルノダムールはズルズルと下がってただいまこの位置。ローズキングダムとエイシンフラッシュはここが仕掛けどころでしょうか。一馬身離れてハンソデバンド、さあ外からヴィクトワールピサが上がってきた！ ウッドストックも続いていく！ ネオヴァンドームも最後方からじわりじわりと上がってきてこの位置！後はトーセンアレス、サンデイエゴシチー、シャイン、レーヴドリアンが団子状態！各馬最終コーナーぐると回って最後の直線に入っていく!!』

「ここだ、いけー！」

「ブルルツ！（了解！）」

相棒の合図である見せ鞭を見て、俺は溜めた脚を解放する。どうせ大外ブン回すんだ、綺麗なコーナーリングだのなんだの知ったことか。ただひたすら脚を回して前に前に上がったいくだけよ。

ただ誤算だったのは、

（ふん……………）

(ツ！・ピサあ!!)

右斜め前でマークしていたピサも全く同じタイミングで加速し始めたことだった。

向こうの騎手も俺たちが上がってくることを予想していたのか、池谷殿がまさに鞭を打とうとした瞬間こちらをちらりと見て、素早くピサに鞭を打ったのだ。全く同時に。

おいおいいくら経験豊富で一枚も二枚も上手とはいえ、後ろの騎手に併せて同時にスパートかけるなんてとんでもねえ技術披露してくれんじゃん。おかげで一歩抜け出す作戦がおじゃんじゃねーか。

こうなるとピサのパワーと圧でコースを押し開けられてしまいうし、俺とピサのスピードはほぼ互角。そうなると半馬身ほど前を走るピサが有利だし、俺に逆転の目があるとすれば、脚をブツ壊す覚悟で限界越えて全力疾走しなきゃいけないなくなるんだぜ、勘弁してくれよ。

しかも今回の敵はピサだけじゃねえ、前にいるフラッシュもローズも続々とスパートをかけてる。化け物達がただゴールを目指してぶつかり合うんだぞ？　こんなところ恐ろしくて入っていきねーよ。ダムールは……まあ、うん、ドンマイ。

「だけだよお、ここで勝負投げて流すような根性なら、そもそもこのクラシックレースなんて最初から走ってねえんだよな。」

馬として生まれて早三年。何かに導かれるようにレースを走ってきた。俺が生まれた意味を、馬として生まれ変わった意味を知るために。

俺が馬になった理由は今でも分からない。だけど、一つだけ分かることがある。

それは。

「行くぞウツドお!!」

「ヒヒッ!! (応ッ!!)」

俺自身がどうしようもなく負けず嫌いだったことなんだよ!!!

『さあ最後の直線で上がってきた! エイシンフラッシュ、ローズキングダム! さらに後ろからヴィクトワールピサ、ウツドストックも猛追! この四頭が抜け出すか!?!』

まだ勝負は分からない！ 勝負は全く分からない!!』

(どうしたオペラかぶれエ！ 啖呵切った割にスローペースじゃねえのツ!?)

(喧しいなんちやつて伊達男オ！ 君こそ息が上がっているじゃあないかツ!!)

(あゝ あツ!?)

(おゝ おツ!?)

おーおー前で喧嘩しながら走つてらっしゃいますねえローズ君もフラッシュも!!
随分楽しそうじゃねえの!?

(待てゴラア……!!!)

(俺ら抜きで一位争いとか赦さねえぞ!!!)

(げっ!?! 面倒臭えのが来た!!)

(大人しく僕の背中を追っていれば良いものを!!)

誰がそんなシャバい真似するか!! 自分で進む道ぐらい自分で決めらあ!!

(お前から引つ込んでろ!! 特にウッド並び立つな!!)

(なんだとフラツシユテメエこの野郎!? そっちこそ張り合つて来んじゃねえ!!)

(僕の覇道を邪魔するな十把一絡げのモブ共オ!!)

(黙れエセ宝塚……!! お前はお呼びじゃねえんだよ……!!)

(オウオウオウオウ俺を忘れてんじゃねーぞテメエらバーローてやんでえチキショーめ!!! 俺が一番強えんだっ言つてんだろうがべらんめえクソツタレバーローコンチキショーめ!!!)

((アイツ戻つてきやがった!?!))

『四頭纏れる大混戦!! 大本命ウッドストックかヴィクトワールピサか!? 対抗エイシ
ンフラツシユ負けじと差し返す!! ローズキングダム負けていない!! その、外からも
う一頭飛んできた!! ヒルノダムール!! ヒルノダムール!? ここにきてダムール復

活の追い上げ!! 先頭争いはこの五頭だ!! 新緑香る季節に肌焦がす熱気!! 臯月賞の冠を手にするのは誰だ!』

後ろから一際うるせえのが来たと思ったらダムールじゃねえか!? さつきスタミナ切れて下がっていったのはなんだったんだよ! ここにきて要らんど根性発揮しやがって!!

(ギヤハハハハハッ!! さつきのはフリに決まってんだろバーローてやんでえマヌケ共が!! 沈んだと思つてた奴にケツ追われる気分はどうだべらんめえストコドッコイクソツタレバーローめ!!)

((((あの野郎腹立つ!!!)))

よりもよってダムールの野郎に後ろから煽られるとか屈辱以外の何物でもねえ! ああでも実際アイツとんでもねえ速度で追い上げてきてんだよなあ!? どうやらあの序盤の暴走はガチのブラフで、この展開はアイツの作戦通りだったらしい! 不本意だがちよつと見直したよダムール! 俺たちをまとめて騙してビビらせたんだからな

!!

だがよお？

(すつ込んでろ江戸っ子モドキ!!!)

(しゃしゃり出んな……!!!)

(お前は後ろで俺らのケツ見て大人しくしてろアホダムール!!!)

その程度でビビってイモ引くほど俺らはお利口さんじゃあねえんだよ!!

(んだとゴルア!? コンニヤロー久々にトサカに来た!! お前らまとめて蹴っ飛ばしてやるから覚悟しろべらんめえ共がよ!!!)

(僕が言うのもなんだが君らいつもそんな調子なのかい?)

『五頭だ五頭だ！ 五頭一直線横並び!! 青い芝を若き怪物達が踏み荒らす!! 各鞍上しなる鞭!! スタンドからは怒号と悲鳴!! 後ろも必死に追いつがるが追い付けない! 五頭飛び出して残りは蚊帳の外!! 誰が抜けるんだ!?! 誰が差し切るんだ!?! 誰だ!?! 誰だ!?! 退かない退かない誰も譲らない!! プライドとプライドがぶつかる叩き合いだ!! 意地と根性が五頭を突き動かす!! 臯月賞で!! 一冠目でこの熱狂!! 誰が勝つんだ!?! 誰だ!?! 勝ったのは誰だああああ!!?』

し、死ぬ……………。

いやもう無理……………。死ぬってこれ…………。肺痛え…………酸素…………酸素が足りない…………。脚も気を抜いたら力が入らなくなりそう…………今流して走れてるだけでもわりと奇跡に近いんだわ…………いかん頭痛もしてきた…………誰か酸素ボンベくれえ…………。

(ゼエツ…………ゼエツ…………こ、コンチキシヨーめ…………何で誰も譲らねえんだ…………)

(れ、レースなんだから……当たり前だろ……つうえ、吐きそ……)

(やめろフラッシュ……絶対吐くな……もらいゲロする……)

(僕も……事故るかも……)

(お前ら絶対やめろよ……特にフラッシュ……)

(なんで俺だけ責任重大なんだよ……つうおえ、マジで吐く)

((マジでやめろ……!!))

ピサもどつかの芸人みたいなフラグ立てるなよ……。

そ、それより着順……着順はどうなった……？ 横並びで誰が勝ったかさっぱりなん

だよな……。

『さあ一着はどの馬なのか。写真判定が中々終わりません』

『五頭でほぼ一直線の横並びですからねえ。掲示板に収まる全ての馬の着順を決めなければなりませんから、慎重に判定しなければいけません』

『体勢では……若干クローズキングダムが後ろに居ますでしょうか……？ 他はまさにハナ差、1cmが勝負を分ける世界ですがこれはかなり判定が難しいですね』

『スタンドは大歓声から一転、観客が馬券を握りしめ、固唾を飲んで結果を待っています。いやあくドキドキしますね!』

『大激戦でしたからねえ、私も年甲斐もなく興奮してしまいました。こんなレースを実現出来たというのは冥利に尽きますよ——おっと、着順が確定したようです! 皐月賞の栄冠を手にしたのはどの馬か! 掲示板!!』

『——ウツドストック!! 掲示板の一番上! 表示された数字は三番のウツドストックだ!! 二着にヴィクトワールピサ! なんとハナ差1cmでの決着です!! 三着ヒルノダムール、エイシンフラッシュ、ローズキングダムと続きます! 凄まじい大激戦!! 誰が勝ってもおかしくない名勝負!! 若き怪物達を抑え、冠を手にしたのはウツドストックです!! 鞍上池谷天高くガッツポーズ!!』

(……………俺の勝ちだな)

(クソツ……………またウツドに持っていかれた……………)

(まだ二着だからいいだろ。俺なんてよりによってダムールのバカに負けたんだぞ……………)

(お、お!? 何だとフラツシユテメー!? 場外乱闘ならいつでも買うぞダボが!!)

(うるせえぞダムール……………! フラツシユも煽るな……………!)

(へーへーすみませんでしたねっと)

いやあ、ついに俺もG I馬か。しかもクラシック三冠の一つ、皐月賞。

嬉しいねえ。このレースをコイツらと鎬削しのぎつて掴み取ったんだ。もう嬉しいなんてもんじゃ表せねえ。

相棒も背中では吠えてるねえ。あの大激戦で勝ったんだからそりやあ嬉しいでしょうよ。

ほら見てあの歓声。俺らに賭けた奴が躍り狂って、賭けなかった奴は天を仰いで馬券の紙吹雪だ。歓喜、悲鳴、怒号、慟哭。色んな奴の叫びが俺の全身をブツ叩いてくるんだ。

(ケツ、一丁前に感傷に浸りやがって。次は俺が勝つからな)

(オイオイ俺だつてんだ!! テメーだけはぜつてーに潰すからなウツド!!)

(いいや俺だ……………!!!)

(ハツ! いつでもかかつてこいよ! ……………あれ、そーういやローズ某は?)

ふと気付いたらずーつと静かだから気になつちやつたよ。

アイツは……………あーいたいた後ろにいたわ。アイツ五着だから大健闘だったし、最後まで食らい付いてきた根性もあるし。スゲー馬なのは改めて分かったから劳いの言葉でも…………。

(負けたア……………つ、えぐ、負けたああ……………)

ぶええええええええ!! 勝てなかつたああああああ!! 牧野さんごべえええええええん!!)

あらやだ泣いちゃったわよあの子!?

(オイオイウッド悪い奴だなお前)

(ちよつと引くわ……………)

(泣かせるとかどうかと思うぞウッドべらんめえ!!!)

(は!?! ちよつと待て! 俺が悪いのかコレ!?)

いやいやおかしいって! それを言うならローズの前にいたお前らも全員同罪だろ!
! なんてしれつと俺に全責任擦り付けてんの!?

(泣ーかしたー泣ーかしたー)

(オーナー馬主に言つてやろ……………)

(今すぐ謝つてこい!!!)

(テメーらまとめてドタマ蹴つ飛ばすぞ!!!)

『ローズキングダム、嘶きが止まりませんね』

『案外悔しくて泣いているのかもかもしれませんねえ』

『ハハハ……いやあしかし先ずは一冠、といったところでしょいか』

『これからのクラシック戦線に期待ですね。ウツドストックがこのまま三冠馬となるか、ライバルが意地を見せるか』

『いやあ楽しみですねえ………あ、ウツドストックがローズキングダムに近付いて……顔の、鼻の横を擦り合わせてますね。宥めているのでしょうか』

『レース前の大喧嘩が嘘のようですね。闘いのあとの友情というものですかね』

『ドラマチックですねえ』

(びいああああああ!! おぎよぶいいいい!! ぜぼあああああああああ

!!!)

(いや泣き方の癖すげえなお前!!!)

結局宥めるのに10分ぐらいかかった。解せぬ。

箸休め―ウツドストックと生徒会―

「会長」

「ん？　どうかしたかい？」

「常識に欠ける上司、気に掛ける」

「んぐっ……………」

「……………」

「……………」

「ウツド」

「どうした？　会長」

「資料がなければ、知りようがない」

「フフツ……………」

「……………」

「……………」

「会長、しもやけになると痒くてイライラしないか？」

「ん？ ああ、どうしてもな…………それが？」

「今日しもやけになった教師もヤケになった」

「ふはっ……………」

「……………」

「……………」

「ウッド、足湯に入ったことはあるか？」

「ああ、いいよなあれ。疲れが取れる」

「うむ。そう、まさに」

「足湯で疲れをフットバス」

「ぐっ、しまっ、ぶくくく……っ！」

「……………」

「……………」

「そういえば聞いてくれ会長」

「ん？」

「叔父が会社経営してるんだが、新卒の懇談会開いたけど誰も来なかつたからクビにしたらしい」

「…………それは厳しいな。だがなぜそんな話を…………？」

「懇談会で会うと思つたが、来ん段階でアウト」

「ブフツ、んふふふふつ……………」

「……………」

「……………」

「そうだ、ウツド」

「なんだ？」

「ふと思いい出したんだが、嘘か真か、佐賀県佐賀市にはイエス・キリストが晩年を過ごした家が今でも残っているそうだ」

「ほう？ また眉睡な話だな」

「今度二人で行ってみないか」

「え、なんであたしと……？」

「佐賀市にあるかないか、捜しに歩かないか？」

「っ、んぐ、くくく………ッ！」

「……………」

「……………」

「あの、会長……それとウッドストック」

「ああ、エアグルーヴ。どうしたんだい？」

「業務中にダジャレを言い合うのは止めてください。気が散ってしまいます」

「あ、ああ……済まない、つい夢中になってしまった」

「ウツドストックもだ。貴様わざとやっているだろう」

「ごめんごめん、つい」

「業務を手伝わないのなら帰れ、全く……」

「……………」

「……………」

ゴソゴソ……………

「……………べん、べん、べん」

「……………今度はなんだ、弁当箱なぞ叩いて」

「べん、べん、べん……………」

「ベントーベン」

「ぶくくつ……………!!」

「会長」

「……………済まない」

「……ウッドストック、貴様いい加減にしないと」

「……………あつ」パカッ

「……………?」

「からやんオーストリアの指揮者ヘルベルト・フォン・カラヤンと弁当の中身空やん! をかけている」

「……………?」

「っ! そういうことか……………くっ、ふふ……………!」

「よっし、副会長陥落う!」

「……………え、あ、ウッド? い、今のはなにをかけたんだ……………う?」

「うわ会長ここまでできてそれはないわ」

「え、ええ……………?」

「……………仕事しないなら私は飯食いに行くぞ」

「すまま旋律」

「ん、くく……っ、だ、駄目だ、沸点が低くなって……っ」

「ゆるしてクレッツシエンド」

「んふふふふ……っ！」

「よし今日はエアグルーヴ弄る日だな！　まだまだストックはあるぜえウッドストック
だけにな！」

「んっぐ……！」

「あはははははっ！！」

「……………帰る」

馬主騒動—前編—

五月の初め。桜の花弁もすっかり散り、青々とした葉を伸ばす季節。燦々と光陽が大地を照らし、色とりどりの花が鮮やかに咲き誇る頃。

(あつたけえなあ弟よ……………)

(そうだねえ兄貴……………)

俺は弟と同じ柵内に放牧され、のんびり草を食みながら日向ぼっこに興じていた。

どうも、ウツドストックです。皐月賞から数日経って、現在完全オフです。

いやーアテクシとうとうG I馬になってしまいましたよ。元人間の馬もどきなアテクシが。クラシックの一冠目、皐月賞を勝ち取ってしまいましたわよ。あなた信じられますか？ アテクシはゼーんぜん実感ありませんことよ。

おかげでうちのオーナー馬主は歓喜で踊り狂ったらしいけどね。そりや自分の馬が

GIに勝ったんだもの、人間でいうとパトロンになった陸上選手が全国大会に優勝したレベルなんだから、お祭り騒ぎも仕方ないんだけどさ。

言うて俺ちゃんことウツドストク様的には、明らかに待遇変わったとかそーゆーあからさまなゴマすりムーヴはなかったわけで。

精々馬のマッサージ師さんが時々あん摩しにきてくれたり、おやつのりんごの味が変わったりしたぐらいかなあ。多分あれ玉林かふじのどつちかじゃね？ リンゴの種類あんまり知らないけど俺はくわしいんだ。

いや、アレだよ。姿形が変わってもマッサージっていいもんだよねって、俺はそう言いたいわけですよ。なんだつけ、身体の筋膜を剥がしてうんたらかんたら言ってたかったっけかな。多分そんな感じのこと厩務員のおっちゃんに言ってた気がしなくもない。

俺はぶつちやけマッサージが気持ちよすぎたのと、マッサージ師のお姉さんが美人だったから、そつちに気を取られて話聞いてなかったけど。

はー俺が馬じゃなかったらなー！ マジ一夜を共にしたいんだけどなー俺馬なんだよなー！ つかー残念だわー！ 俺のイケメンぶり（馬基準）だったらイチコロなんだけどなー馬だからなー！ つかー残念だわー！ つかー！

「この子本当に大人しいですねー」

「いやあまったくですね。私も色んな馬見てきましたがここまで素直なのは初めてですよ」

「おまけに人懐っこくて……アハハツ、鼻キスされちゃいました」

「ソイツ美人に目がないんですよ」

「ええ〜？ そうなのキミい〜」

「ブモツ！ ヒヒツ、ヒヒツ（その通り！ お姉さん綺麗だね）」

いやもう本当に美人さんなんだよね。なのに笑うとカワイイっていうか。マジお近づきになりたいわー。ねえねえお姉さんどこ住み？ LINEやってる？ 彼氏いるの？ 納豆にネギいれるタイプ？ てかLINEやってる？ あ、まだLINEねーわこの時代。あつても俺馬だからスマホ出来ねーわ。くそう。

（兄貴ホントに人間好きだよね〜……俺には分かんないや）

（人間はいいぞ。なんにも言わんでも飯くれるし遊んでくれる）

（いい年なんだからメスにアピールでもしたら？）

(いやーキツイでしょ)

うん、まあオルフェの言うことも間違っちゃいないんだけどさ。俺まだ現役で競走馬だし無理やん。メスにアピールしても交尾出来ないじゃん。そもそも俺前世人間って意識がハッキリしてるから、馬と交尾が出来らんかも怪しいじゃんアゼルバイジャン。

俺個人の感覚からしたら馬と交尾って異種交配になるわけですよ。俺一応GI馬になったから多分種牡馬的価値はあると思うし、そういうお仕事が回ってくるのはほぼ確定みたいところありますけど。

いざそういうことになったとして……下品なんですけど、その……フフ………息子
が、臨戦態勢、とつてくれるかどうかの問題が付きまとうわけですよ。

いやー出来るかなあ!? お馬さんとSEXY出来るかなあ!? やれば出来る!? や
かましいわ! いざとなったらひとりでできるもん!? 俺馬だから出来ねーつつつて
んだろバカタレがよ!!

………とまあ、最近はこんな風に引退後の種牡馬生活に関して頭を悩ませては現実
から全力で目を背ける生活が続けてるわけですが。

(兄貴ってなんでそうメスに對して一歩引くのさ)

(どの馬にも縮こまるお前が言えた口かよ)

(別に他の奴といてなんか話す訳でもないし……)

(お前が積極的に絡みに行かないからだろ)

(うるさいなあ。人間に逃げてる兄貴に言われたくないし)

(言うようになったじゃねえかお前………おん?)

手の掛かる弟と何時ものように軽い口喧嘩をしている最中。

見学者用の駐車スペースに、覚えのあるエンジン音が停まったのを聞いた。

「さ、着いたぞ」

目当ての場所に着いた私は、駐車場で車のサイドブレーキを引き、エンジンを止めた。

「……………」

「……………ほら、降りよう」

バックミラー越しに、後部座席に座った彼女を見るが、相変わらず聞こえているのかいないのか分からないほど、遠い目で窓の外を見てだんまりを決め込んでいた。

いや、聞いてはいるのだろう。現にえらくゆっくりとではあるが、緩慢にシートベルトを外しているのだから。私に対して何も言わないのは、半ば当て付けというか、八つ当たりのようなものだろう。

私は御簾納高徳みすのたかのりとある企業の社長を務めている。

先代であつた父からこの企業を受け継ぎ、現在私で三代目だ。地域の隙間に上手いこと潜り込み、仕事に困ることはない。

主な業務は現場作業の備品を仕入れ、販売する小売業だ。

土木から医療、自動車整備に事務文房具までなんでもござれ。困った時はウチに聞い

てください。痒いところに手が届く、そんな言葉をモットーに今まで誠実にやってきました。

最近ではPCパーツなども取り扱い始め、通販売上も快調に伸びている。時代と共にニーズを調べ、柔軟に対応したお陰で業績はここ数年右肩上がりだ。

そんな私だが、最近馬主というものを始めた。この国では競走馬を購入、所有するのが一流企業経営者としての一種のステータスのようなところがある。

が、手前味噌にもウチは一流とは言えないし、私自身競馬というものにこれといって興味はなかった。精々父が仕事の付き合いで少々金を落としていたぐらいだろうか。当然馬に関してほとんど知識がないし、所有すること自体に興味を見出だせもしなかった。

何故そんな私が馬主になったか。言ってしまうえば「流されて」だ。私の知人にも馬主に熱をあげる者は何人かいるが、その中の一人に日頃から世話になっている人がいたのだ。

その人はとにかく馬という生き物が大好きで競馬も大好き。もはや馬主をやるために仕事をしているといっても過言ではないほどにノーホース・ノーライフな人である。

特に私の二代前……つまり初代社長であり初代会長である私のお祖父さんとは、私の父と変わらぬ歳でありながら、互いに業績を競いあうライバルであり、酒を交わす友でもあった。その関係で彼とは家族ぐるみの付き合いがある。

その彼に、一年前のある日突然「高德君、馬主になってみる気はないか？」と言われたのだ。

正直馬云々には興味がなかったが、普段からの付き合いもあり断りきれず、ひとまず一頭だけ所有するということになってしまった。

当然だが審美眼……この場合相馬眼と言うのだったか。そんなものを持ち合わせているわけもなく、彼のアドバイスに従うがまま子馬を一頭購入した。

そんな適当に買った……後々聞いた奇行が面白く、その場のノリで付けた「ウツドストック」という名前の馬が、まさかGIレースを勝ってしまうとは、あの時はまったく思わなかった。

「ごめんください……」

「あーどうも御簾納さん、ご無沙汰しております」

「いやいやこちらこそ、ウツドが世話になってます。どうですかアイツは」

「弟のオルフェーヴル号と放牧に出してますよ。いやあ皐月賞は熱かったですねえ、あんな大激戦滅多にみれるもんじゃない」

「私も競馬はド素人ですが、あのレースは手に汗握りましたよ。少し面白さが分かってきました」

「ウツドストックを担当している厩務員の男性と出会い、言葉を交わす。面白さが分かって来たというのは本心だった。」

「……………おや、そちらの子は？」

「娘の菜摘なつみです。今年中学生になったばかりで……ホラ、挨拶しなさい」

「……………」

私が挨拶を促しても、彼女は無言のまま会釈したきり、一言も言葉を発しなかった。

「……………すみませんね、今ちよつと気むずかしくて」

「ハハハ……………まああれぐらいの歳の子にはよくあることですよ。早速ウツドのところに行きますか？」

「ええ、是非。ほら菜摘、行くぞ」

「……………」

返事はないか。気分転換になるかと思つたが、如何せん年頃の娘が何をすれば喜ぶのかなんて知らないからなあ。

顧客の笑顔だったら今まで数えきれんほど見てきたというのに。一番見たいものが見れんとは皮肉なものだ。

……………それも、今まで家族サービスを疎かにしてきた私への罰なのだろうか。妻を亡くした私には、母を亡くした娘の気持ちに分からない。

「ブモ——ツ!! (タカノリ——ツ!!)」

「んぶぶつ、アハハハツ! こらウツド舐めない、やめなさいこーらつ、んぶぶ」

「ブモモモモモモモ! (久しぶりじゃねーかタカノリ! 元氣してたかタカノリ! 遊ぼうぜタカノリ! ちよつと痩せたかタカノリ!? 飯食ってるかタカノリ!?)」

「あててててつ、こら噛まない噛まない、アハハハハ」

「ポポポポポポ (んほお〜タカノリの頭皮柔らかいナリイ〜)」

「ブルツ…… (兄貴ちよつと氣持ち悪いよ……)」

「ブモツ (お前あとでケツ蹴り飛ばす)」

「ヒヒツ!? (理不尽すぎない!?)」

誰かと思えば俺のオーナー馬主でいらつしやるタカノリくんねえのお。あんれまア〜まんずまんずよう来だなや、にんじん食つでぐかい?

ここ数カ月ぐらい顔見せに來なかつたから俺に飽きたのかと思つたじゃあないの、久々に顔みたら嬉しくて顔ペ口からの頭甘噛み決めちまつたぜ。なんか髪薄くなつた

?

「相変わらずだなあお前は」

「本当に高德さんにも懐いてますよねえ。ここ数日で一番テンション高いですよ」

「そうなんですか？ お前かわいいなあホントに」

「ヒヒッ！ ブモモッ！（おうとも！ もっとめでるがよい！）」

タカノリって俺の前世でいうモ〇タロウみたいな会社経営してるんだっけ？ そりゃあまあ忙しくなるときもあるよね。腐つても元社会人よ俺は、理解あるムーヴ出来ますよ。

でもそれはそれとして寂しかったわ！ もうちよつと会いに来る頻度増やしてくれてもいいんじゃないの!? あなた私と仕事どっちが大事なの!? 今年も海見に行くつて！ 映画もいっぱい見るつて！ 約束したじゃない！ あなた約束したじゃない！ した覚えねーけど！ そもそも俺馬だから行けねーけど！

あ、そこそこ、タカノリその目の下辺り搔いて。ああ〜至福。思わず唇めくれちゃうわ。

「ハハハッ、お前ホント変顔好きだなあ……………ほら、菜摘も触ってごらん」

んお？　　そういやさつきから気になってたけど、そつちのお嬢ちゃんとは初めましてだね？　　ナツミちゃんっていうんだ。ブモブモツ、ボクわるいうまじやないよ。

「……………いい。別に馬とか好きじゃないし」

ハハハそつかー別に好きじゃないし馬とか好きじゃないし

!!?!?!?!?

(マジか……………兄貴がフラれんの初めて見た)

(好きじゃない……………好きじゃない？　　え、なに俺好かれてないの？　　実は皆嫌々俺に接してたの？　　俺好かれなない運命なの？　　好かれなかつたら俺の存在意義って何？　　は

?　　無理死のう)

(シヨック受けすぎでしょ……………)

「そうか……かわいいのにな」

「どうせギャンブルに使われるんでしょ……人間の都合で。かわいそうに」

「それは……まあ、そうだが………」

「お母さんそっちのけで馬にばかり構ってたんでしょ……」

「菜摘」

「本当のコトじゃん!! なに馬主って!? 私達はほつといて馬にばかり構って!!」

「やめなさい!!」

「ッ、知らない!!」

「あつ、コラ菜摘!!」

……………行ってしまった。なんか随分家庭内のことで問題抱えてらっしゃったのね
タカノリ。

あから、タカノリも行っちゃった。まあそりゃ年頃の娘さんがどっか行ったら心配にもなりますわな。しょうがねえっちゃしょうがねえけども。

「こりやあ大変だ。立入禁止に入らなきやいいが……ウツド、またあとでな」
 「ヒヒツ（あいよ〜）」

おっちゃんも行つちまった。やれやれ人間つてのは忙しなくていけねえや。

（にしても変わった人間だったね。あれ隣の奴が父親でしょ？ 随分反抗的じゃん）

（あの年頃の間人は色々と難しいらしいからな。てかそれに関しちやお前はあの子の事
 言えないと思うぞ）

（えっ、普段の僕あんなだった？）

（いやあれより質悪い）

（ええ!?!）

なに驚いてんだこいつ……基本クソビビりで他の馬にもいじめられるし厩務員のおっちゃんにも心開かねえし調教は嫌がるし。今のところあの親父の息子で俺の全弟つてことでまだ期待されてるが、普段わりと大人しいこと以外あんま良いとこねえぞ。

こんな調子で本当に未来の三冠馬になれるのかね？ 史実じゃそうなたけど、俺と

いう畜生道落ちの馬もどきがガツツリ関わってる時点でもう史実との解離は相当だろうし。大丈夫なのかしら、お兄さん心配だわ。

(なんで走りまで人間に指示されなきゃいけないんだよ……好きに走りたいのに)

(競走馬に生まれた時点で諦める。というかお前もうすぐゲート試験だろ？ 今さらだよ)

(そうそうアレ何!? なんであんなクツソ狭いとこ入んなきゃなんないのさ!? 聞く音もうるさいしさあ!?) 合図でよいドンじゃダメなの!?)

(俺も詳しくは知らねえが競馬ってそんなもんだしな……いやはや出来の悪い弟を持つと苦労するぜえ)

(アレを一発で合格した兄貴の方がおかしいんだからね!? 僕と一緒にやってる奴ら大体僕と一緒にぐらいだからね!?)

(おやおや言い訳とはお見苦しい)

(その上から目線めちやくちや腹立つ……)

(実際立場は上だもーん)

(マジでコイツだきやア………ッ!!)

へへーんだ、悔しかったら一回でも併せ馬で俺に勝つてみやがれってんでい。まあデビューもまだのひよっこことクラシックレース一冠獲つて三冠馬予定のワガハイでは天と地ほどに差がありますがねえガハハ！

(頭キタ!! 蹴り飛ばしてやるから表出ろクソ兄貴!!)

(おやおやおルフエくんおこななの? ねえねえおこななの? ていうか今ここが表ですけどそんなものも分かんないぐらいおこおこぶんぶんなっちゃってんのおく??)

(えーえーそうですともぶちギレですともいいからはよついで来やがれ下さいクソボケ野郎!!)

(へいへい、そう殺気立つなよ)

(誰の所為だと……………!)

まあ俺が煽り倒した所為ですよねごめんねオルフエくん。でもこのぐらいしないと君また調教イヤイヤするでしょ? 君もうデビューまであんまり時間ないんだから、俺なりに君の調教に協力して差し上げようというのだ。未来の三冠馬を俺も育てたいのだよ。そんであわよくば周りの馬に「アイツはワシが育てた」って後方師匠面したい。

そんな俺の馬鹿馬鹿しい企みを知る由もない愛しの弟は(レース勝ちまくってるか

らって調子乗りすぎなんだよ……)とぶつぶつ文句を言いながら走りやすいところへ移動していく。それにしてもオルフェのやつこんな苛烈な性格だったっけ? いや俺の教育の賜物か。

ま、強くなつて欲しいってのは100%本音だしな。弟の為に一肌でも二肌でも脱いであげましょうとも。